TOSHIBA
Leading Innovation >>>

2 いろいろな機能を使おう

パソコンを使いこなそう

この本の読みかた

本書は、次の7つの章と付録で構成されています。
奇数ページの右端と偶数ページの左端には、各章のマークをつけてあります。
マークは章ごとに一段ずつ下げてあるので、目的の章を検索するときにご利用ください。

1章　パソコンの基本操作を覚えよう

パソコンの各部の名前から始まり、パソコン本体に用意されているボタンやスロット、さまざまな機能について説明しています。

2章　ネットワークの世界へ

パソコンを外の世界と結ぶネットワーク。
ネットワークへの接続方法について説明しています。

3章　周辺機器を使って機能を広げよう

パソコン本体に用意されているコネクタにいろいろな機器をつないで、機能を広げることができます。本パソコンにはどんなコネクタが用意されていて、どんな機器が接続できるのかを説明しています。

4章　バッテリー駆動で使う

屋外やテラスなど、電源コンセントがない場所で使用するために、本パソコンにはバッテリー駆動の機能が用意されています。バッテリー駆動で使用するための充電方法や、バッテリーの交換手順を説明しています。

5章　システム環境の変更

パソコンのシステム構成を変更するBIOSセットアップの操作方法を説明しています。

6章　パソコンの動作がおかしいときは

なんだか動きがおかしい、故障？と思うようなとき、また使用上困ってしまってどうしようもないときなどのトラブル解消方法を紹介しています。

7章　お問い合わせされるときは

本製品に用意されているアプリケーションなどのお問い合わせ先を掲載しています。

付録

本製品を使用するにあたってのお願いと、技術基準適合、無線LANなどについて記しています。

1章
2章
3章
4章
5章
6章
7章
付録

もくじ

5章　システム環境の変更 85

6章　パソコンの動作がおかしいときは 103

はじめに

本製品を安全に正しく使うために重要な事項が、付属の冊子『安心してお使いいただくために』に記載されています。
必ずお読みになり、正しくお使いください。
お読みになったあとは、いつでも見られるようにお手元に大切に保管してください。
本書は、次の決まりに従って書かれています。

1 記号の意味

記号	意味
⚠危 険	“取扱いを誤った場合、使用者が死亡または重傷（＊1）を負うことがあり、その切迫の度合いが高いこと”を示します。
⚠警 告	“取扱いを誤った場合、使用者が死亡または重傷（＊1）を負うことが想定されること”を示します。
⚠注 意	“取扱いを誤った場合、使用者が傷害（＊2）を負うことが想定されるか、または物的損害（＊3）の発生が想定されること”を示します。
お願い	データの消失や、故障、性能低下を起こさないために守ってほしい内容、仕様や機能に関して知っておいてほしい内容を示します。
メモ	知っていると便利な内容を示します。
役立つ操作集	知っていると役に立つ操作を示します。
参照	このマニュアルやほかのマニュアルへの参照先を示します。 このマニュアルへの参照の場合…「　」 ほかのマニュアルへの参照の場合…『　』 パソコンで見るマニュアルへの参照の場合…《　》 《パソコンで見るマニュアル（検索）：XXXX》と書いている場合、《パソコンで見るマニュアル》の［キーワード検索］に「XXXX」を入力すると、目的のページを検索できます。 パソコンで見るマニュアルにはさまざまな情報が記載されています。

＊1 重傷とは、失明やけが、やけど（高温・低温）、感電、骨折、中毒などで、後遺症が残るものおよび治療に入院・長期の通院を要するものをさします。

＊2 傷害とは、治療に入院や長期の通院を要さないけが・やけど・感電などをさします。

＊3 物的損害とは、家屋・家財および家畜・ペット等にかかわる拡大損害をさします。

2 用語について

本書では、次のように定義します。

システム

特に説明がない場合は、使用しているオペレーティングシステム（OS）を示します。本製品のシステムはWindows 7です。

アプリケーションまたはアプリケーションソフト

アプリケーションソフトウェアを示します。

WindowsまたはWindows 7

特に説明がない場合は、Windows® 7 Home Premiumを示します。

パソコンで見るマニュアル

パソコン上で見ることのできる、電子マニュアル「パソコンで見るマニュアル」を示します。
デスクトップ上の［おたすけナビ］アイコンをダブルクリック→［パソコンで見るマニュアル］タブの［パソコンで見るマニュアルTOP］ボタンをクリックして起動します。

ドライブ

ブルーレイディスクドライブを示します。

参照 詳細について「1章 4 CD／DVD／ブルーレイディスクを使う」

BD

ブルーレイディスクを示します。

FeliCaポート内蔵モデル

FeliCaポートを内蔵しているモデルを示します。

TVチューナー内蔵モデル

TVチューナーを内蔵しているモデルを示します。リモコンが付属しています。

ご購入のモデルの仕様については、『dynabook ＊＊＊＊（お使いの機種名）シリーズをお使いのかたへ』を確認してください。

3 記載について

- 記載内容によっては、一部のモデルにのみ該当する項目があります。その場合は、「用語について」のモデル分けに準じて、「＊＊＊＊モデルの場合」や「＊＊＊＊シリーズのみ」などのように注記します。
- インターネット接続については、ブロードバンド接続を前提に説明しています。
- アプリケーションについては、本製品にプレインストールまたは内蔵ハードディスクや付属のCD／DVDからインストールしたバージョンを使用することを前提に説明しています。
- 本書に記載している画面やイラストは一部省略したり、実際の表示とは異なる場合があります。
- 本書では、コントロールパネルの操作方法について表示方法を「カテゴリ」に設定していることを前提に説明しています。画面右上の［表示方法］が「大きいアイコン」または「小さいアイコン」になっている場合は、「カテゴリ」に切り替えてから操作説明を確認してください。
- 本書は、語尾をのばすカタカナ語の表記において、語尾に長音（ー）を適用しています。
  画面の表示と異なる場合がありますが、読み換えてご使用ください。

4 Trademarks

- Microsoft、Windows、Windows Live、Windows Media、Aero、Excel、MSN、OneNote、Outlook、PowerPoint、SkyDriveは、米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標または商標です。
- Windowsの正式名称は、Microsoft Windows Operating Systemです。
- Intel、インテル、インテル Core、Celeronは、アメリカ合衆国およびその他の国におけるIntel Corporationまたはその子会社の商標、または登録商標です。
- パーソナルシェルター、ATOKは、株式会社ジャストシステムの登録商標です。
- シンプルログオン、スクリーンセーバーロック2、パーソナルシェルター、かんたん登録2、かざして転送［テキスト］、かざして転送［画像］、ATOKは、株式会社ジャストシステムの著作物であり、著作権、その他の権利は株式会社ジャストシステムおよび各権利者に帰属します。
- MagicGate、メモリースティック、メモリースティックロゴ、メモリースティック デュオ、メモリースティックPRO、メモリースティックPRO デュオは、ソニー株式会社の商標です。
- SDロゴは商標です。（ ）
- SDHCロゴは商標です。（ ）
- SDXCロゴは商標です。（ ）
- xD-ピクチャーカード™は、富士写真フイルム株式会社の商標です。
- i.LINK、i.LINKロゴは商標です。
- HDMIおよびHigh-Definition Multimedia Interfaceは、HDMI Licensing LLC. の登録商標または商標です。
- LaLaVoice、ConfigFree、おたすけナビは、株式会社東芝の登録商標または商標です。
- 「駅探」は登録商標です。
- Adobe、Adobe ReaderはAdobe Systems Incorporated（アドビ システムズ社）の米国ならびに他の国における商標ならびに登録商標です。
- Corel、Corelのロゴ、Digital Studio、DVD MovieWriter、WinDVDはCorel Corporationおよびその関連会社の商標または登録商標です。

- McAfee、SiteAdvisorおよびマカフィーは米国法人McAfee, Inc. またはその関係会社の登録商標です。
- TRENDMICRO、ウイルスバスターはトレンドマイクロ株式会社の登録商標です。
- 「PC引越ナビ」は、東芝パソコンシステム株式会社の商標です。
- Javaはサンマイクロシステムズ社の米国および他の国における登録商標または商標です。
- Google ツールバーはGoogle Inc.の登録商標です。
- FlipBook、FlipViewerはE-Book Systems,Inc.の登録商標です。
- デジタルアーツ/DIGITAL ARTS、ZBRAIN、アイフィルター/i-フィルターはデジタルアーツ株式会社の登録商標です。
- FeliCaは、ソニー株式会社の登録商標です。
- FeliCaは、ソニー株式会社が開発した非接触ICカードの技術方式です。
- は、フェリカネットワークス株式会社の登録商標です。
- ICOCAは西日本旅客鉄道株式会社の登録商標です。
- ㈱パスモ商標利用許諾済　第57号
- ㈱パスモの都合により予告なくPASMOカードが交換されることがあります。
- 【JR東日本Suica利用承認第18号】
  ※Suicaは東日本旅客鉄道株式会社の登録商標です。
  ※当該商品は、東日本旅客鉄道株式会社が本商品・サービスの内容・品質を保証するものではありません。
  ※東日本旅客鉄道株式会社の都合により、予告なくSuicaカードが交換されることがあります。
- FeliCa Secure Client、SFCard Viewer、FeliCaブラウザエクステンション、FeliCaポート自己診断は、ソニー株式会社の著作物であり、FeliCa Secure Client、SFCard Viewer、FeliCaブラウザエクステンション、FeliCaポート自己診断にかかる著作権、その他の権利はソニー株式会社および各権利者に帰属します。
- 「Near Field Rights Management」、「NFRM」および「カザスチャンネル」は、日本国内におけるフェイスの商標または登録商標です。
- 「Edy（エディ）」は、ビットワレット株式会社が管理するプリペイド型電子マネーサービスのブランドです。
- CyberLink、SoftDMAは、CyberLink Corp.の米国およびその他の国における登録商標または商標です。
- Super LoiLoScope は、株式会社LoiLoの著作物であり、著作権、その他の権利は株式会社LoiLo 及び各権利者に帰属します。

本書に掲載の商品の名称やロゴは、それぞれ各社が商標および登録商標として使用している場合があります。

5 プロセッサ（CPU）に関するご注意

本製品に使われているプロセッサ（CPU）の処理能力は次のような条件によって違いが現れます。

- 周辺機器を接続して本製品を使用する場合
- ACアダプターを接続せずバッテリー駆動にて本製品を使用する場合
- マルチメディアゲームや特殊効果を含む映像を本製品にてお楽しみの場合
- 本製品を通常の電話回線、もしくは低速度のネットワークに接続して使用する場合
- 複雑な造形に使用するソフト（たとえば、運用に高性能コンピューターが必要に設計されているデザイン用アプリケーションソフト）を本製品上で使用する場合
- 気圧が低い高所にて本製品を使用する場合
  目安として、標高1,000メートル（3,280フィート）以上をお考えください。
- 目安として、気温5～30℃（高所の場合25℃）の範囲を超えるような外気温の状態で本製品を使用する場合

本製品のハードウェア構成に変更が生じる場合、CPUの処理能力が実際には仕様と異なる場合があります。
また、ある状況下においては、本製品は自動的にシャットダウンする場合があります。これは、当社が推奨する設定、使用環境の範囲を超えた状態で本製品が使用された場合、お客様のデータの喪失、破損、本製品自体に対する損害の危険を減らすための通常の保護機能です。なお、このようにデータの喪失、破損の危険がありますので、必ず定期的にデータを外部記録機器にて保存してください。また、プロセッサが最適の処理能力を発揮するよう、当社が推奨する状態にて本製品をご使用ください。

■64ビットプロセッサに関する注意

64ビット対応プロセッサは、64ビットまたは32ビットで動作するように最適化されています。
64ビット対応プロセッサは以下の条件をすべて満たす場合に64ビットで動作します。

- 64ビット対応のOS（オペレーティングシステム）がインストールされている
- 64ビット対応のCPU/チップセットが搭載されている
- 64ビット対応のBIOSが搭載されている
- 64ビット対応のデバイスドライバーがインストールされている
- 64ビット対応のアプリケーションがインストールされている

特定のデバイスドライバーおよびアプリケーションは64ビットプロセッサ上で正常に動作しない場合があります。
プレインストールされているOSが、64ビット対応と明示されていない場合、32ビット対応のOSがプレインストールされています。

このほかの使用制限事項につきましては取扱説明書をお読みください。また、詳細な情報については東芝PCあんしんサポートにお問い合わせください。

6 著作権について

音楽、映像、コンピューター・プログラム、データベースなどは著作権法により、その著作者および著作権者の権利が保護されています。こうした著作物を複製することは、個人的にまたは家庭内で使用する目的でのみ行うことができます。上記の目的を超えて、権利者の了解なくこれを複製（データ形式の変換を含む）、改変、複製物の譲渡、ネットワーク上での配信などを行うと、「著作権侵害」「著作者人格権侵害」として損害賠償の請求や刑事処罰を受けることがあります。本製品を使用して複製などをする場合には、著作権法を遵守のうえ、適切な使用を心がけてください。

7 リリース情報について

「リリース情報」には、本製品を使用するうえでの注意事項などが記述されています。必ずお読みください。次の操作を行うと表示されます。

① ［スタート］ボタン（ ）→［すべてのプログラム］→［はじめに］→［リリース情報］をクリックする

8 お願い

- 本製品の内蔵ハードディスクにインストールされている、または付属のCD／DVDからインストールしたシステム（OS）、アプリケーション以外をインストールした場合の動作保証はできません。
- Windows標準のシステムツールまたは『準備しよう』に記載している手順以外の方法で、パーティションを変更・削除・追加しないでください。ソフトウェアの領域を壊すおそれがあります。
- 内蔵ハードディスクにインストールされている、または付属のCD／DVDからインストールしたシステム（OS）、アプリケーションは、本製品でのみ利用できます。
- 購入時に定められた条件以外で、製品およびソフトウェアの複製もしくはコピーをすることは禁じられています。取り扱いには注意してください。
- パスワードを設定した場合は、忘れたときのために必ずパスワードを控えておいてください。パスワードを忘れてしまって、パスワードを解除できなくなった場合は、使用している機種（型番）を確認後、東芝PCあんしんサポートに連絡してください。有料にてパスワードを解除します。HDDパスワードを忘れてしまった場合は、ハードディスクドライブは永久に使用できなくなり、交換対応となります。この場合も有料です。またどちらの場合も、身分証明書（お客様自身を確認できる物）の提示が必要となります。
- 本製品はセキュリティ対策のためのパスワード設定や、無線LANの暗号化設定などの機能を備えていますが、完全なセキュリティ保護を保証するものではありません。セキュリティの問題の発生や、生じた損害に関し、当社はいっさいの責任を負いません。
- 本製品のセキュリティロック・スロットおよび接続するセキュリティケーブルは盗難を抑止するためのものであり、万が一発生した盗難事故の被害について、当社はいっさいの責任を負いません。

- 「ウイルスバスター」を使用している場合、ウイルス定義ファイルおよびファイアウォール規則などは、新種のウイルスやワーム、スパイウェア、クラッキングなどからコンピューターを保護するためにも、常に最新のものにアップデートする必要があります。最新版へのアップデートは、ご使用開始から90日間に限り無料で行うことができます。90日を経過するとウイルスチェック機能を含めて、すべての機能がご使用できなくなります。ウイルスチェックが全く行われない状態となりますので、必ず期限切れ前に有料の正規サービスへ登録するか、市販のウイルスチェック／セキュリティ対策ソフトを導入してください。
- ご使用の際は必ず本書をはじめとする取扱説明書と『エンドユーザー使用許諾契約書』および『ソフトウェアに関する注意事項』をお読みください。
- アプリケーション起動時に使用許諾書が表示された場合は、内容を確認し、同意してください。使用許諾書に同意しないと、アプリケーションを使用することはできません。一部のアプリケーションでは、一度使用許諾書に同意すると、以降起動時に使用許諾書は表示されなくなります。リカバリーを行った場合には再び使用許諾書が表示されます。
- 指紋認証機能は、正しくお使いいただいた場合でも、個人差により指紋情報が少ないなどの理由で、登録・使用ができない場合があります。
- 指紋認証機能は、データやハードウェアの完全な保護を保証しておりません。本機能を利用したことによる、いかなる障害、損害に関して、いっさいの責任は負いかねますので、ご了承ください。
- 『東芝保証書』は、記入内容を確認のうえ、大切に保管してください。

本製品のお客様登録（ユーザー登録）をあらかじめ行っていただくようお願いしております。当社ホームページで登録できます。

参照 詳細について『準備しよう 6章 1 お客様登録の手続き』

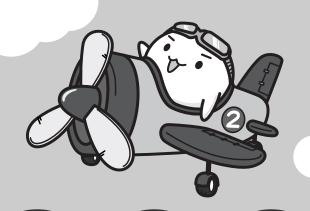
9 [ユーザー アカウント制御] 画面について

操作の途中で［ユーザーアカウント制御］画面が表示された場合は、そのメッセージを注意して読み、開始した操作の内容を確認してから、画面の指示に従って操作してください。
パスワードの入力を求められた場合は、管理者アカウントのパスワードで認証を行ってください。

1章

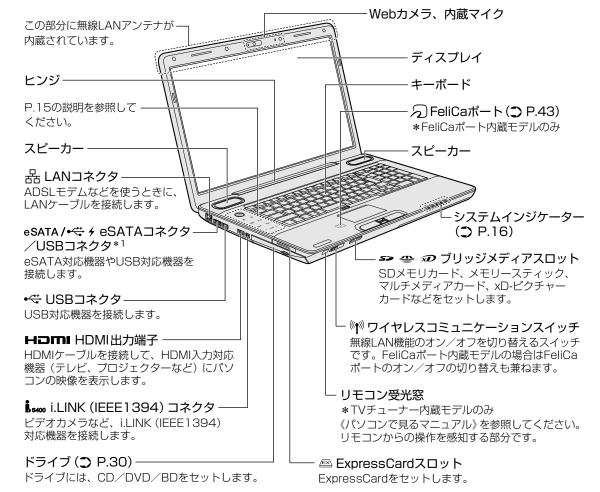
パソコンの基本操作を覚えよう

このパソコン本体の各部について、役割、基本の使いかたなどを説明しています。

1 各部の名称
― 外観図 ―

ここでは、各部の名前と機能を簡単に説明します。
それぞれについての詳しい説明は、各参照ページや各マニュアルを確認してください。

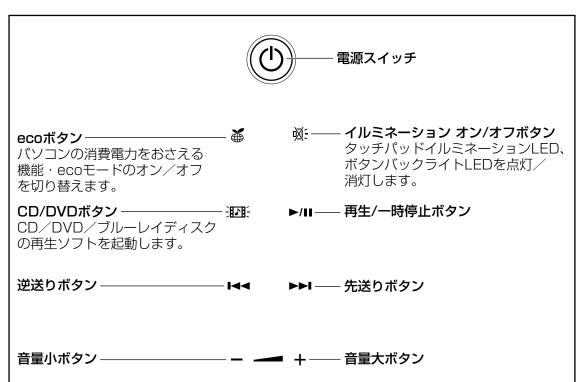
お願い　外観図について

- 本製品に表示されている、コネクタ、LED、スイッチのマーク（アイコン）、およびキーボード上のマーク（アイコン）は最大構成を想定した設計となっています。ご購入いただいたモデルによっては、機能のないものがあります。ご購入のモデルの仕様については、『dynabook ＊＊＊＊（お使いの機種名）シリーズをお使いのかたへ』を確認してください。

1 前面図

＊1　設定を行うと、パソコン本体の電源が入っていない状態でも、USBコネクタから外部機器に電源を供給することができます。

参照 USBの常時給電について
「3章 3 - USBの常時給電」、「付録 1 - 5 - USBの常時給電について」

1 電源スイッチ・ボタン

パソコンでDVDを見たり音楽を聴いたりするとき、ボタンを使用すると簡単に操作することができます。

ボタンの操作方法

操作するボタンを、指で押してください。押したボタンに割り当てられている機能を実行します。ボタンに割り当てられている機能は「東芝ボタンサポート」で変更できます。詳しくは、《パソコンで見るマニュアル（検索）：ボタン設定を変更する》を参照してください。

ボタン機能

それぞれのボタンの機能は、《パソコンで見るマニュアル（検索）：ボタン操作一覧》を参照してください。

2 システムインジケーター

システムインジケーターは、点灯状態によって、パソコン本体がどのような動作をしているのかを知ることができます。

	DC IN LED	電源コード接続の状態 参照 『準備しよう 1章 4-3- 電源に関する表示』
	Power LED	電源の状態 参照 『準備しよう 1章 4-3- 電源に関する表示』
	Battery LED	バッテリーの状態 参照 P.78
	Disk LED	内蔵ハードディスクやドライブ、eSATA対応機器などにアクセスしている 参照 P.26
	ブリッジメディアLED	ブリッジメディアスロットにアクセスしている 参照 P.39

2 背面図

タッチパッド、右ボタン、左ボタン、
タッチパッド オン/オフボタン（ P.19）、
指紋センサー（ P.92）
セキュリティロック・スロット
盗難を抑止するためのセキュリティケーブルを接続できます。
セキュリティケーブルは、本製品に対応しているものをご利用ください。
詳しくは販売店などに確認してください。
DC IN XXV 電源コネクタ
『準備しよう 1章 3 - 2 電源コードとACアダプターを接続する』を参照してください。
RGBコネクタ
外部ディスプレイと接続して、パソコンの映像を外部ディスプレイに表示します。
TV アンテナ入力端子
＊TVチューナー内蔵モデルのみ
『映像と音楽を楽しもう 1章 3 - 3 アンテナケーブルの接続』を参照してください。
USBコネクタ
USB対応機器を接続します。
マイク入力端子
マイクロホンを接続します。
ヘッドホン出力端子／
光デジタルオーディオ出力端子／
オーディオ出力端子
ヘッドホンやMDコンポや外部オーディオ機器などを接続します。

3 裏面図

お願い 本製品の裏面について

- 通風孔は、パソコン本体内部の熱を外部に逃がすためのものです。
  通風孔を通して外の空気を取り込んだり、内部の空気を排出したりすることでパソコン内部に熱がこもるのを防いでいます。
  通風孔をふさがないでください。
- 本製品の裏面には、正規のWindowsであることを証明する、Microsoft®の「Certificate of Authenticity」というラベルが貼ってあります。
  はがしたり汚したりしないでください。

お願い 機器への強い衝撃や外圧について

- あらかじめ、「付録 1 - 1 - 機器への強い衝撃や外圧について」を確認してください。

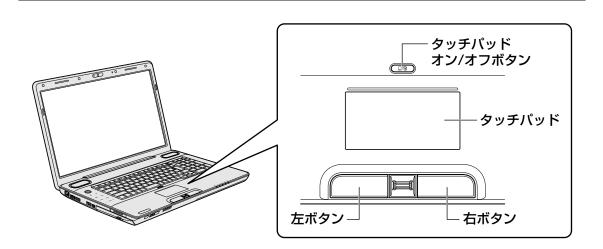
2 ポインターを動かす／文字キーを使う
ータッチパッドとマウスとキーボードー

1 タッチパッドで操作する

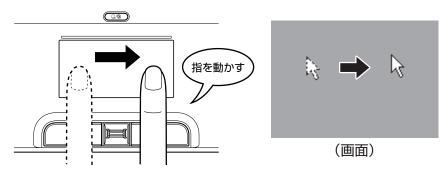
電源を入れてWindowsを起動すると、パソコンのディスプレイに が表示されます。この矢印を「ポインター」といい、操作の開始位置を示しています。この「ポインター」を動かしながらパソコンを操作していきます。
パソコン本体には、「ポインター」を動かすタッチパッドと、操作の指示を与える左ボタン／右ボタンがあります。

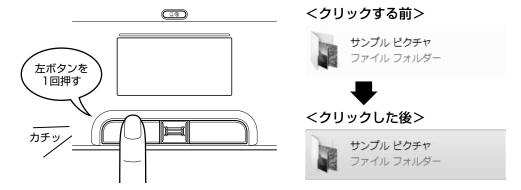
タッチパッドと左ボタン／右ボタンを使ってポインターを動かし、パソコンを操作してみましょう。
ここでは、タッチパッドと左ボタン／右ボタンの基本的な機能を説明します。

お願い タッチパッドの操作にあたって

- あらかじめ、「付録 1 - 1 - タッチパッドの操作にあたって」を確認してください。

1 矢印（ポインター）を動かす

操作を始める位置を示す矢印（ポインター）は、タッチパッドに置いた指の方向に合わせて動きます。指を上下左右に動かしてみましょう。
指がタッチパッドの端まできてしまい、それ以上動かせなくなったときは、いったん指をはなしてから、タッチパッドの中央に置き直して操作します。

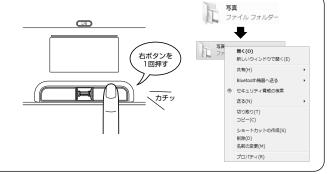
（画面）

2 アイコンを選択する

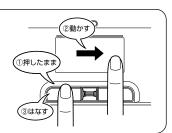
アイコン、文字などを選択するには、ポインターを目的のアイコンや文字などの位置に合わせて、左ボタンを1回押します（クリック）。
アイコンなどを選択すると、色が変わります。

役立つ操作集

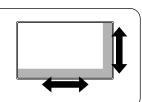
ダブルクリックする

ダブルクリックすると、ファイルを開いたりアプリケーションを起動できます。
ポインターを目的の位置に合わせて、左ボタンをすばやく2回押します。

右クリックする

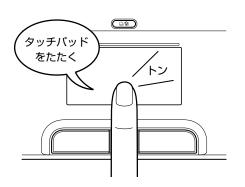
右クリックすると、メニューが表示され、そこから行いたいことをクリックして選択できます。ポインターを目的の位置に合わせて、右ボタンを1回押します。

ドラッグアンドドロップする

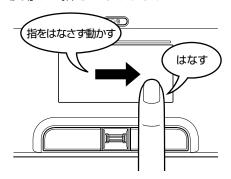
ドラッグアンドドロップをすると、アイコンやウィンドウを移動したり、複数の文字やアイコンを選択したりできます。ポインターを目的の位置に合わせて、左ボタンを押したまま①、別の指でタッチパッドを使ってポインターを動かします②（ドラッグ）。ポインターが目的の位置に移動したら、左ボタンから指をはなします③（ドロップ）。

スクロールする

スクロールとは画面を動かすことです。
スクロールすると画面に表示しきれない部分を見ることができます。
タッチパッドの右辺に指を置いて上下に動かすと、上下にスクロールします。
タッチパッドの下辺に指を置いて左右に動かすと、左右にスクロールします。

3 慣れてきたら

慣れてきたら、左ボタンを使わなくても、次のような基本的な操作ができます。

❏ クリック／ダブルクリック

タッチパッドを1回軽くたたくとクリック、2回たたくとダブルクリックができます。

❏ ドラッグアンドドロップ

タッチパッドを続けて2回たたき、2回目はタッチパッドから指をはなさずに目的の位置まで移動し、指をはなします。

タッチパッドの設定変更については、《パソコンで見るマニュアル（検索）：タッチパッドの設定》を参照してください。

2 マウスの使いかた

＊ マウス付属モデルのみ

マウスはタッチパッドの左ボタン／右ボタンと同じ働きをします。
モデルによっては、USB対応のレーザーマウスまたは光学式マウスが付属しています。ご購入のモデルのマウスの有無と種類については、『dynabook ＊＊＊＊（お使いの機種名）シリーズをお使いのかたへ』を確認してください。
マウスは、Windowsのセットアップが終わったあとに、USBコネクタに接続してください。

参照 マウスの接続について「3章 3 USB対応機器を使う」

⚠ 注 意

- レーザーマウスは、不可視のレーザー光を使用した「クラス1レーザー製品」です。
  底面のセンサー孔を直接のぞき込まないでください。
- マウス底面の光学式センサーの赤色などの光を直接見ないでください。
  目を痛めるおそれがあります。

メモ

- USB対応のマウスを接続したときに、タッチパッドによる操作が自動的に無効になるように設定することができます。

  参照 設定方法《パソコンで見るマニュアル（検索）：タッチパッドの設定》

マウスを使ってポインターを動かしたり、クリック、ダブルクリックなどをしてみましょう。

マウスの持ちかた

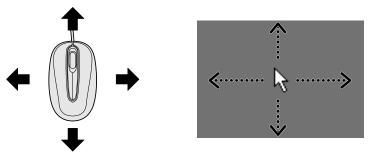
マウスを手のひらで包むように持ち、人さし指と中指を各ボタンの上に置きます。

マウスをうまく動かすポイント

マウスを動かす場所がなくなったときは、いったんマウスを持ち上げ、マウスを動かせる位置に戻します。

- **マウスパッドについて**
  付属のマウスの種類（レーザーまたは光学式）に対応したマウスパッドの使用を推奨します。対応していないものやマウスパッドの模様によっては、正常に動作しない場合があります。
- **レーザーマウスの使用場所**
  マウスは平らな場所で使用してください。
  また、ガラスなどの透明な素材、鏡などの光を反射する素材の上では使用しないでください。センサーがうまく動作しない場合があります。
- **光学式マウスの使用場所**
  マウスは平らな場所で使用してください。
  また、ガラスなどの透明な素材、鏡や光沢のあるビニールなどの光を反射する素材の上では使用しないでください。光学式センサーがうまく動作しない場合があります。

1 ポインターを動かす

滑らせるようにしてマウスを上下左右に動かします。ポインターがマウスの動きに合わせて動きます。

2 アイコンを選択する

ポインターを目的の位置に合わせて、左ボタンを1回押します（クリック）。

役立つ操作集

ダブルクリックする

ポインターを目的の位置に合わせて、左ボタンをすばやく2回押すことです。

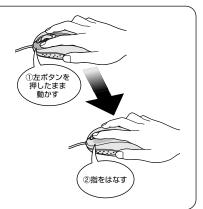
ダブルクリックするときは、マウスが動かないように固定した状態でボタンを押してください。

右クリックする

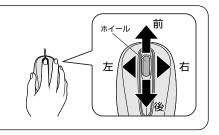
ポインターを目的の位置に合わせて、右ボタンを1回押すことです。

ドラッグアンドドロップする

ポインターを目的の位置に合わせて、左ボタンを押したまま、マウスを動かします①（ドラッグ）。

ポインターが目的の位置に移動したら、ボタンから指をはなします②（ドロップ）。

スクロールする

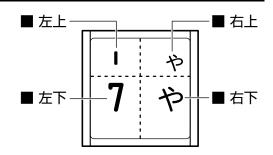
ホイールを前後にまわしたり、左右に傾けたりすると、画面をスクロールすることができます。

＊ 左右のスクロールは、横スクロール機能付マウスのみ可能です。

メモ　マウスについて

● アプリケーションによっては、ホイールを使ったスクロールに対応していない場合があります。

3 キーボードの文字キーの使いかた

文字キーは、文字や記号を入力するときに使います。

文字キーに印刷されている文字や記号は、キーボードの文字入力の状態によって変わります。

左上	ほかのキーは使わず、そのまま押すと、アルファベットの小文字などが入力できます。SHIFTキーを押しながら押すと、記号やアルファベットの大文字が入力できます。
左下	ほかのキーは使わず、そのまま押すと、数字や記号が入力できます。
右上	かな入力ができる状態でSHIFTキーを押しながら押すと、記号、ひらがなの促音(そくおん)（小さい「っ」）、拗音(ようおん)（小さい「ゃ、ゅ、ょ」）などが入力できます。
右下	かな入力ができる状態で押すと、ひらがなや記号が入力できます。

キーボードを使った文字や記号の入力操作の詳細については、『アシストシート』、《パソコンで見るマニュアル（検索）：キーボードの文字キーの使いかた》を参照してください。

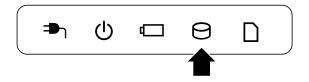
3 ハードディスクドライブ

本製品には、ハードディスクドライブが1台内蔵されています。
内蔵されているハードディスクドライブは、取りはずしできません。
USB接続型やeSATA接続型のハードディスクなどを使用して記憶容量を増やすことができます。

お願い **操作にあたって**

- パソコンを激しく揺らしたり、強い衝撃を与えると、故障の原因となる場合があります。
- その他の注意事項については、あらかじめ、「付録 1-2 ハードディスクドライブについて」を確認してください。

ハードディスクドライブに関する表示

内蔵のハードディスクやドライブ、eSATA接続型のハードディスクなどとデータをやり取りしているときは、Disk ⛁ LEDが点灯します。

ハードディスクに記録された内容は、故障や障害の原因にかかわらず保証できません。
万が一故障した場合に備え、バックアップをとることを推奨します。

1 東芝HDDプロテクションについて

「東芝HDDプロテクション」とは、パソコン本体に内蔵された加速度センサーにより落下・振動・衝撃およびその前兆を検出し、HDD（ハードディスクドライブ）が損傷する危険性を軽減する機能です。
パソコンの使用状況に合わせ、検出レベルを設定できます。
パソコン本体の揺れを検知すると、次のメッセージが表示されます。

メッセージを確認し、［OK］ボタンをクリックして、画面を閉じてください。
HDDのヘッドを退避しているとき、通知領域の［東芝HDDプロテクション］アイコン（ ）が（ ）に変わります。

＊通知領域にアイコンが表示されていない場合は、 をクリックしてください。

お願い **東芝HDDプロテクションの使用にあたって**

- あらかじめ、「付録 1 - 2 - 東芝HDDプロテクションの使用にあたって」を確認してください。

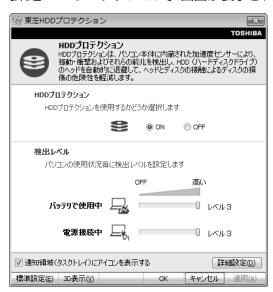
メモ

- 購入時の状態では、東芝HDDプロテクションがONに設定されています。
- パソコン起動時、スリープ、休止状態、および休止状態へ移行中と休止状態からの復帰中、電源を切ったときには、東芝HDDプロテクションは動作しません。パソコンに衝撃が加わらないようにご注意ください。
- 音楽や動画の再生中に、パソコン本体の揺れを検出してHDDのヘッド退避が行われた場合、再生中の音楽や動画が一時的に途切れることがあります。

設定方法

東芝HDDプロテクションでは、パソコンの使用状況に合わせて検出レベルを設定することができます。

1 ［スタート］ボタン（ ）→［すべてのプログラム］→［TOSHIBA］→［ユーティリティ］→［HDDプロテクションの設定］をクリックする

［東芝HDDプロテクション］画面が表示されます。

（表示例）

メモ　3D表示

- ［東芝HDDプロテクション］画面で［3D表示］ボタンをクリックすると、［3D表示］画面が表示され、パソコン本体の傾きや揺れに合わせて動く3Dオブジェクトを画面上に表示します。振動を検出し、HDDのヘッドを退避させている間は、画面に表示されているディスクの回転が停止し、ヘッド退避が解除されると、回転が再開します。
  ［3D表示］画面を終了する場合は、［閉じる］ボタンをクリックしてください。
- ［3D表示］画面の3Dオブジェクトは、パソコン本体に内蔵されたハードディスクを仮想的に表現したものであり、ハードディスクのディスクの枚数や、ディスクの回転、ヘッドの動作、各部品のサイズや形状、向きなどは実際のものとは異なります。
- ［3D表示］画面を表示した状態でほかの作業を行ったときに、CPUやメモリの使用率が高くなる場合があるため、パソコンの動作が遅くなることがあります。

2 各項目を設定する

設定項目は、次のとおりです。
東芝HDDプロテクションを「ON」に設定すると、電源（ACアダプター）接続時とバッテリー使用時でそれぞれ検出レベルを設定することができます。
たとえば、机上でパソコンを使う場合（電源接続中）にはレベルを上げておき、手で持って使うとき（バッテリーで使用中）にはレベルを下げる、といった使いかたができます。

項目	説明
HDDプロテクション	東芝HDDプロテクションの「ON」または「OFF」を設定できます。
バッテリーで使用中	「OFF」、「レベル1」、「レベル2」、「レベル3」のいずれかを選択できます。 「レベル3」が最も検出レベルが高いため、東芝HDDプロテクションを有効に使用するには、「レベル3」をおすすめします。 使用状況に応じてレベルを低く設定できます。＊1
電源接続中	

＊1 パソコンを手に持って操作したり、不安定な場所で操作した場合、頻繁に東芝HDDプロテクションが動作し、パソコンの応答が遅れることがあります。パソコンの応答速度を優先する場合は、レベルを下げて使用できます。

購入時の設定に戻したい場合は、［標準設定］ボタンをクリックしてください。
さらに詳細な設定が必要な場合は手順 3 へ、このまま設定を終了する場合は、手順 5 へ進んでください。

3 ［詳細設定］ボタンをクリックする

［詳細設定］画面が表示されます。

4 必要な項目をチェックし、［OK］ボタンをクリックする

設定項目は、次のとおりです。

項目	説明
ACアダプターを抜いたとき	検出レベル増幅機能を設定できます。パソコンが持ち運ばれる可能性が高いと想定し、約10秒間検出レベルを最大にします。
パネルを閉めたとき	
HDDプロテクション動作時メッセージを表示する	東芝HDDプロテクションが動作したときに、メッセージを表示するように設定できます。

5 ［東芝HDDプロテクション］画面で［OK］ボタンをクリックする

メモ

- 東芝HDDプロテクションの各設定は、通知領域の［東芝HDDプロテクション］アイコン（ ）をクリックし、表示されたメニューから項目を選択して行うこともできます。
  ＊ 通知領域にアイコンが表示されていない場合は、 をクリックしてください。

4 CD／DVD／ブルーレイディスクを使う －ドライブ－

本製品には、ブルーレイディスクドライブが内蔵されています。

＊マークの位置や並び順は異なる場合があります。

CD、DVD、ブルーレイディスクを使用できます。

『安心してお使いいただくために』に、CD／DVD／ブルーレイディスクを使用するときに守ってほしいことが記述されています。
CD／DVD／ブルーレイディスクを使用する場合は、あらかじめその記述をよく読んで、必ず指示を守ってください。
ブルーレイディスクドライブ、ブルーレイディスクについては、『安心してお使いいただくために』に記述されているDVDドライブ、DVDメディアについてと同様です。

1 使える記録メディアを確認しよう

使用できるCD／DVD／ブルーレイディスクの詳細と書き込み速度については、「付録 2 記録メディアについて」と《パソコンで見るマニュアル》の「パソコンの設定」にある「付録 CD／DVD／BDについて」を確認してください。
使用するメディアによっては、読み出しができない場合があります。

○：使用できる　×：使用できない

	読み出し*1	書き込み回数
CD-ROM	○	×
CD-R	○	1回
CD-RW	○	繰り返し書き換え可能*2
DVD-ROM	○	×
DVD-R*4	○*3	1回
DVD-RW	○	繰り返し書き換え可能*2
DVD+R*5	○*3	1回
DVD+RW	○	繰り返し書き換え可能*2
DVD-RAM	○	繰り返し書き換え可能*2
BD-ROM	○	×
BD-R*6	○	1回
BD-RE*7	○	繰り返し書き換え可能*2

＊1 対応フォーマットによっては再生ソフトが必要な場合があります。
＊2 実際に書き換えできる回数は、メディアの状態や書き込み方法により異なります。
＊3 メディアの状態や書き込み方法により、読み出しできない場合があります。DVD-R DLのみ追記されたデータは読み出しできません。
＊4 本書では、「DVD-R」と記載している場合、特に書き分けのある場合を除き、DVD-R DL（Dual Layer DVD-R）を含みます。
＊5 本書では、「DVD+R」と記載している場合、特に書き分けのある場合を除き、DVD+R DL（DVD+R Double Layer）を含みます。
＊6 本書では、「BD-R」と記載している場合、特に書き分けのある場合を除き、BD-R DL（Dual Layer）を含みます。
＊7 本書では、「BD-RE」と記載している場合、特に書き分けのある場合を除き、BD-RE DL（Dual Layer）を含みます。

メモ　書き込みできるアプリケーション

- 書き込みに使用できる、本製品に添付のアプリケーションは次のとおりです。
  アプリケーションにより、使用できるメディアは異なります。
  - TOSHIBA Disc Creator（トウシバ ディスク クリエイター）

    参照 『映像と音楽を楽しもう』の「オリジナル音楽CDを作る」、
    《パソコンで見るマニュアル（検索）：CD／DVDを作りたい》
  - Corel Digital Studio for TOSHIBA（コーレル デジタル スタジオ フォー トウシバ）

    参照 『映像と音楽を楽しもう』の「DVD／ブルーレイディスクを作成する準備」、
    「Corel Digital Studio」のヘルプ
- 記録メディアにデータを書き込むとき、記録メディアの状態やデータの内容、またはパソコンの使用環境によって、実行速度は異なります。

2 CD／DVD／BDを使うとき（セット）

CD／DVD／ブルーレイディスクは、パソコン本体に装備されているドライブにセットして使用します。

お願い　CD／DVD／ブルーレイディスクの操作にあたって

- あらかじめ、「付録 1-3 CD／DVD／ブルーレイディスクについて」、「付録 2-1 使えるCDを確認しよう」、「付録 2-2 使えるDVDを確認しよう」、「付録 2-3 使えるブルーレイディスクを確認しよう」を確認してください。

メモ　セットする前に確認しよう

- 傷ついたり汚れのひどいCD／DVD／ブルーレイディスクの場合は、挿入してから再生が開始されるまで、時間がかかる場合があります。汚れや傷がひどいと、正常に再生できない場合もあります。汚れをふきとってから再生してください。
- CD／DVD／ブルーレイディスクの特性やCD／DVD／ブルーレイディスクへの書き込み時の特性によって、読み出せない場合もあります。
- CD／DVD／ブルーレイディスクの種類によっては、取り出すときWindowsが自動的にセッションを閉じてしまう場合があります。このとき、確認のメッセージなどは表示されません。
  よく確認してからCD／DVD／ブルーレイディスクをセットしてください。
  このWindowsの機能を無効にするには、次のように操作してください。

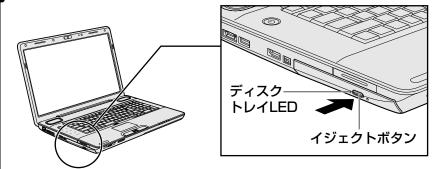
  ① ［スタート］ボタン（ ）→［コンピューター］をクリックする
  ② ドライブのアイコンを右クリックし、表示されたメニューから［プロパティ］をクリックする
  　ドライブのプロパティ画面が表示されます。
  ③ ［書き込み］タブで［共通の設定］ボタンをクリックする
  ④ ［共通の設定］画面で［シングル セッション ディスクを取り出すとき］と［マルチ セッション ディスクを取り出すとき］のチェックをはずし、［OK］ボタンをクリックする

ドライブに関する表示

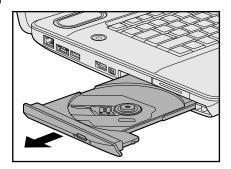
パソコンの電源が入っていて、ドライブが動作しているときは、ディスクトレイLED、Disk LEDが点灯します。

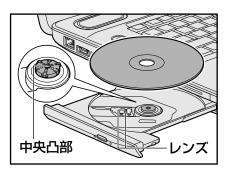
1 パソコン本体の電源を入れる

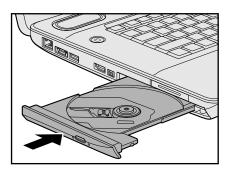
Windowsが起動します。

2 イジェクトボタンを押す

イジェクトボタンを押したら、ボタンから手をはなしてください。ディスクトレイが少し出てきます（数秒かかることがあります）。

※ 購入したモデルによってイジェクトボタンの位置は異なります。

3 ディスクトレイを引き出す

CD／DVD／ブルーレイディスクをのせるトレイがすべて出るまで、引き出します。

4 文字が書いてある面を上にして、CD／DVD／ブルーレイディスクの穴の部分をディスクトレイの中央凸部に合わせ、上から押さえてセットする

「カチッ」と音がして、セットされていることを確認してください。

5 「カチッ」と音がするまで、ディスクトレイを押し戻す

3 CD／DVD／BDを使い終わったとき（取り出し）

イジェクトボタンを使う場合

1 パソコン本体の電源が入っているか確認する

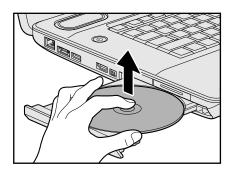
電源が入っていない場合は電源を入れてください。

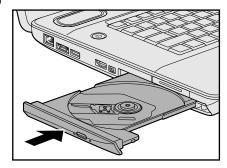
2 イジェクトボタンを押す

ディスクトレイが少し出てきます。

3 ディスクトレイを引き出す

CD／DVD／ブルーレイディスクをのせるトレイがすべて出るまで、引き出します。

4 **CD／DVD／ブルーレイディスクの両端をそっと持ち、上に持ち上げて取り出す**

CD／DVD／ブルーレイディスクを取り出しにくいときは、中央凸部を少し押してください。簡単に取り出せるようになります。

5 **「カチッ」と音がするまで、ディスクトレイを押し戻す**

リモコンを使う場合

＊TVチューナー内蔵モデルのみ

Windows動作中に、リモコンの［取り出し］ボタンを押すと、CD／DVD／ブルーレイディスクを取り出すことができます。

1 **リモコンの［取り出し］ボタンを押す**

ディスクトレイが少し出てきます。
以降の操作は、「本項-イジェクトボタンを使う場合」の手順 **3** に進んでください。

CD／DVD／ブルーレイディスクが出てこない場合

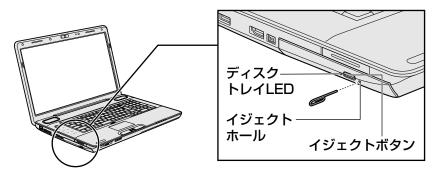
電源を切っているとき、または休止状態のときは、取り出しの操作をしてもCD／DVD／ブルーレイディスクは出てきません。電源を入れてからCD／DVD／ブルーレイディスクを取り出してください。
次の場合は、電源が入っていても、すぐにCD／DVD／ブルーレイディスクは出てきません。

- 電源を入れた直後
- ディスクトレイを閉じた直後
- 再起動した直後
- ドライブ関係のLEDが点灯しているとき
- スリープ状態のとき

上記以外でCD／DVD／ブルーレイディスクが出てこない場合は、次のように操作してください。

⚠注 意

- **クリップなどを使う場合は、取り扱いに十分注意する**
  先端のとがった部分でけがをするおそれがあります。

- **Windows動作中の場合**
  CD／DVD／ブルーレイディスクを使用しているアプリケーションをすべて終了してから、イジェクトボタンを押してください。TVチューナー内蔵モデルの場合は、リモコンの［取り出し］ボタンも有効です。
- **パソコン本体の電源が入らない場合**
  電源が入らない場合は、イジェクトホールを、先の細い丈夫なもの（クリップを伸ばしたものなど）で押してください。

＊購入したモデルによってイジェクトボタン、イジェクトホール、ディスクトレイLEDの位置は異なります。

参照 CD／DVD／ブルーレイディスクが取り出せない場合
《パソコンで見るマニュアル（検索）：
イジェクトボタンを押してもCD／DVD／ブルーレイディスクが出てこない》

5 画面を見やすく調整する
－ ディスプレイ －

本製品は表示装置としてTFTカラー液晶ディスプレイ（1366×768ドット）を内蔵しています。
ドットは画素数を表します。
テレビや外部ディスプレイを接続して使用することもできます。

1 画面の明るさを調整する

本体液晶ディスプレイの明るさ（輝度）を調整します。輝度は「1～8」の8段階で設定ができます。

❑ 輝度の調整方法

■ 本体のキーボードを使う

FN＋F6：FNキーを押したまま、F6キーを押すたびに本体液晶ディスプレイの輝度が1段階ずつ下がります。
表示される［輝度］のカードとスライダーバーで状態を確認できます。

FN＋F7：FNキーを押したまま、F7キーを押すたびに本体液晶ディスプレイの輝度が1段階ずつ上がります。
表示される［輝度］のカードとスライダーバーで状態を確認できます。

■ リモコンの［☼（輝度）∧］ボタンまたは、［☼（輝度）∨］ボタンを使う

＊TVチューナー内蔵モデルのみ

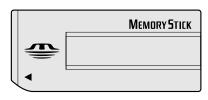
参照 《パソコンで見るマニュアル（検索）：リモコン図》

6 いろいろなメディアカードを使う
ー ブリッジメディアスロット ー

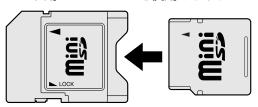
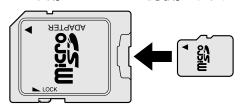
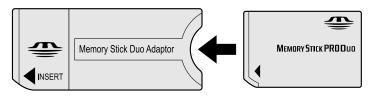
本製品では次のメディアカードをブリッジメディアスロットに差し込んで、データの読み出しや書き込みができます。下のイラストは、すべて原寸大です。

- SDメモリカード＊1
  （以降、SDHCメモリカード＊1、SDXCメモリカード＊1を含みます）

- メモリースティック
- メモリースティックPRO

- マルチメディアカード

- xD-ピクチャーカード

次のメディアカードは、市販のアダプターを装着すると、本製品のブリッジメディアスロットでも使用できます。必ずアダプターを装着した状態でご使用ください。

- miniSDメモリカード＊1
  SDメモリカードサイズのminiSDメモリカード用のアダプターを使用します。

- microSDメモリカード＊1
  SDメモリカードサイズのmicroSDメモリカード用のアダプターを使用します。

- メモリースティック デュオ／メモリースティックPRO デュオ
  メモリースティック デュオ アダプターを使用します。

＊1　著作権保護技術CPRMに対応しています。

アダプターの装着や使用方法は、『メディアカードの取扱説明書』を確認してください。

本書では、特に区別して説明する場合を除き、SDメモリカード、miniSDメモリカード、microSDメモリカードを「SDメモリカード」と呼びます。

使用できる各メディアカードの容量については『dynabook ＊＊＊＊（お使いの機種名）シリーズをお使いのかたへ』を確認してください。

コンパクトフラッシュメモリカードなどは使用できません。使用する場合はUSB経由で周辺機器（デジタルカメラなど）を接続するか、専用のカードリーダーをご使用ください。

1 メディアカードを使う前に

お願い メディアカードの使用にあたって

- あらかじめ、「付録 2-4 メディアカードを使う前に」を確認してください。

新品のメディアカードは、メディアカードの規格に合わせてフォーマットされた状態で販売されています。
フォーマットとは、メディアカードにトラック番号やヘッド番号などの基本情報を書き込み、メディアカードを使えるようにすることです。
再フォーマットをする場合は、メディアカードを使用する機器（デジタルカメラやオーディオプレーヤーなど）で行ってください。

2 メディアカードのセットと取り出し

ブリッジメディアスロットに関する表示

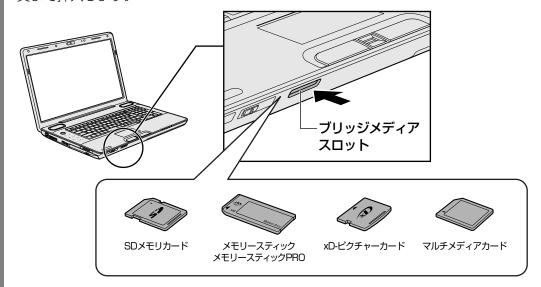
パソコン本体に電源が入っている場合、ブリッジメディアスロットに挿入したメディアカードとデータをやり取りしているときは、ブリッジメディア LEDが点灯します。

お願い 操作にあたって

- あらかじめ、「付録 2-4-1 メディアカードの操作にあたって」を確認してください。

1 セットする

1 メディアカードの表裏を確認し、表を上にして、ブリッジメディアスロットに挿入する

奥まで挿入します。

お願い

- miniSDメモリカード、microSDメモリカードは、SDメモリカードサイズのアダプターが必要です。
  メモリースティック デュオ／メモリースティックPRO デュオは、メモリースティック デュオ アダプターが必要です。
  アダプターを使用せずに直接挿入すると、取り出せなくなります。

2 セットしたメディアカードの内容を見る

著作権保護を必要としない画像や音声、テキストなどの一般的なファイルは、次の手順で見ることができます。
著作権保護されているファイルについては、見ることができない場合があります。

1 ［スタート］ボタン（ ）→［コンピューター］をクリックする

［コンピューター］画面が表示されます。

2 メディアカードのアイコンをダブルクリックする

以下の名称は表示の一例です。異なる名称が表示される場合があります。

SDメモリカード ：リムーバブルディスク、セキュリティで保護された記憶域デバイス、SD Card
メモリースティック ：リムーバブルディスク、MS/MSPro
メモリースティックPRO：リムーバブルディスク、MS/MSPro
xD-ピクチャーカード ：リムーバブルディスク、xD-Picture Card
マルチメディアカード ：リムーバブルディスク、MMC 記憶域デバイス、MultiMediaCard

（表示例）

セットしたメディアカードの内容が表示されます。

メモ

- メディアカードによっては、ブリッジメディアスロットにセットすると、自動的に内容が表示されたり、メディアカードに対する操作を選択する画面が表示される場合があります。選択画面が表示されたときは、［フォルダーを開いてファイルを表示］を選択してください。

（表示例）

3 取り出す

メディアカードに保存しているファイルを使用していたり、ウィンドウを開いたりしていると、取り出しができません。
ウィンドウやファイルを閉じてから、操作を行ってください。

1 メディアカードの使用を停止する

①通知領域の［ハードウェアを安全に取り外してメディアを取り出す］アイコン（ ）をクリックする

＊通知領域にアイコンが表示されていない場合は、 をクリックしてください。

②表示されたメニューから［(取りはずすメディアカード）の取り出し］をクリックする

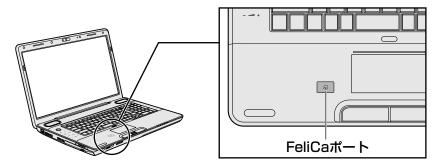
③「ハードウェアの取り外し」のメッセージが表示されたら、 をクリックする

2 メディアカードを押す

カードが少し出てきます。そのまま手で取り出します。

7 FeliCaポートを使う

＊FeliCaポート内蔵モデルのみ

本製品には、「FeliCa（フェリカ）ポート」が内蔵されています。
「FeliCa」に対応しているカードや携帯電話をパソコン本体のFeliCaポートにかざすことで、
「FeliCaランチャー」から「FeliCaポート」対応アプリケーションを使用することができます。

お願い FeliCaポートの操作について

- あらかじめ、「付録 1-7 FeliCaポートについて」を確認してください。
  使用上の注意事項を説明しています。

FeliCaについて

「FeliCa」は電子マネーや交通機関のプリペイドカードなどで使われている、非接触ICカード技術方式のひとつです。「FeliCa」に対応しているカードを読取装置にかざすことで、お店の支払いや改札機を通過することができます。
カードの種類によって利用できるサービスが異なります。

本書では、「FeliCa」に対応しているカードを「FeliCa対応カード」、携帯電話を「FeliCa対応携帯電話」と呼びます。また、2つをまとめて「FeliCa対応製品」と呼びます。

メモ

- FeliCaプラットフォームマーク（ ）は、本製品がFeliCaを利用したマルチアプリケーションプラットフォームに対応していることを表しています。

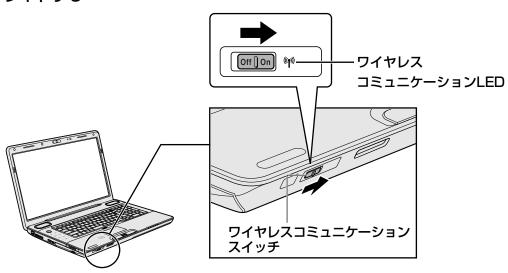
1 FeliCa対応製品をかざす

⚠ 警告

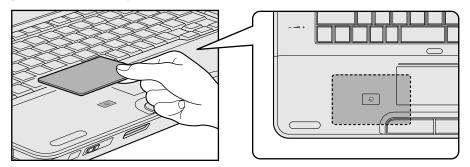
- **FeliCaポートが内蔵されている製品をお使いになる場合、心臓ペースメーカーを装着している方は、心臓ペースメーカーの装着部位から22cm以上離す**
  電波によりペースメーカーの動作に影響を与えるおそれがあります。

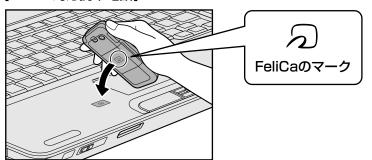
飛行機の中や電波の使用が制限されている場所では、ワイヤレスコミュニケーションスイッチをOFF側にして、電波の発信を止めるようにしてください。
ワイヤレスコミュニケーションスイッチをOFF側にするとFeliCaポートのポーリングもオフになります。

参照 ポーリングについて「付録 1 - 7 - ポーリングについて」

1 本体前面にある、ワイヤレスコミュニケーションスイッチをOn側にスライドする

ワイヤレスコミュニケーション (LEDアイコン) LEDが点灯します。

2 FeliCa対応製品をFeliCaポートにかざす

【FeliCa対応カード】

カードを横向きに持ち、カードの中心をFeliCaポート（ ）にあわせるようにしてください。

【FeliCa対応携帯電話】

携帯電話のFeliCaのマークをFeliCaポート（ ）にあわせるようにしてください。

FeliCa対応製品をかざすと、「FeliCaランチャー」が起動します。

参照 かざしてナビについて「本節 2 FeliCa対応製品をかざしてアプリケーションを使う」

メモ　FeliCa対応製品のかざしかた

- FeliCa対応製品は、必ず1つずつ使用してください。複数のFeliCa対応製品を同時にかざすと、正しく読み取ることができません。
- FeliCa対応製品がFeliCaポートからはみ出す、または傾けてかざすと、正しく認識できないことがあります。また、かざしたFeliCa対応製品が認識されにくい場合は、FeliCa対応製品を直接FeliCaポートに置いてください。
- FeliCa対応製品をかざしても、「FeliCaランチャー」が起動しない場合や、「FeliCaポート」対応アプリケーションが反応しない場合は、「付録 1-7 FeliCaポートについて」を確認してください。

2 FeliCa対応製品をかざしてアプリケーションを使う

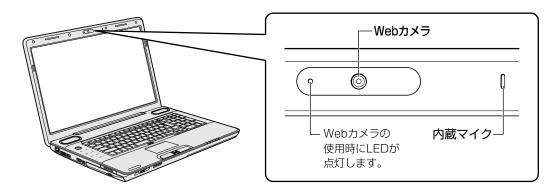
本製品の「FeliCaポート」対応アプリケーションは、「FeliCaランチャー」から起動できます。

「FeliCaランチャー」は、FeliCa対応製品をかざすと自動的に起動し、画面右下に表示されます。
「FeliCaランチャー」には、かざしたFeliCa対応製品に対応するアプリケーションのボタンが自動的に表示されています。使用したいアプリケーションのボタンをクリックして起動してください。
「FeliCaランチャー」に表示されている各アプリケーションについては、「FeliCaランチャー」の起動と同時に画面中央に表示される「チュートリアル」に説明があります。各アプリケーションのボタンをクリックして確認してください。

メモ 「FeliCaポート」対応アプリケーションについて

- 「FeliCaランチャー」および「FeliCaポート」対応アプリケーションは、［スタート］ボタン（ ）→［すべてのプログラム］→［FeliCaポート］から選択して起動することもできます。
- 「FeliCaポート」対応アプリケーションを初めて起動したときは、［使用許諾契約の確認］画面が表示される場合がありますので、内容を確認し、［同意する］ボタンをクリックします。続いて、ユーザー登録をおすすめする画面が表示されます。この方法でユーザー登録を行うには、インターネットに接続できる環境とメールが受信できる環境が必要です。ユーザー登録を行う場合は、［登録へ］ボタンをクリックし、画面の指示に従ってユーザー登録を行ってください。あとでユーザー登録を行う場合は、［閉じる］ボタンをクリックしてください。
- ショッピング関連のアプリケーションは、インターネットに接続しないと、一部の機能を除いて使用できません。
- 「NFRM」を利用するには、「NFRMPCViewer」のセットアップが必要です。インターネットに接続する準備をしてから、［NFRM］をクリックし、表示されるメッセージにしたがって操作してください。
- 本製品のアプリケーションで利用できるFeliCa対応製品については、各アプリケーションのヘルプ、またはhttp://www.justsystems.com/jp/atlife/kazasu/card/を確認してください。
  FeliCa対応携帯電話の場合は、本製品のアプリケーションに対応しているサービスを携帯電話にダウンロードすると使用することができます。詳しくは『FeliCa対応携帯電話の取扱説明書』を確認してください。
- 「FeliCaポート」対応アプリケーションのお問い合わせ先は、「7章 1-2 アプリケーションのお問い合わせ先」を参照してください。

8 Webカメラを使う

本製品には、「Webカメラ」が内蔵されています。
専用のアプリケーションを使うと、インターネット経由で映像を送ったり、ビデオチャットを行ったりできます。

お願い Webカメラについて

- Webカメラに保護シートが貼ってある場合には、Webカメラを使用する前に、必ず保護シートをはがしてください。
- あらかじめ、「付録 1 - 8 Webカメラについて」を確認してください。

1 Webカメラのアプリケーションについて

本製品には、Webカメラ用のアプリケーションが用意されています。

1 起動方法

購入時の状態では、Windowsを起動すると画面左側にWebカメラのアプリケーションが隠れています。カーソルを画面の左隅に向かって動かすと、「東芝ウェブカメラアプリケーション」の起動画面が表示されます。
アプリケーションを終了させた場合は、次のように操作して起動してください。

1 ［スタート］ボタン（ ）→［すべてのプログラム］→［TOSHIBA］→［ユーティリティ］→［ウェブカメラアプリケーション］をクリックする

「東芝ウェブカメラアプリケーション」が起動します。

2 写真や動画を撮影する

「東芝ウェブカメラアプリケーション」の起動画面で、［写真/ビデオ］（ ）を選択してください。
カメラ画面が表示されます。
画面上の各ボタンの概要は、次のようになっています。
詳しくは、「東芝ウェブカメラアプリケーション」のヘルプを参照してください。

- **左端のボタン**
  画面の解像度を設定できます。
- **［設定］ボタン**
  撮影した画像や映像の保存先や、保存形式、映像品質を設定できます。
- **［キャプチャ］ボタン**
  画面に映っている画像を、写真として撮影します。
- **［録画］ボタン**
  画面に映っている画像を、映像として録画します。
- **右端の［>］ボタン**
  画面右側に表示できるプレビューの、表示／非表示を切り替えます。

3 画面を編集する

「東芝ウェブカメラアプリケーション」の起動画面で、［設定］（ ）を選択してください。
設定画面が表示されます。
各タブの概要は、次のようになっています。

- **［全般］タブ**
  明るさやコントラスト、色調、彩度、鮮明度などを設定できます。
- **［アドバンスト］タブ**
  ズーム機能や撮影時のカメラ制御、フォーカス、フラッシュなどを設定できます。

詳しくは、「東芝ウェブカメラアプリケーション」のヘルプを参照してください。

4 画像品質を設定する

「東芝ウェブカメラアプリケーション」の起動画面で、［エフェクト］（ ）を選択してください。
フレームやスクリーンカバーを選択できる、設定画面が表示されます。

5 顔照合機能を起動する

「東芝ウェブカメラアプリケーション」の起動画面で、［Face Recognition］（ ）を選択してください。
「TOSHIBA Face Recognition」が起動します。

参照 「本節 2 顔照合機能」

ヘルプの起動方法

1 ［スタート］ボタン（ ）→［すべてのプログラム］→［TOSHIBA］→［ユーティリティ］→［ウェブカメラアプリケーションヘルプ］をクリックする

2 顔照合機能

Webカメラを使うアプリケーションに、「TOSHIBA Face Recognition」という顔照合機能があります。
顔照合とは、顔をWebカメラに映して登録し、登録した顔でWindowsのログオン時などに照合させることができる機能です。顔照合機能を使用することによってパスワードなどの入力を省略し、簡単にログオンすることが可能になります。
なお、本機能はセキュリティを目的としたWindowsパスワードの置き換えには適しません。、
詳しくは、付録の注意事項をお読みになり、ご利用ください。

お願い　顔照合機能の操作にあたって

● あらかじめ、「付録 1-9 顔照合機能について」を確認してください。

起動方法

「TOSHIBA Face Recognition」を起動するには、次の手順を実行してください。

1 ［スタート］ボタン（ ）→［すべてのプログラム］→［TOSHIBA］→［ユーティリティ］→［Face Recognition］をクリックする

操作方法の詳細は、「TOSHIBA Face Recognition」のヘルプを参照してください。

ヘルプの起動方法

「TOSHIBA Face Recognition」のヘルプを起動するには、次の手順を実行してください。

1 ［スタート］ボタン（ ）→［すべてのプログラム］→［TOSHIBA］→［ユーティリティ］→［Face Recognition ヘルプ］をクリックする

2章

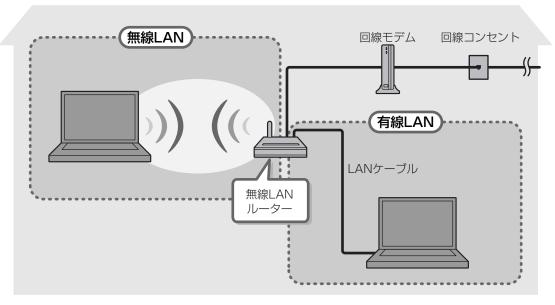
ネットワークの世界へ

本製品に搭載されている通信に関する機能を説明しています。
ネットワークやほかのパソコンと通信する方法について紹介します。

1 家庭内ネットワークで広がる世界

家族がそれぞれ自分専用のパソコンを持っている場合、1つのプリンターを共有したいときや、インターネットに接続したいときは、ネットワークを使うと便利です。

1 LAN接続はこんなに便利

家族がそれぞれ自分専用のパソコンを持っている場合や、ひとりで複数のパソコンを持っている場合など、家庭内に複数のパソコンがあるときは、LAN（Local Area Network）を使うと便利です。
LAN機能にはケーブルを使った有線LANと、ケーブルを使わない無線LANがあります。

（接続例）

■有線LAN

有線LANの機能やLANケーブルの接続については、『準備しよう 3章 1-1 ブロードバンドで接続する』を参照してください。

■無線LAN

無線LANとは、パソコンにLANケーブルを接続していない状態でもネットワークに接続できる、ワイヤレスのLAN機能のことです。モデムやルーターの位置とは関係なく、無線通信のエリア内であればあらゆる場所からコンピューターをLANシステムに接続できます。
無線LANルーターや無線LANアクセスポイント（市販）などを使用することによって、ワイヤレスでネットワーク環境を実現できます。

ネットワークに接続したあとに、ファイルの共有の設定や、ネットワークに接続しているプリンターなどの機器の設定を行う必要があります。ネットワーク機器の接続先やネットワークの詳しい設定については、［スタート］ボタン（ ）→［ヘルプとサポート］をクリックして、『Windowsヘルプとサポート』を参照してください。

ネットワークに接続している機器の設定は、それぞれの取扱説明書を確認してください。
また、会社や学校で使用する場合は、ネットワーク管理者に確認してください。

2 ワイヤレス（無線）LANを使う

1 無線LANモジュールの確認

本書では、内蔵された無線LANモジュールの種類によって説明が異なる項目があります。
使用しているパソコンに内蔵された無線LANモジュールの種類は、「ConfigFree（コンフィグフリー）」を使って確認できます。

1 通知領域の［ConfigFree］アイコン（ ）をクリックする

＊通知領域にアイコンが表示されていない場合は、 をクリックしてください。

2 表示されたメニューでアダプター名を確認する

アダプター名が示すモジュールは、次のようになります。

- **「Realtek RTL8191SE Wireless LAN 802.11n PCI-E NIC」の場合**
  IEEE802.11b、IEEE802.11gおよびIEEE802.11nに対応したモジュールです。
  このモジュールを、「Realtek b/g/nモジュール」と呼びます。

その他の本製品の無線LANモジュールの仕様については、「付録 4-1 無線LANの概要」と『dynabook ＊＊＊＊（お使いの機種名）シリーズをお使いのかたへ』を確認してください。

2 無線LANを使ってみよう

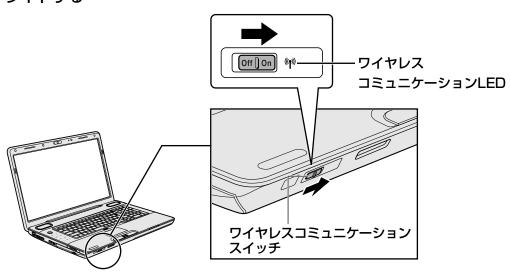
⚠警告

- **無線LANモジュールが内蔵されている製品をお使いになる場合、心臓ペースメーカーを装着している方は、心臓ペースメーカーの装着部位から22cm以上離す**
  電波によりペースメーカーの動作に影響を与えるおそれがあります。

飛行機の中や電波の使用が制限されている場所では、ワイヤレスコミュニケーションスイッチをOFF側にして、電波の発信を止めるようにしてください。

お願い **無線LANのご使用にあたって**

- あらかじめ、「付録 1-4 無線LANについて」を確認してください。
- 『安心してお使いいただくために』に、セキュリティに関しての注意事項や使用上の注意事項を説明しています。
  無線LANを使用する場合は、その記述を読んで、セキュリティの設定を行ってください。

1 本体前面にある、ワイヤレスコミュニケーションスイッチをOn側にスライドする

ワイヤレスコミュニケーション LEDが点灯します。

以降の無線の設定方法には、次の3種類があります。
詳しくは、それぞれの参照先を確認してください。

- 「無線LANらくらく設定」を使う

  参照 『スタートアップガイド』

- 「ConfigFree」を使う

  参照 《パソコンで見るマニュアル（検索）：ネットワーク設定に便利な操作》

- Windows標準機能を使う

  参照 《パソコンで見るマニュアル（検索）：無線LANでネットワークに接続する》

メモ ConfigFree（コンフィグフリー）

- 本製品に用意されている「ConfigFree」を使うと、近隣の無線LANデバイスを検出したり、LANケーブルをはずすと自動的に無線LANに切り替えるなど、ネットワーク設定に便利な機能が使えます。

参照 ConfigFreeの設定方法《パソコンで見るマニュアル（検索）：ネットワーク設定に便利な操作》

3章

周辺機器を使って機能を広げよう

パソコンでできることをさらに広げたい。
そのためには周辺機器を接続して、機能を拡張しましょう。
本製品に取り付けられるさまざまな周辺機器の取り付けかたや各種設定、取り扱いについて説明しています。

1 周辺機器を使う前に

周辺機器とは、パソコンに接続して使う機器のことで、デバイスともいいます。周辺機器を使うと、パソコンの性能を高めたり、パソコンが持っていない機能を追加することができます。
周辺機器には、パソコンのカバーを開けて、パソコンの中に取り付ける内蔵方式のものと、パソコン本体の周囲にあるコネクタや端子、スロットにつなぐ外付け方式のものがあります。

■内蔵方式のもの

- メモリ
- バッテリー

■外付け方式のもの

本製品のインターフェースに合った周辺機器をご利用ください。
周辺機器によっては、インターフェースなどの規格が異なることがあります。インターフェースとは、機器を接続するときのケーブルやコネクタや端子、スロットの形状などの規格のことです。
購入される際には、目的に合った機能を持ち、本製品に対応している周辺機器をお選びください。
周辺機器が本製品に対応しているかどうかについては、その周辺機器のメーカーに確認してください。

お願い **周辺機器の取り付け／取りはずしにあたって**

- あらかじめ、「付録 1-5 周辺機器について」を確認してください。

本製品で使用できるおもな周辺機器は、次のとおりです。

- メモリ
- USB対応機器
- テレビ
- 外部ディスプレイ

参照 「本章 2 」以降

ほかにも、次の周辺機器が使用できます。

- i.LINK（IEEE1394）対応機器
- eSATA対応機器
- マイクロホン
- ヘッドホン
- 光デジタル対応機器（MDレコーダー、MDコンポ、AVアンプなど）
- ExpressCard

参照 《パソコンで見るマニュアル（検索）：i.LINK対応機器の接続》

参照 《パソコンで見るマニュアル（検索）：eSATA対応機器を使う》

参照 《パソコンで見るマニュアル（検索）：マイクロホンを使う》

参照 《パソコンで見るマニュアル（検索）：ヘッドホンを使う》

参照 《パソコンで見るマニュアル（検索）：光デジタル対応機器を使う》

参照 《パソコンで見るマニュアル（検索）：ExpressCardを使う》

2 メモリを増設する

メモリスロットに増設メモリを取り付けることができます。
ご購入のモデルによって、あらかじめ取り付けられているメモリの容量が異なります。
取り付けられているメモリを増設メモリ（東芝製オプション）と付け換えたり、メモリが取り付けられていないスロットに増設メモリ（東芝製オプション）を取り付けることができます。
増設メモリは、4GB、2GBの2タイプがあります。
取り付けることのできるメモリについては、『dynabook ＊＊＊＊（お使いの機種名）シリーズをお使いのかたへ』を確認してください。

取り付けることのできるメモリの容量は、各スロット最大4GB（合計8GB）までです。ただし、32ビット対応のOSの場合、OSが使用可能な領域は最大3GBになります。

モデルによっては、すでに最大容量のメモリが取り付けられている場合があります。その場合は、増設できません。
メモリの取り付け／取りはずし作業が難しい場合は、お買い求めの販売店などにご相談ください。

⚠ 警 告

- **本文中で説明されている部分以外は絶対に分解しない**
  内部には高電圧部分が数多くあり、万が一触ると、感電ややけどのおそれがあります。

⚠ 注 意

- **ステープル、クリップなどの金属や、コーヒーなどの液体を機器内部に入れない**
  火災、感電の原因となります。万が一、機器内部に入った場合は、バッテリーを取りはずし、電源を入れずに、お買い求めの販売店、またはお近くの保守サービスに点検を依頼してください。
- **メモリの取り付け／取りはずしは、電源を切り、ACアダプターのプラグを抜き、バッテリーパックを取りはずしてから作業を行う**
  電源を入れたまま取り付け／取りはずしを行うと感電、故障のおそれがあります。
- **電源を切った直後にメモリの取り付け／取りはずしを行わない**
  内部が高温になっており、やけどのおそれがあります。電源を切った後30分以上たってから行ってください。

お願い **メモリの増設の操作にあたって**

- あらかじめ、「付録 1 - 5 - メモリの増設の操作にあたって」を確認してください。

増設メモリは、東芝製オプションを使用してください。それ以外のメモリを増設すると、起動しなくなったり、動作が不安定になる場合があります。

メモ　デュアルチャネルについて

- デュアルチャネルで動作すると、2枚のメモリに効率よくアクセスできます。
  デュアルチャネルで動作させるためには、ご購入のモデルによって取り付けるメモリの仕様が異なります。取り付けるメモリの仕様については、『dynabook ＊＊＊＊（お使いの機種名）シリーズをお使いのかたへ』を確認してください。

1 メモリを取り付ける

あらかじめ取り付けられているメモリを交換したい場合は、先にメモリの取りはずしを行ってください。

参照 「本節 2 メモリを取りはずす」

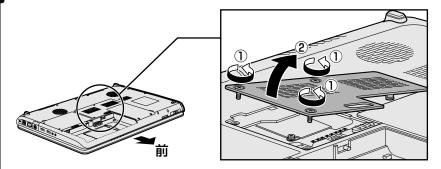
1 データを保存し、Windowsを終了させて電源を切る

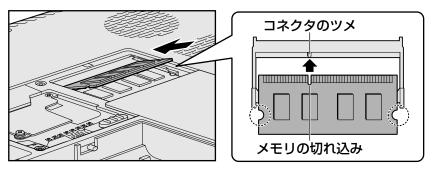
参照 電源の切りかた『準備しよう 1章 4 - 1 電源を切る』

2 パソコン本体に接続されているACアダプターとケーブル類をはずす

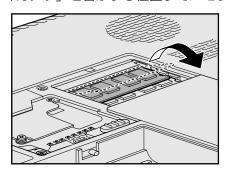
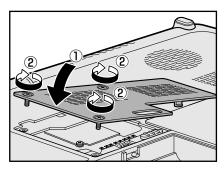
3 ディスプレイを閉じてパソコン本体を裏返し、バッテリーパックを取りはずす

参照 バッテリーパックの取りはずし「4章 1 - 3 バッテリーパックを交換する」

4 メモリカバーのネジ3本をゆるめ①、カバーをはずす②

メモリスロットの内部に異物が入らないようにしてください。

5 **メモリをメモリスロットのコネクタに斜めに挿入する**

メモリの切れ込みを、メモリスロットのコネクタのツメに合わせて、しっかり差し込みます。
このとき、メモリの両端（上図 ◌ で囲んだ部分）を持って差し込むようにしてください。

6 **固定するまでメモリを倒す**

「カチッ」と音がする位置までメモリを倒してください。

7 **メモリカバーをつけて①、手順 4 でゆるめたネジ3本をとめる②**

メモリカバーが浮いていないことを確認してください。

8 **バッテリーパックを取り付ける**

参照 バッテリーパックの取り付け「4章 1-3 バッテリーパックを交換する」

パソコン本体の電源を入れると総メモリ容量が自動的に認識されます。総メモリ容量が正しいか確認してください。

参照 メモリ容量の確認について「本節 3 メモリ容量を確認する」

2 メモリを取りはずす

1 データを保存し、Windowsを終了させて電源を切る

参照 電源の切りかた『準備しよう 1章 4-1 電源を切る』

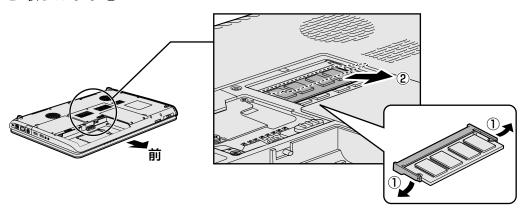
2 パソコン本体に接続されているACアダプターとケーブル類をはずす

3 ディスプレイを閉じてパソコン本体を裏返し、バッテリーパックを取りはずす

参照 バッテリーパックの取りはずし「4章 1-3 バッテリーパックを交換する」

4 メモリカバーのネジ3本をゆるめ、カバーをはずす

メモリスロットの内部に異物が入らないようにしてください。

5 メモリを固定している左右のフックを開き①、メモリをパソコン本体から取りはずす②

斜めに持ち上がったメモリを引き抜きます。

6 メモリカバーをつけて、手順 4 でゆるめたネジ3本をとめる

メモリカバーが浮いていないことを確認してください。

7 バッテリーパックを取り付ける

参照 バッテリーパックの取り付け「4章 1-3 バッテリーパックを交換する」

パソコン本体の電源を入れると総メモリ容量が自動的に認識されます。総メモリ容量が正しいか確認してください。

3 メモリ容量を確認する

メモリ容量は「東芝PC診断ツール」で確認することができます。

1. ［スタート］ボタン（ ）→［すべてのプログラム］→［TOSHIBA］→［ユーティリティ］→［PC診断ツール］をクリックする
2. ［基本情報］タブの［物理メモリ］の数値を確認する

3 USB対応機器を使う

USB対応機器は、電源を入れたままの取り付け／取りはずしができます。
また、新しい周辺機器を接続すると、システムがドライバーの有無をチェックし、自動的にインストールを行うプラグアンドプレイに対応しています。
USB対応機器には次のようなものがあります。

- USB対応マウス
- USB対応プリンター
- USB対応スキャナー
- USBフラッシュメモリなど

本製品のUSBコネクタにはUSB2.0対応機器とUSB1.1対応機器を取り付けることができます。
USB対応機器の詳細は、『USB対応機器に付属の説明書』を確認してください。

USB対応機器の操作にあたって

- あらかじめ、「付録 1 - 5 - USB対応機器の操作にあたって」を確認してください。

USBの常時給電

⚡ アイコンが付いているUSBコネクタでは、パソコン本体の電源がOFFの状態（スリープ状態、休止状態、シャットダウン状態）でも、USBコネクタにUSBバスパワー（DC5V）を供給することができます。
本機能を利用して、USBに対応する携帯電話や携帯型デジタル音楽プレーヤーなどの外部機器の使用および充電ができます。
＊ USBケーブルは本製品に含まれていません。別途ご使用の機器に対応したケーブルを準備してください。

なお、本機能はすべての外部機器の使用および充電を保証するものではありません。

お願い　USBの常時給電について

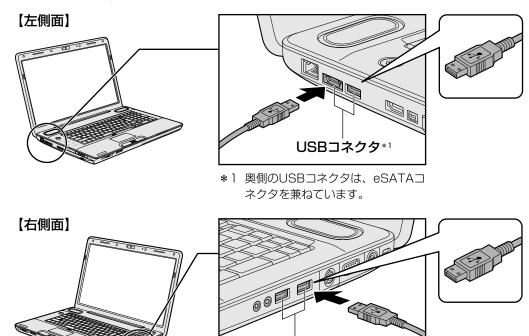
- あらかじめ、「付録 1 - 5 - USBの常時給電について」を確認してください。

1 取り付け

1 USBケーブルのプラグをUSB対応機器に差し込む

この手順が必要ない機器もあります。USB対応機器の詳細は、『USB対応機器に付属の説明書』を確認してください。

2 USBケーブルのもう一方のプラグをパソコン本体のUSBコネクタに差し込む

プラグの向きを確認して差し込んでください。

2 取りはずし

1 USB対応機器の使用を停止する

①通知領域の［ハードウェアを安全に取り外してメディアを取り出す］アイコン（ ）をクリックする

＊通知領域にアイコンが表示されていない場合は、 をクリックしてください。
この操作を行ってもアイコンが表示されないUSB対応機器は、次の手順は必要ありません。
手順 2 に進んでください。

②表示されたメニューから［(取りはずすUSB対応機器）の取り出し］をクリックする
③「ハードウェアの取り外し」のメッセージが表示されたら、 をクリックする

2 パソコン本体とUSB対応機器に差し込んであるUSBケーブルを抜く

4 パソコンの画面をテレビに映す
ー テレビの接続 ー

本製品とテレビを HDMI（エイチディーエムアイ）ケーブルで接続すると、テレビ画面にWindowsのデスクトップ画面を表示させることができます。
HDMI出力端子は、音声もテレビに出力することができます。

パソコンでテレビを見る準備をする

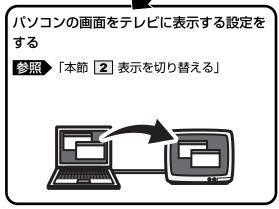
＊ TVチューナー内蔵モデルで「Qosmio AV Center」を使ってテレビ番組視聴の場合

参照 『映像と音楽を楽しもう』

パソコン本体と、テレビを接続する

参照 「本節 1 パソコンに接続する」

パソコンの画面をテレビに表示する設定をする

参照 「本節 2 表示を切り替える」

お願い テレビ接続の操作にあたって

- あらかじめ、「付録 1 - 5 - テレビ／外部ディスプレイ接続の操作にあたって」を確認してください。

メモ

- 本製品のHDMI出力端子にはテレビの代わりに、DVI端子のある外部ディスプレイを接続して表示することもできます。市販のケーブルを使用して接続してください。詳しくは、「本章 5 パソコンの画面を外部ディスプレイに映す」を参照してください。
- TVチューナー内蔵モデルの場合、「Qosmio AV Center」の画面をテレビや外部ディスプレイを接続して表示させると、正しく表示されないことがあります。詳しくは、「Qosmio AV Center」のヘルプを確認してください。

■接続の前に

テレビを接続するときは、『テレビに付属の取扱説明書』もあわせて確認してください。
HDMI入力端子があるテレビを接続できます。
接続するHDMI ケーブルは、市販のものを使用してください。

メモ

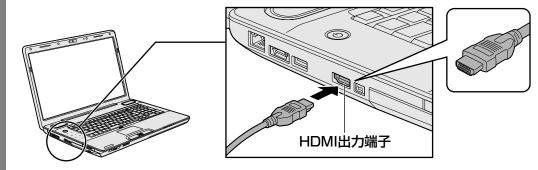
- HDMIケーブルは、HDMIロゴ（ HDMI ）の表示があるケーブルをご使用ください。
- テレビへの出力形式を設定する方法は、「本節 2 表示を切り替える」を参照してください。
- RGBコネクタを備えたテレビへは、外部ディスプレイのようにRGBケーブルを使って表示することもできます。詳しくは、『テレビに付属の取扱説明書』と、「本章 5 パソコンの画面を外部ディスプレイに映す」を参照してください。

1 パソコンに接続する

1 HDMIケーブルのプラグをテレビのHDMI入力端子に差し込む

2 テレビの電源を入れる

3 HDMIケーブルのもう一方のプラグをパソコン本体のHDMI出力端子に差し込む

メモ

- HDMI接続で、テレビに映像を映しているとき、HDMIケーブルを抜いたあと、再度HDMIケーブルを接続する場合は5秒以上間隔をあけてください。

❏ 音声の出力をパソコン本体のスピーカーからテレビに切り替える

HDMIケーブルで接続したテレビから音声が出ない場合は、「Conexant™ SmartAudio」で設定を行ってください。

1 [スタート] ボタン（ ）→ [コントロールパネル] をクリックする

2 [ハードウェアとサウンド] → [SmartAudio] をクリックする

[SMARTAudio] 画面が表示されます。

3 [HDMI] アイコンをクリックする

4 [閉じる] ボタン（ ）をクリックする

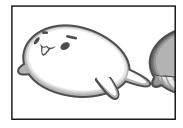
この設定を行うと、パソコン本体から音声が出力されなくなります。パソコン本体からの音声出力に戻す場合は、手順 3 で [スピーカー] アイコンをクリックしてください。

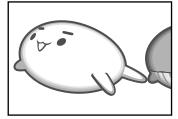
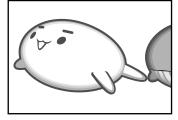
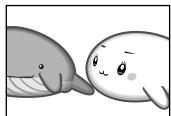
3章 周辺機器を使って機能を広げよう

2 表示を切り替える

テレビを接続した場合には、次の表示方法があります。
表示方法は、表示装置の切替えを行うことで変更できます。

■本体液晶ディスプレイだけに表示／テレビだけに表示

いずれかの表示装置にのみ、デスクトップ画面を表示します。

■本体液晶ディスプレイとテレビの同時表示

- **クローン表示**
  2つの表示装置それぞれにデスクトップ画面を表示します。

- **デュアルビュー（拡張）表示***
  2つの表示装置を1つの大きなデスクトップ画面として使用（拡張表示）します。
  ＊デュアルビュー（拡張）表示は、「Extended Desktop」と表示されることがあります。

テレビに表示するには次の設定を行ってください。設定を行わないと、テレビには表示されません。

メモ

- 表示を切り替えたとき、システムによって自動的に解像度が変更される場合があります。
  本体液晶ディスプレイだけに表示を切り替えると、元の解像度に戻ります。
- 「TOSHIBA DVD PLAYER」で使用する表示装置を変更したい場合は、アプリケーションを起動する前に表示装置を切り替えてください。
  起動中は、表示装置を切り替えることができません。
- 著作権保護された映像を、HDMI出力端子に接続したテレビや外部ディスプレイに表示したい場合は、テレビや外部ディスプレイだけに表示するよう設定してください。
  クローン表示に設定している場合は、映像が表示されません。
- 「電源オプション」で省電力機能を設定してテレビの表示が消えた場合、キーあるいはタッチパッドの操作により表示が復帰します。また、スリープに設定してある場合は、電源スイッチを押してください。
  表示が復帰するまで10秒前後かかることがありますが、故障ではありません。

1 表示装置を選択する

FNキーを押したままF5キーを押すと、「TOSHIBA Flash Cards」の表示装置を選択する画面が表示されます。

＊画面はLCD（本体液晶ディスプレイ）に表示した場合のカードです。

＊アイコンの一覧です。実際は接続している表示装置に応じて切替え可能なパターンのみ表示されます。

上のカードは現在の表示装置を、下のアイコンは切替え可能なパターンを示しています。
FNキーを押したまま、F5キーを押すたびに大きなアイコンが移動します。表示する装置が大きなアイコンに変わったところで、FNキーをはなすと表示装置が切り替わります。

アイコンは、左から次の意味を表しています。

- LCD……本体液晶ディスプレイだけに表示
- LCD＋CRT……本体液晶ディスプレイとRGBコネクタに接続の表示装置にクローン表示
- CRT……RGBコネクタに接続の表示装置だけに表示
  本体液晶ディスプレイには何も表示されません。
- LCD＋HDMI……本体液晶ディスプレイとHDMI出力端子に接続の表示装置にクローン表示
- HDMI……HDMI出力端子に接続の表示装置だけに表示
  本体液晶ディスプレイには何も表示されません。
- HDMI＋CRT……HDMI出力端子とRGBコネクタに接続の表示装置にクローン表示
- LCD+CRT Extended Desktop……本体液晶ディスプレイとRGBコネクタに接続の表示装置にデュアルビュー（拡張）表示
  本体液晶ディスプレイがプライマリモニターになります。
- LCD+HDMI Extended Desktop……本体液晶ディスプレイとHDMI出力端子に接続の表示装置にデュアルビュー（拡張）表示
  本体液晶ディスプレイがプライマリモニターになります。
- HDMI＋CRT Extended Desktop……HDMI出力端子とRGBコネクタに接続の表示装置にデュアルビュー（拡張）表示
  HDMI出力端子に接続の表示装置がプライマリモニターになります。

メモ

- 表示装置をテレビに切り替えるときは、必要に応じて「本項 2 信号またはHDフォーマットを選択する」の設定を行ってください。

❏ デュアルビュー（拡張）表示でプライマリモニターを切り替える方法

現在の表示装置がデュアルビュー（Extended Desktop）表示に設定されている場合、プライマリモニター、セカンダリモニターを切り替えるアイコン（ ）が表示されます。

＊ 画面はLCD（本体液晶ディスプレイ）とテレビに表示した場合のカードです。

（表示例）

❏ 表示装置をLCD（本体液晶ディスプレイ）に戻す方法

現在の表示装置がLCD（本体液晶ディスプレイ）以外に設定されている場合、表示装置をLCDに戻すことができます。表示装置を選択する画面が表示されていない状態で、FN＋F5キーを3秒以上押し続けてください。
表示装置に何も表示されず、選択する画面が表示されているか確認できない場合は、いったんキーボードから指をはなしてから、FN＋F5キーを3秒以上押し続けてください。

2 信号またはHDフォーマットを選択する

接続した機器に合わせて信号フォーマットを設定したい場合は、コントロールパネルを使用します。必要に応じて設定を行ってください。

1 **［スタート］ボタン（ ）→［コントロールパネル］をクリックする**

2 **画面右上の［表示方法］で「大きいアイコン」または「小さいアイコン」をクリックする**

3 **［ NVIDIAコントロールパネル］をクリックする**

初めてクリックしたときは、［NVIDIAコントロールパネル ビューの選択］画面が表示されます。
［標準設定］をチェックして、［OK］ボタンをクリックしてください。
［プレビューによるイメージ設定の調整］画面が表示されます。

4 **［タスクの選択］で［ビデオとTV］の［信号またはHDフォーマットの変更］をクリックする**

5 ［3.使用する信号フォーマットを選択します。］で選択する

接続した機器の信号フォーマットに合わせて、一覧から選択します。

国名/地域	信号形式	設定される画面モード
いずれでも	480p	720×480, True Color (32ビット)
	576p	720×576, True Color (32ビット)
	720p	1280×720, True Color (32ビット)
	1080i	1920×1080, True Color (32ビット)
	1080p	1920×1080, True Color (32ビット)

＊ 選択可能な信号形式は接続されているHDMI機器によって異なります。

＊ クローン表示を選択している場合は、この項目は表示されません。クローン表示の場合は［NVIDIAコントロールパネル］の［タスクの選択］→［表示］→［解像度の変更］で接続した機器の信号フォーマットに合った画面モードを設定してください。

6 ［適用］ボタンをクリックする

メッセージが表示されます。確認して［はい］ボタンをクリックしてください。

3 パソコンから取りはずす

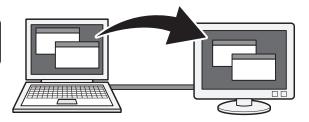
1 パソコン本体とテレビに差し込んであるケーブルを抜く

メモ

- HDMI出力端子からテレビをはずしたときに、パソコン本体から音声が出力されない場合は、パソコン本体からの音声出力に切り替えてください。
  ①［スタート］ボタン（ ）→［コントロールパネル］をクリックする
  ②［ハードウェアとサウンド］→［SmartAudio］をクリックする
  ③［スピーカー］アイコンをクリックする
  ④［閉じる］ボタンをクリックする

5 パソコンの画面を外部ディスプレイに映す
ー 外部ディスプレイの接続 ー

本製品の次のコネクタと外部ディスプレイをケーブルで接続すると、外部ディスプレイにWindowsのデスクトップ画面を表示させることができます。

- HDMI（エイチディーエムアイ）出力端子
- RGB（アールジービー）コネクタ

お願い　外部ディスプレイ接続の操作にあたって

- あらかじめ、「付録 1 - 5 - テレビ／外部ディスプレイ接続の操作にあたって」を確認してください。

■接続の前に

外部ディスプレイを接続するときは、『外部ディスプレイに付属の取扱説明書』もあわせて確認してください。

- **HDMI 出力端子で接続する場合**

  HDMI 端子がある外部ディスプレイまたはDVI端子がある外部ディスプレイを接続できます。DVI端子がある外部ディスプレイを接続する場合は、市販のHDMI←→DVI 変換ケーブルをご使用ください。

  DVI端子に接続した場合、音声を出力することはできません。また、一部のアプリケーション（TVチューナー内蔵モデルの「Qosmio AV Center」など）の映像を出力する場合にはHDCPに対応したディスプレイを使用してください。HDCPに対応していないディスプレイでは、地上デジタル放送やブルーレイディスクなどの映像を表示することはできません。

- **RGBコネクタで接続する場合**

  RGB端子がある外部ディスプレイを接続できます。

メモ

- 接続するケーブルは、市販のものを使用してください。
- HDMI ケーブルは、HDMI ロゴ（ HDMI ）の表示があるケーブルをご使用ください。
- 使用可能な外部ディスプレイは、本体液晶ディスプレイで設定している解像度により異なります。
  解像度にあった外部ディスプレイを接続してください。
- TVチューナー内蔵モデルの場合、「Qosmio AV Center」の画面をテレビや外部ディスプレイを接続して表示させると、正しく表示されないことがあります。
- 著作権保護された映像などを外部ディスプレイに表示するためには、HDCPに対応した外部ディスプレイを接続してください。

1 パソコンに接続する

HDMI出力端子に接続する

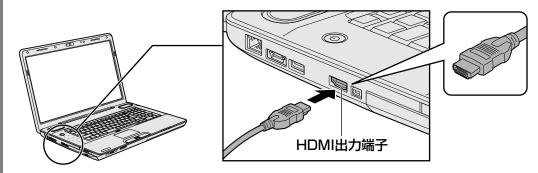
ここでは、DVI端子がある外部ディスプレイを接続する方法を説明します。
HDMI端子がある外部ディスプレイを接続する方法は、テレビを接続する方法を参考にしてください。

参照 テレビの接続「本章 4-1 パソコンに接続する」

1 **HDMI←→DVI変換ケーブルのDVIプラグを外部ディスプレイのDVI端子に差し込む**

2 **外部ディスプレイの電源を入れる**

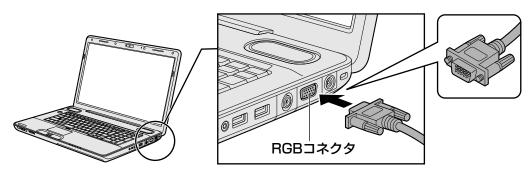
3 **HDMI←→DVI変換ケーブルのHDMIプラグをパソコン本体のHDMI出力端子に差し込む**

メモ

- HDMI 接続で、外部ディスプレイに映像を映しているとき、HDMI ケーブルを抜いたあと、再度HDMIケーブルを接続する場合は5秒以上間隔をあけてください。

RGBコネクタに接続する

外部ディスプレイとパソコン本体の電源を切った状態で接続してください。

1 外部ディスプレイのケーブルのプラグをRGBコネクタに差し込む

本製品のRGBコネクタには固定用のネジ穴はありませんが、プラグに固定用のネジが付いているタイプの外部ディスプレイケーブルも使用できます。

2 外部ディスプレイの電源を入れる

3 パソコン本体の電源を入れる

上の手順で電源を入れると、パソコン本体は自動的に外部ディスプレイを認識します。

2 パソコンから取りはずす

HDMI 出力端子から取りはずす

1 HDMI 出力端子からケーブルを抜く

RGBコネクタから取りはずす

外部ディスプレイとパソコン本体の電源を切った状態で取りはずしてください。

1 Windowsを終了させてパソコン本体の電源を切る

参照 電源の切りかた『準備しよう 1章 4-1 電源を切る』

2 外部ディスプレイの電源を切る

3 RGBコネクタからケーブルを抜く

3 表示を切り替える

外部ディスプレイを接続した場合には次の表示方法があります。

- 外部ディスプレイだけに表示する
- 外部ディスプレイと本体液晶ディスプレイに同時表示する
  - ・クローン表示　・デュアルビュー（拡張）
- 本体液晶ディスプレイだけに表示する

表示方法は、テレビに表示する場合の説明を参考にしてください。

参照 表示方法について「本章 4-2 表示を切り替える」

切り替え方法

表示装置を切り替える方法は、テレビに表示する場合の方法を参考にしてください。

参照 表示方法について「本章 4-2 表示を切り替える」

メモ

- 外部ディスプレイと本体液晶ディスプレイを同時表示させる場合は、同時表示の種類や設定にあった色数／解像度で表示されます。

4 表示について

外部ディスプレイに表示する場合、表示位置や表示幅などが正常に表示されない場合があります。この場合は、外部ディスプレイ側で、表示位置や表示幅を設定してください。

4章

バッテリー駆動で使う

パソコンをモバイル使用する際に大事な存在であるバッテリーは、使いかたによっては長持ちさせることができます。
ここでは、充電や充電量の確認など、バッテリーを使用するにあたっての取り扱い方法について説明しています。

1 バッテリーについて

パソコンは、バッテリーパックを取り付けた状態で使用してください。
バッテリーを充電して、バッテリー駆動（ACアダプターを接続しない状態）で使うことができます。
本製品を初めて使用するときは、バッテリーパックを充電してから使用してください。
バッテリー駆動で使う場合は、あらかじめACアダプターを接続してバッテリーパックの充電を完了（フル充電）させるか、フル充電したバッテリーパックを取り付けてください。
指定する方法・環境以外でバッテリーパックを使用した場合には、発熱、発火、破裂するなどの可能性があり、人身事故につながりかねない場合がありますので、十分ご注意をお願いします。
『安心してお使いいただくために』に、バッテリーパックを使用するときの重要事項が記述されています。バッテリー駆動で使う場合は、あらかじめその記述をよく読み、必ず指示を守ってください。

⚠危 険

- **バッテリーパックは、本製品に付属の製品を使用する**
  寿命などで交換する場合は、『dynabook ＊＊＊＊（お使いの機種名）シリーズをお使いのかたへ』に記載されている、指定の東芝製バッテリーをお買い求めください。指定以外の製品は、電圧や端子の極性が異なっていることがあるため発熱、発火、破裂のおそれがあります。

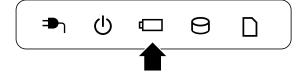
お願い **バッテリーを使用するにあたって**

- あらかじめ、「付録 1-6 バッテリーについて」を確認してください。

1 バッテリー充電量を確認する

バッテリー駆動で使う場合、バッテリーの充電量が減って作業を中断したりしないよう、バッテリーの充電量を確認しておく必要があります。

1 システムインジケーターで確認する

ACアダプターを使用している場合、Battery ▭ LEDが点灯します。

Battery LEDは次の状態を示しています。

赤	充電完了
オレンジ	充電中
オレンジの点滅	充電が必要 参照 バッテリーの充電について「本節 2 バッテリーを充電する」
消灯	・バッテリーが接続されていない ・ACアダプターが接続されていない 上記のいずれにも当てはまらない場合は、バッテリー異常の可能性があります。東芝PCあんしんサポートに連絡してください。

2 通知領域の［バッテリー］アイコンで確認する

通知領域の［バッテリー］アイコン（ ）の上にポインターを置くと、バッテリー充電量が表示されます。
［バッテリー］アイコン（ ）をクリックすると、電源プランなども表示されます。

完全に充電されました (100%)
XX:XX
XXXX/XX/XX

参照 省電力設定について《パソコンで見るマニュアル（検索）：省電力の設定をする》

1ヵ月以上の長期にわたり、ACアダプターを接続したままパソコンを使用してバッテリー駆動を行わないと、バッテリー充電量が少しずつ減少します。このような状態でバッテリー充電量が減少したときは、Battery LEDや［バッテリー］アイコンで充電量の減少が表示されないことがあります。1ヵ月に1度は再充電することを推奨します。

3 バッテリー充電量が減少したとき

電源が入っている状態でバッテリーの充電量が少なくなると、次のように警告します。

- Battery LEDがオレンジ色に点滅する（バッテリーの残量が少ないことを示しています）
- バッテリーのアラームが動作する
  「電源オプション」で［プラン設定の変更］→［詳細な電源設定の変更］をクリックして表示される［詳細設定］タブの［バッテリ］→［バッテリ低下の通知］や［バッテリ低下の操作］で設定すると、バッテリーの残量が少なくなったことを通知したり、自動的に対処する動作を行います。

参照 省電力設定（電源オプション）について
《パソコンで見るマニュアル（検索）：省電力の設定をする》

上記のような警告が起こった場合はただちに次のいずれかの方法で対処してください。
①パソコン本体にACアダプターを接続し、充電する
②電源を切ってから、フル充電のバッテリーパックと取り換える

購入時は休止状態が設定されています。バッテリー減少の警告が起こっても何も対処しなかった場合、パソコン本体は自動的に休止状態になり、電源を切ります。

長時間使用しないでバッテリーが自然に放電しきってしまったときは、警告音も鳴らず、Battery LEDでも放電しきったことを知ることはできません。長時間使用しなかったときは、充電してから使用してください。

時計用バッテリー

本製品には、取りはずしができるバッテリーパックのほかに、内蔵時計を動かすための時計用バッテリーが内蔵されています。
時計用バッテリーの充電は、ACアダプターを接続し電源を入れているとき（電源ON時）に行われますので、普通に使用しているときは、あまり意識する必要はありません。ただし、あまり充電されていない場合、時計が止まったり、遅れたりすることがあります。
時計用バッテリーが切れていると、時間の再設定をうながすWarning（警告）メッセージが出ます。

■充電完了までの時間

時計用バッテリーは、電源ON（Power ⏻ LEDが赤に点灯）の状態にしておくと約24時間で充電が完了します。
実際には充電完了まで待たなくても使用できます。また、充電状態を知ることはできません。

2 バッテリーを充電する

充電方法とフル充電になるまでの充電時間について説明します。

お願い　バッテリーを充電するにあたって

- あらかじめ、「付録 1 - 6 - バッテリーを充電するにあたって」を確認してください。

1 充電方法

1 パソコン本体にACアダプターを接続し、電源コードのプラグをコンセントに差し込む

DC IN LEDが赤に点灯してBattery LEDがオレンジ色に点灯すると、充電が開始されます。
電源コードのプラグをコンセントに差し込むと、電源のON／OFFにかかわらずフル充電になるまで充電されます。

2 Battery LEDが赤になるまで充電する

バッテリーの充電中はBattery LEDがオレンジ色に点灯します。
DC IN LEDが消灯している場合は、電源が供給されていません。ACアダプター、電源コードの接続を確認してください。

メモ

- パソコン本体を長時間ご使用にならないときは、電源コードの電源プラグをコンセントから抜いてください。

■充電完了までの時間

バッテリー充電時間は、パソコン本体の機器構成や動作状況、また使用環境によって異なります。周囲の温度が低いとき、バッテリーパックの温度が高くなっているとき、周辺機器を取り付けているとき、アプリケーションを使用しているときは、充電完了まで時間がかかることがあります。
詳しくは、『dynabook ＊＊＊＊（お使いの機種名）シリーズをお使いのかたへ』を参照してください。

■使用できる時間

バッテリー駆動での使用時間は、パソコン本体の機器構成や動作状況、また使用環境によって異なります。
詳しくは、『dynabook ＊＊＊＊（お使いの機種名）シリーズをお使いのかたへ』を参照してください。

■バッテリー駆動時の処理速度

高度な処理を要するソフトウェア（3Dグラフィックス使用など）を使用する場合は、十分な性能を発揮するためにACアダプターを接続してご使用ください。

■使っていないときの充電保持時間

パソコン本体を使わないで放置していても、バッテリー充電量は少しずつ減っていきます。
バッテリーの保持時間は、放置環境などによって異なります。
スリープを実行した場合、放電しきるまでの時間が非常に短いため、バッテリー駆動時は休止状態、またはハイブリッド スリープにすることをおすすめします。

参照 ハイブリッドスリープについて『準備しよう 1章 4-2 スリープにする』

メモ

- バッテリーパックは消耗品です。使いかたを工夫することで長持ちさせることができます。詳しくは、《パソコンで見るマニュアル（検索）：バッテリーを長持ちさせる》を確認してください。

3 バッテリーパックを交換する

バッテリーパックの交換方法を説明します。
バッテリーパックの取り付け／取りはずしのときには、「スリープ」にするのではなく、必ず電源を切り、電源コードのプラグを抜いてから作業を行ってください。

メモ

- キズや破損を防ぐため、布などを敷いた安定した台の上にパソコン本体を置いて作業を行ってください。

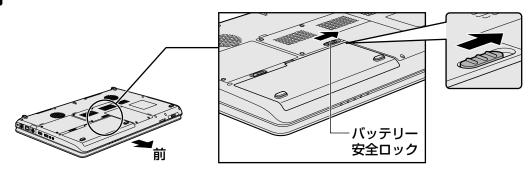
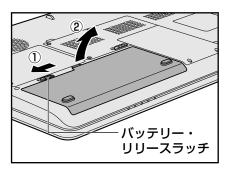
1 取りはずし／取り付け

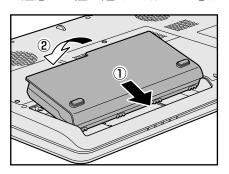
1 データを保存し、Windowsを終了させて電源を切る

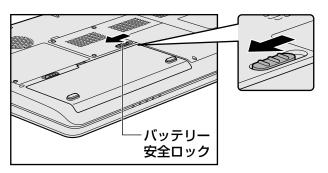
参照 電源の切りかた『準備しよう 1章 4-1 電源を切る』

2 パソコン本体からACアダプターと周辺機器のケーブル類をはずす

3 ディスプレイを閉じてパソコン本体を裏返す

4 バッテリー安全ロックを矢印の方向に引く

5 バッテリー・リリースラッチをスライドしながら①、バッテリーパックを取りはずす②

6 交換するバッテリーパックを、「カチッ」と音がするまで静かに差し込む

新しいあるいは充電したバッテリーパックを図のようにななめに差し込みます①。
バッテリー・リリースラッチが自動的にスライドして、「カチッ」という音がするまで注意して差し込んでください②。

7 バッテリー安全ロックを矢印の方向にスライドする

バッテリーパックがはずれないように、バッテリー安全ロックは必ず行ってください。

システム環境の変更

本製品を使用するときの、システム上のさまざまな環境を設定する方法について説明しています。

1 システム環境の変更とは

本製品は、次のようなパソコンのシステム環境を変更できます。
システム環境を変更するには、Windows上のユーティリティで変更するか、またはBIOSセットアップで変更するか、2つの方法があります。
通常は、Windows上のユーティリティで変更することを推奨します。

変更できる項目		Windows上のユーティリティ
ハードウェア環境（パソコン本体）の設定		「東芝HWセットアップ」 参照 《パソコンで見るマニュアル（検索）：システム環境の設定変更》
パスワードセキュリティの設定	ユーザーパスワード	「東芝HWセットアップ」 参照 《パソコンで見るマニュアル（検索）：ユーザーパスワード》
	スーパーバイザーパスワード	「スーパーバイザーパスワードユーティリティ」 参照 《パソコンで見るマニュアル（検索）：スーパーバイザーパスワード》
省電力の設定		「電源オプション」 参照 《パソコンで見るマニュアル（検索）：省電力の設定をする》

BIOSセットアップについては「本章 2 BIOSセットアップを使う」をご覧ください。

2 BIOSセットアップを使う

BIOS（バイオス）セットアップとは、パソコンのシステム構成をパソコン本体から設定するプログラムのことです。
次のような設定ができます。

- ハードウェア環境（パソコン本体、周辺機器接続ポート）の設定
- セキュリティの設定
- 起動方法の設定

メモ　BIOSセットアップを使用する前の注意

- 通常、システム構成の変更はWindows上の「東芝HWセットアップ」、「電源オプション」、「デバイスマネージャー」などで行ってください。

参照 「東芝HWセットアップ」「電源オプション」について
《パソコンで見るマニュアル（検索）：システム環境の設定変更、省電力の設定をする》

参照 「デバイスマネージャー」について『Windowsヘルプとサポート』

- 使用しているシステムによっては、システム構成を変更しても、変更が反映されない場合があります。
- BIOSセットアップで設定した内容は、電源を切っても消えません。しかし、内蔵バッテリー（時計用バッテリー）が消耗した場合は標準設定値に戻ります。

1 起動と終了／BIOSセットアップの操作

1 起動

1 データを保存し、Windowsを終了させて電源を切る

参照 電源の切りかた『準備しよう 1章 4-1 電源を切る』

2 電源スイッチを押し、「Qosmio」画面が表示されている間にF2キーを数回押す

各種パスワードを設定している場合は、パスワードの入力をうながすメッセージが表示されます。パスワードを入力してENTERキーを押してください。

参照 パスワードについて
《パソコンで見るマニュアル（検索）：ユーザーパスワード、HDDパスワード》

BIOSセットアップが起動します。
起動できなかった場合は、通常の終了操作を行ってパソコン本体の電源を切り、手順2をやり直してください。

メモ

- 「指紋認証ユーティリティ」で起動認証機能を有効にし、指紋を登録すると、パスワードを設定している場合に表示される「パスワードを入力して下さい。」というメッセージの代わりに、指紋認証を行う画面が表示されます。指紋認証を行うと、起動認証機能によってパスワードの認証が行われます。認証を5回失敗するか、一定時間が経過する、またはBACKSPACEキーを押すと、「パスワードを入力して下さい。」が表示されます。指紋認証について詳しくは、「本章 4 指紋認証を使う」または「指紋認証ユーティリティ」のヘルプを参照してください。

2 終了

変更した内容を有効にして終了します。

1 ← →キーを押して、［終了］メニューを表示する

2 終了方法を選択する

3 画面の指示に従ってBIOSセットアップを終了する

Windowsが起動します。

3 基本操作

基本操作は次のとおりです。

メニューを選択する	← または → 上段のメニュー名が反転している部分が現在表示しているメニュー画面です。
変更したい項目を選択する	↑ または ↓ 画面中で反転している部分が現在変更できる項目です。
サブメニューや設定値の一覧を表示する	*ENTER*
項目の内容を変更する	*SPACE*、*F5*、*F6*
設定内容を標準値にする	*F9* 「デフォルト値をロードしますか？」というメッセージが表示されます。「はい」を選択し、*ENTER* キーを押してください。 各種パスワードはこの操作をしても削除されません。
設定を保存し、BIOSセットアップを終了する	*F10* 「設定の変更を保存して終了しますか？」というメッセージが表示されます。保存する場合は「はい」を選択し、*ENTER* キーを押してください。 BIOSセットアップ終了後、Windowsが起動します。 保存しない場合は「いいえ」を選択し、*ENTER* キーを押してください。
［終了］メニューを表示する	*ESC* サブメニュー表示中は1つ前の画面に戻ります。
BIOSセットアップのヘルプを表示する	*F1*

3 パソコンの動作状況を監視し、記録する ー東芝PCヘルスモニターー

「東芝PCヘルスモニタ」は、消費電力やバッテリー充電能力、冷却システムなどを監視し、システムの状態をメッセージなどでお知らせします。また、パソコン本体および各種デバイスの使用状況を、収集管理します。
「東芝PCヘルスモニタ」の機能は、ヘルプで確認できます。

お願い

- 「東芝PCヘルスモニタ」は、いかなる場合も東芝の標準的な保証の範囲を広げるものでも変更するものでもありません。東芝の標準的な保証が適用されます。

メモ

- 収集管理されるパソコン本体や各種デバイスの情報、および使用状況の情報は、パソコン本体のハードディスク上に保存されます。これらは、PCの基本情報（たとえば、モデル名、型番、製造番号、BIOSバージョン等)、各種デバイスの基本情報（たとえば、ディスプレイ、サウンド、ネットワーク、ハードディスク、ドライブ等)、オペレーティングシステム情報（たとえば、OSバージョン、OSをインストールした日時、Direct Xのバージョン、Internet Explorerのバージョン、修正プログラムのリスト等)、各種デバイスの操作時間／回数（たとえば、電源スイッチ、キーコンビネーション、ACアダプター、バッテリーパック、ディスプレイ、ファン、ハードディスク、ボリュームダイヤル、ワイヤレスコミュニケーションスイッチ、USB)、パソコンの使用開始日付、パソコン本体や各種デバイスの使用状況（たとえば、省電力設定、バッテリーパックの温度や放充電容量、CPU、メモリ、バックライトの点灯時間、各種デバイスの温度）を含みます。ハードディスクに保存されるデータの量は1年間で10MB以下であり、ハードディスクの全体容量のわずかしか使用しません。
- これらの情報は、システム状態の監視と通知、および、パソコンが東芝PCあんしんサポートに持ち込まれたときの不具合の診断に使用します。また、東芝はそれらの情報を品質保証適用の判断に使用することもあります。
- 「東芝PCヘルスモニタ」は、一度有効にした場合でも、「コントロールパネル」の［プログラムのアンインストール］からアンインストールすることで、本機能を動作しないようにすることができます。その際、ハードディスクに記録されている「東芝PCヘルスモニタ」が採取したデータは自動的に削除されます。

1 起動について

ここでは、「東芝PCヘルスモニタ」の起動方法について説明します。

1 起動方法

1 ［スタート］ボタン（　）→［すべてのプログラム］→［TOSHIBA］→［ユーティリティ］→［PCヘルスモニタ］をクリックする

初めて起動したときは、「東芝PCヘルスモニタ」の説明画面が表示されます。［次へ］ボタンをクリックすると、［東芝PCヘルスモニタについての注意事項およびデータの収集と利用の許諾］画面が表示されます。画面に表示された内容を確認し、注意と許諾の内容に同意のうえ、［同意する］を選択し、［OK］ボタンをクリックしてください。「東芝PCヘルスモニタ」が起動し、パソコンの機能の監視と使用状況の情報収集管理を開始します。システムの状態は表示される画面で確認できます。

メモ

- 「東芝PCヘルスモニタ」の利用の許諾に同意し、一度プログラムを有効にすると、「東芝PCヘルスモニタ」の画面を閉じても、パソコンの機能の監視と使用状況の情報収集管理は続行されます。この場合、不調の原因となりうる変化が検出されたときは、通知領域の［東芝PCヘルスモニタ］アイコン（　）からメッセージが表示されます。

ヘルプの起動方法

1 通知領域の［東芝PCヘルスモニタ］アイコン（　）を右クリックし、表示されたメニューから［ヘルプ］をクリックする

＊ 通知領域にアイコンが表示されていない場合は、　をクリックしてください。

2 メッセージが表示された場合

不調の原因となりうる変化が検出された場合、メッセージが表示されます。メッセージの内容に従って操作してください。

4 指紋認証を使う

本製品には「指紋センサー」と「指紋認証ユーティリティ（東芝フィンガープリントユーティリティ）」が用意されています。ここでは、指紋を登録し、指紋認証を行う方法について説明します。

1 指紋認証とは

指紋認証とは、手の指紋の情報をパソコンに登録することにより、パスワードなどの入力に代えて本人であることを証明する機能です。キーボードからパスワードを入力する代わりに、登録した指を指紋センサー上にすべらせるだけで、次のことが実行できます。

- Windows ログオン
- インターネットのホームページで、パスワードの入力
- スクリーンセーバーの解除
- パソコン本体起動時のユーザーパスワードまたはHDDパスワードの入力
- スリープからの復帰
- ファイルやフォルダーの暗号化

詳しくは「指紋認証ユーティリティ」のヘルプを参照してください。
ヘルプの起動方法は、本節の最後で説明しています。

指紋認証の操作にあたって

- あらかじめ、「付録 1 - 10 指紋認証について」を確認してください。

2 Windowsログオンパスワードを設定する

「指紋認証ユーティリティ」の設定や登録をするためには、「Windows ログオンパスワード」を設定する必要があります。
Windowsログオンパスワードを設定していない場合は、［コントロールパネル］の［ ユーザー アカウントと家族のための安全設定］で設定することができます。

参照 Windowsログオンパスワードの設定方法『Windowsヘルプとサポート』

すでにWindowsログオンパスワードを設定してある場合は、「本節 3 指紋を登録する」に進んでください。

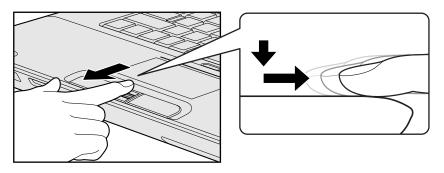
3 指紋を登録する

「指紋認証ユーティリティ」で、指紋を登録します。次の手順を実行してください。指をけがしたときなどのために、2本以上の指を登録してください。
指紋センサーには、最大20パターンの指紋を登録することができます。複数のユーザーでパソコンを使用している場合は、全ユーザー合わせて20パターンまで登録できます。たとえば、1人で10パターンの指紋を登録した場合、ほかのユーザーが登録できるのは残り10パターンです。

指紋センサーに指紋をうまく読み取らせるには

1 指紋センサーに対して指をまっすぐ出し、指を寝かせた状態で、第1関節を軽く指紋センサー中央の上におく

2 第1関節から先端にかけて、指のはら部分が指紋センサーに触れるように手前に水平に引く

指先だけ指紋センサーにのせると、指紋が認識されない場合があります。第1関節から先端にかけて指のはらの部分が指紋センサーに触れるように、ゆっくりとすべらせてください。

1 操作方法

「指紋認証ユーティリティ」でユーザー登録を行います。ユーザー登録では、Windowsのユーザーアカウントとそのログオンパスワードを登録したあと、そのユーザーアカウントでログオンし、認証で使用する指（指紋）を登録します。

1 指紋を登録するユーザーアカウントでログオンする

2 ［スタート］ボタン（ ）→［すべてのプログラム］→［TOSHIBA］→［ユーティリティ］→［TOSHIBA Fingerprint Utility］をクリックする

［指紋登録］画面が表示されます。

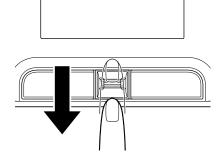
3 ［Windowsパスワード］にWindowsログオンパスワードを入力し①、［次］ボタンをクリックする②

4 指紋を登録する指の上の○印をクリックし①、［次］ボタンをクリックする②

体勢によっては親指での認証は難しいので、親指以外の指を登録することおすすめします。

5 画面に表示される説明をよく読んで、［次］ボタンをクリックする

6 指紋登録の練習のために、指紋センサーに指を軽く乗せ、手前側にすべらせる

第1関節を指紋センサーの上に置き、手前に引くようにすべらせてください。
このとき、タッチパッドに触れないように気をつけてください。

同じ指を3回認識させてください。指紋センサーに指をすべらせると、画面の3つのボックスに、1回ごとの指紋データの読み取り結果が表示されます。
読み取りに成功すると、ボックスの下に「良いイメージ」と表示されます。

3回成功するまで繰り返し認識させてください。

＊［スキップ］ボタンをクリックすると、指紋登録の練習をスキップすることができます。

7 3回成功したら、［次］ボタンをクリックする

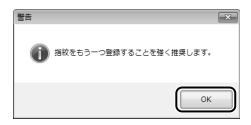
8 指紋登録のために、指紋センサーに指を軽く乗せ、手前側にすべらせる

手順 6 で練習した要領で、第1関節を指紋センサーの上に置き、手前に引くようにすべらせてください。
ここで指紋をできるだけ精細に読み取らせることで、認証率を向上させることができます。
同じ指を3回読み取らせます。読み取りに成功すると、ボックスの下に「良いイメージ」と表示されます。

3回成功するまで繰り返し認識させてください。
3回とも指紋の読み取りに成功すると、メッセージが表示されます。
＊9回以上失敗すると、手順 4 に戻ります。

9 指紋データを保存するために［OK］ボタンをクリックする

10 メッセージを確認し、［OK］ボタンをクリックする

指をけがしたときなどのために、1ユーザーあたり、2本以上の指紋登録をおすすめします。

11 違う指で手順 **4** → **5** → **6** → **7** → **8** → **9** を繰り返す

12 指紋登録を終了する場合は、［閉じる］ボタンをクリックする

13 メッセージを確認し、［OK］ボタンをクリックする

14 ［閉じる］ボタンをクリックする

15 メッセージを確認し、［OK］ボタンをクリックする

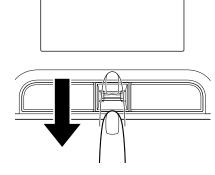
4 指紋認証を行う

指紋を登録すると、指紋センサーに指をすべらせることで、Windowsへログオンできます。
また、パソコンを複数のユーザーで使用している場合、ユーザーの選択も省略できます。

1 操作方法

1 パソコン本体の電源を入れる

Windowsにログオンする画面が表示されます。

2 指紋登録した指の第1関節を指紋センサーの上にのせ、手前側にすべらせる

指紋が認証されるとWindowsにログオンします。

指紋認証がうまくいかなかった場合は、指紋認証画面が表示されます。
キーボードからパスワードを入力したい場合は、指紋認証画面の［閉じる］ボタン（ ）をクリックしてください。

2 その他の使いかた

パソコンの起動や復帰時に指紋で認証させる

■パソコンの起動時（起動認証）

パソコンの起動時に、ユーザーパスワードやHDDパスワードの代わりに、指紋認証を使用することもできます。

①ユーザーパスワードやHDDパスワードを登録する

参照 ユーザーパスワード、HDDパスワードの登録方法
《パソコンで見るマニュアル（検索）：ユーザーパスワード、HDDパスワード》

②「指紋認証ユーティリティ」の［設定］で設定する
［設定］メニューが無効な場合は、［管理者として実行］ボタンをクリックして管理者権限に昇格してください。

参照 設定の詳細「指紋認証ユーティリティ」のヘルプ

ユーザーパスワードやHDDパスワードの指紋認証に続けて5回失敗すると、指紋認証ができなくなります。その場合は、キーボードからパスワードを入力してパソコンを起動してください。
また指紋認証画面が表示されているときに、キーボードからパスワード入力をしたい場合は BACKSPACE キーを押してください。キーボードからのパスワード入力が可能になります。

お願い 指紋認証のパスワード入力について

- あらかじめ、「付録 1 - 10 - 指紋認証のパスワード入力について」を確認してください。

■スクリーンセーバーの解除

次のように設定します。

①［スタート］ボタン（ ）→［コントロールパネル］→［ デスクトップのカスタマイズ］をクリックする
②［スクリーンセーバーの変更］をクリックする
③［再開時にログオン画面に戻る］をチェックする
④［OK］ボタンをクリックする

■スリープからの復帰

次のように設定します。

①［スタート］ボタン（ ）→［コントロールパネル］→［ システムとセキュリティ］→［ 電源オプション］をクリックする
②［電源プランの選択］で選択されているプランの［プラン設定の変更］をクリックする
③［詳細な電源設定の変更］をクリックする
④［バランス］の［復帰時のパスワードを必要とする］で、［バッテリ駆動］および［電源に接続］を［はい］に設定する
⑤［OK］ボタンをクリックする

指紋データのバックアップをとる

登録してある指紋データをバックアップすることができます。バックアップしておくと、リカバリーしたときなどに指紋を再登録しなくてもすみます。また、別のパソコンで指紋認証を使用したいときに、指紋データを登録しなくてもすみます。

参照 設定の詳細「指紋認証ユーティリティ」のヘルプ

パソコンを捨てるまたは人に譲る場合

パソコンを捨てたり人に譲ったりする前に、登録した指紋データを消去することをおすすめします。
指紋の消去は、「指紋認証ユーティリティ」の［指紋情報管理］で行ってください。

ヘルプの起動方法

1 ［スタート］ボタン（ ）→［すべてのプログラム］→［TOSHIBA］→［ユーティリティ］→［TOSHIBA Fingerprint Utility］をクリックする

2 をクリックする

6章

パソコンの動作がおかしいときは

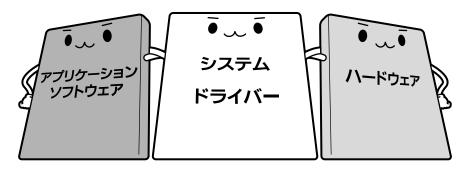
パソコンの操作をしていて困ったときに、どうしたら良いかを説明しています。
「dynabook.com」で情報を調べる方法なども紹介しています。
トラブルが起こったときは、あわてずに、この章を読んで、解消方法を探してみてください。

1 トラブルを解消するまでの流れ

お使いのパソコンに起こったトラブルについて、解決方法を見つけていきましょう。

1 トラブルの原因をつき止めよう

パソコンに起こるトラブルは、その原因がどこにあるかによって解決策が異なります。
そのために、パソコンの構造をある程度知っておくことが必要です。
ここでは、パソコンの構成と、それぞれの構成部分で起こるトラブルの例、その解決方法を紹介します。

■パソコンを構成する3つの部分

- **アプリケーションソフトウェアとは**
  メールやインターネットは、アプリケーションソフトウェアの機能です。Word（ワード）（文書作成ソフト）やExcel（エクセル）（表計算ソフト）、ウイルスチェックソフトもアプリケーションソフトウェアの代表的なものです。それぞれ製造元が異なります。

- **システム、ドライバーとは**
  システムは、オペレーティングシステム、OS（オーエス）ともいい、パソコンを動かすための基本的な働きをします。本製品のシステムはWindows 7です。
  ドライバーは、周辺機器とシステムを連携する役割をします。ドライバーがないと、周辺機器は使用できません。代表的なドライバーに、ディスプレイドライバーやサウンドドライバー、マウスドライバーなどがあります。基本的なドライバーはシステムが標準装備していますが、周辺機器製品に専用のドライバーが付属している場合もあります。

- **ハードウェアとは**
  バッテリーやACアダプターはもちろん、画面（ディスプレイ）、キーボード、ハードディスク、CPUなど、パソコン本体を指します。

パソコンはこれらの高度な技術の集合体です。トラブルの原因がそれぞれの製造元にしかわからない場合も多くあります。トラブルの症状に合わせた対処をすることが解決への早道です。
トラブルの解決には、最初に原因の切り分けを行います。一般的にはアプリケーションソフトウェア→システム（OS）、ドライバー→パソコン本体の順にチェックします。

STEP1 アプリケーションソフトウェアに原因がある場合

トラブル

例1 ： メールやインターネットがつながらない

アクセスポイントやメールサーバー、ID、パスワードなどの設定を確認します。これらの設定は契約プロバイダーごとに異なります。契約プロバイダーから指定された設定データが正しくパソコンの設定に反映されているかを確認してください。

解消法

例1 ： プロバイダーへのお問い合わせについて

お客様ご契約のプロバイダーの窓口へお問い合わせください。

トラブル

例2 ： アプリケーションの使いかたがわからない

付属のマニュアルや「おたすけナビ」を読んで、アプリケーションソフトの使いかたを確認します。

解消法

例2 ： アプリケーションの使いかたについて

『映像と音楽を楽しもう』や「おたすけナビ」で操作方法を確認したり、各アプリケーションのサポート窓口へお問い合わせください。

参照 「おたすけナビ」
「本章 2 - 8 - Q このQ&A集を読んでも解決できない」

参照 アプリケーションのお問い合わせ先
「7章 お問い合わせされるときは」

トラブル

例3 ： どのアプリケーションを使ったらいいかわからない

付属のマニュアルや「おたすけナビ」に、代表的な操作を記載しています。

解消法

例3 ：「おたすけナビ」でアプリケーションを探す

「おたすけナビ」の「ソフトウェアをつかう」で、本製品に用意されたアプリケーションを目的別に探すことができます。

STEP2 システム（OS）やドライバーに原因がある場合

トラブル

例4：正常に画面が表示されない、音が出ない、設定が合っているのにインターネットにつながらない

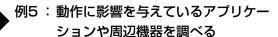
解消法

例4・例5：ドライバーを入れ直す

再起動をすると自動的にドライバーの検出を行う場合があります。再起動後、［新しいハードウェアの検出ウィザード］画面が表示された場合は、画面の指示に従ってください。

参照 再起動
《パソコンで見るマニュアル（検索）：パソコンを再起動する》

例5：青い画面で「STOPOX*****」（一般に「STOPエラー」や「ブルースクリーン」「ブルーパニック」と呼ばれる画面）が表示された**

例5：動作に影響を与えているアプリケーションや周辺機器を調べる

周辺機器やソフトをインストールしたあとに起こることが多いものです。その前に行った作業を一度元に戻すことでトラブルが解消される場合が少なくありません。
周辺機器を取りはずしたり、「システム構成ユーティリティ」でプログラムやサービスを停止して起動したりすることで調べることができます。

参照 システム構成ユーティリティ
《パソコンで見るマニュアル（検索）：必要最低限のシステムで起動する》

それでもトラブルが解消しない場合には、東芝PCあんしんサポートへお問い合わせください。

参照 『東芝PCサポートのご案内』

STEP3 パソコン本体に原因がある場合

トラブル		解消法
例6：ドライバーを入れなおしても機器が動かない		**例6：問い合わせる** 東芝PCあんしんサポートへお問い合わせください。 参照 『東芝PCサポートのご案内』 周辺機器が動作しない場合は、各周辺機器のサポート窓口へお問い合わせください。
例7：Power ⏻ LEDが点灯せず、パソコンがまったく動作しない		トラブルが解消しない、あるいはまったくパソコンが動作しない場合は、パソコン本体が故障している可能性があります。 パソコンの操作について、困ったときや修理のご依頼は東芝PCあんしんサポートへお問い合わせください。 参照 『東芝PCサポートのご案内』

2 トラブル対処法

トラブルが発生したときの解決手順を紹介します。

STEP1 付属の冊子マニュアルを読む

本書では、トラブルの解決方法をQ&A形式で説明しています。

参照 「本章 2 Q&A集」

また、本製品には目的別に複数の冊子マニュアルがあります。本書以外の冊子も読んでください。

STEP2「パソコンで見るマニュアル」の「Q&A集」から探す

「パソコンで見るマニュアル」の「Q&A集」にも、使っていて操作がおかしいと感じたときの対処法が載っています。
「パソコンで見るマニュアル」は、本製品の電源を入れた状態で、デスクトップ上の［おたすけナビ］（おたすけナビ）をダブルクリック→［パソコンで見るマニュアル］タブの［パソコンで見るマニュアルTOP］ボタンをクリックすると起動できます。

STEP3 ヘルプやマニュアルから探す

「パソコンで見るマニュアル」や「おたすけナビ」の検索機能を使って、本製品に用意されているアプリケーションのヘルプやマニュアルを検索して調べることができます。詳しくは、ヘルプを参照してください。

参照 「パソコンで見るマニュアル」と「おたすけナビ」のヘルプの起動方法
「本章 2-8-Q このQ&A集を読んでも解決できない」

STEP4 サポートのサイトで調べる

本製品独自のサポートサイト「あなたのdynabook.com」へ接続すると、各種サポート情報から解決方法を探すことができます。
「あなたのdynabook.com」では、ご利用のパソコンの「よくあるご質問 FAQ」、デバイスドライバーや修正モジュールのダウンロード、ウイルス・セキュリティ情報などをご覧になれます。
ご利用のパソコンに関する情報だけが表示されるので、目的の情報を簡単に探すことができます。また、サポート窓口や修理についても案内しています。

参照 あなたのdynabook.com『東芝PCサポートのご案内』

それでもトラブルが解消しない場合は、お問い合わせください。
本製品に用意されているアプリケーションのお問い合わせ先は「7章 お問い合わせされるときは」で確認してください。

2 Q&A集

ここに掲載しているQ&A集のほかに、「パソコンで見るマニュアル」にもQ&A集があります。目的の項目が見つからないときは、「パソコンで見るマニュアル」も参照してください。

役立つ操作集

「パソコンで見るマニュアル」の「Q&A集」を見てみよう

本書のQ&A集を見ても知りたいことが見つからない場合は、パソコンで「パソコンで見るマニュアル」の「Q&A集」を見てみましょう。
インターネットに接続しなくても閲覧できるため、操作も簡単です。

① デスクトップ上の［おたすけナビ］（おたすけナビ）をダブルクリック→［パソコンで見るマニュアル］タブの［パソコンで見るマニュアルTOP］ボタンをクリックする
「パソコンで見るマニュアル」が起動します。

② ［Q&A集］（Q&A集）をクリックする
［Q&A集］の一覧が表示されます。

③ もくじから知りたい項目をクリックする

④ 参照したい質問をクリックする

1 電源を入れるとき／切るとき

Q 電源スイッチを押して指をはなしても、Power LEDが点灯しない

A 電源スイッチを押す時間が短いと電源が入らないことがあります。
確実に電源スイッチを押してください。Power LEDが点灯することを確認してください。

Q 電源が入るが、すぐに切れてしまう 電源が入らない

A バッテリーの充電量が少ない可能性があります。
次のいずれかの対処を行ってください。

- 本製品用のACアダプターを接続して、電源を供給する
（他製品用のACアダプターは使用できません）
- 充電済みのバッテリーパックを取り付ける

参照 バッテリーの充電について「4章 1-2 バッテリーを充電する」

A パソコン内部の温度が一定以上に達すると保護機能が働き、システムが自動的に停止します。
パソコン本体が熱くなっている場合は、涼しい場所に移動するなどして、パソコンの内部温度が下がるのを待ってください。
また、通風孔をふさぐと、パソコンの温度は非常に上昇しやすくなります。通風孔のまわりには物を置かないでください。

A パソコン本体からいったん、電源コードとACアダプター、バッテリーパックをすべて取りはずしてください。
①電源コードとACアダプターを取りはずす
パソコンに接続している周辺機器も取りはずしてください。
②バッテリーパックを取りはずす
電源コードとACアダプター、バッテリーパックを取りはずすと、電源が入らない状態になります。そのままの状態で、しばらく放置してください。
③バッテリーパックを取り付ける
④電源コードとACアダプターを取り付けて、電源プラグをコンセントに差し込む
⑤電源スイッチを押し、指をはなす
確実に電源スイッチを押してください。Power LEDが点灯することを確認してください。

参照 電源コードとACアダプターの接続
『準備しよう 1章 3-2 電源コードとACアダプターを接続する』

参照 バッテリーパックの取り付け／取りはずしについて
「4章 1-3 バッテリーパックを交換する」

以上の手順でも解決できない場合は、東芝PCあんしんサポートに連絡してください。

Q 電源を入れたが、システムが起動しない

A 起動ドライブをハードディスクドライブ以外に設定した場合に、システムの入っていない記録メディアがセットされている可能性があります。

システムが入っている記録メディアと取り換えるか、またはドライブから記録メディアを取り出してから、何かキーを押してください。
それでも正常に起動しない場合は、次のように操作してください。

①電源スイッチを5秒以上押して電源を切る
②電源スイッチを押し、「Qosmio」画面が表示されている間に F12 キーを数回押す
各種パスワードを設定している場合は、パスワードの入力をうながすメッセージが表示されます。パスワードを入力して ENTER キーを押してください。
③表示されたメニューからシステムの入っているドライブ（通常はハードディスクを示す項目）を ↑ ↓ キーで選択し、ENTER キーを押す

A 次の手順を行うと、セーフモードまたは前回正常に起動したときの構成で起動しなおすことができます。

電源スイッチを5秒以上押して強制終了したあと、次のように操作してください。

①電源を入れる
②「Qosmio」画面が表示されて消えたらすぐに F8 キーを数回押す
各種パスワードを設定している場合は、パスワードの入力をうながすメッセージが表示されます。パスワードを入力して ENTER キーを押してください。そのあとすぐに、F8 キーを再び数回押してください。

「詳細ブート オプション」が表示されます。
③目的に合わせて［セーフモード］または［前回正常起動時の構成（詳細）］を選択し、ENTER キーを押す

Q 使用中に前触れもなく、突然電源が切れることがある

A パソコン内部の温度が一定以上に達すると保護機能が働き、システムが自動的に停止します。

パソコン本体が熱くなっている場合は、涼しい場所に移動するなどして、パソコンの内部温度が下がるのを待ってください。
また、通風孔をふさぐと、パソコンの温度は非常に上昇しやすくなります。通風孔のまわりには物を置かないでください。
それでも電源が切れる場合は、東芝PCあんしんサポートに連絡してください。

バッテリー駆動で使用している場合、バッテリーの充電量がなくなった可能性があります。

次のいずれかの対処を行ってください。

- 本製品用のACアダプターを接続して、電源を供給する
  （他製品用のACアダプターは使用できません）
- 充電済みのバッテリーパックを取り付ける

参照 バッテリーの充電について「4章 1-2 バッテリーを充電する」

Q しばらく操作しないとき、電源が切れる

 Power LEDが赤に点灯している場合、省電力機能が働いた可能性があります。

画面には何も表示されませんが実際には電源が入っていますので、電源スイッチを押さないでください。

SHIFT キーを押すか、またはタッチパッドを操作すると表示が復帰します。

テレビまたは外部ディスプレイを接続している場合、表示が復帰するまでに10秒前後かかることがあります。

A **Power LEDがオレンジ色に点滅しているか、消灯の場合、自動的にスリープまたは休止状態になった可能性があります。**

一定時間パソコンを使用しないときに、自動的にスリープまたは休止状態にするように設定されています。

復帰させるには、電源スイッチを押してください。

また、次の手順で設定を解除できます。

① ［スタート］ボタン（ ）→［コントロールパネル］をクリックする

② ［ システムとセキュリティ］→［ 電源オプション］をクリックする

③ ［電源プランの選択］で利用するプランを選択する

④ 選択したプランの［プラン設定の変更］をクリックする

⑤ ［ディスプレイの電源を切る］および［コンピューターをスリープ状態にする］で［なし］を選択する

［バッテリ駆動］と［電源に接続］にそれぞれ設定してください。

⑥ ［変更の保存］ボタンをクリックする

2 画面／表示

Q 青い画面（ブルースクリーン）が表示され、操作できなくなった

A 電源スイッチを5秒以上押してWindowsを強制終了してください。

システムが操作できなくなったとき以外は行わないでください。強制終了を行うと、スリープ／休止状態は無効になります。また、保存されていないデータは消失します。
強制終了したあと、電源を入れ直してください。

A 以上の手順でも解決できない場合は、「本節 3 - Q 再起動や電源を入れ直しても、トラブルが解消しない」を確認してください。

Q しばらく放置したら、画面が真っ暗になった

A 省電力機能が働いた可能性があります。

しばらくタッチパッドやキーボードを操作しないと、画面に表示される内容が見えなくなる場合があります。これは省電力機能が動作したためで、故障ではありません。
実際には電源が入っていますので、電源スイッチを押さないでください。
SHIFT キーを押すか、またはタッチパッドを操作すると表示が復帰します。
テレビまたは外部ディスプレイを接続している場合、表示が復帰するまでに10秒前後かかることがあります。

A 表示装置が適切に設定されていない可能性があります。

FN + F5 キーを3秒以上押し続けてください。表示装置が本体液晶ディスプレイに切り替わります。

参照 詳細について「3章 4 - 2 - 1 表示装置を選択する」

Q テレビまたは外部ディスプレイを接続した状態で、パソコンをスリープや休止状態から復帰したとき、本体液晶ディスプレイに何も表示されない

A テレビまたは外部ディスプレイに、画面表示が切り替わっている可能性があります。

テレビまたは外部ディスプレイの電源を入れて確認してください。パソコン画面が表示されていた場合は、「3章 4 パソコンの画面をテレビに映す」を参照して、本体液晶ディスプレイに表示を切り替えてください。

Q テレビまたは外部ディスプレイを取りはずしたときに、画面が表示されなくなった

A テレビまたは外部ディスプレイを接続してください。

テレビまたは外部ディスプレイをプライマリデバイスに指定してデュアルビュー（拡張）表示の設定をした場合に、スリープや休止状態のときにテレビまたは外部ディスプレイを取りはずすと、スリープや休止状態から復帰したときに画面が表示されないことがあります。
テレビまたは外部ディスプレイの取りはずしは、スリープや休止状態のときに行わないでください。

Q 画面が薄暗く、よく見えない

A FN＋F7キーを押して、本体液晶ディスプレイ（画面）の輝度を明るくしてください＊1。

FN＋F6キーを押すと、逆に、本体液晶ディスプレイの輝度は暗くなります。

＊1 この設定は、テレビと外部ディスプレイには反映されません。

A 本体液晶ディスプレイの輝度が低く設定されている可能性があります。

「電源オプション」には、本体液晶ディスプレイの輝度を落として消費電力を節約する機能があります。この機能で画面の明るさレベルを下げると、画面が暗くなります。
詳しくは、「電源オプション」のヘルプを参照してください。
次の手順で設定を変更してください。＊1

① [スタート] ボタン（ ）→ [コントロールパネル] をクリックする
② [システムとセキュリティ] → [電源オプション] をクリックする
③ 利用する電源プランを選択し、[プラン設定の変更] をクリックする
④ [プランの明るさを調整] を設定する
　[バッテリ駆動] と [電源に接続] をそれぞれ設定してください。
⑤ [変更の保存] ボタンをクリックする

＊1 この設定は、テレビと外部ディスプレイには反映されません。

3 システム／ハードディスク

Q パソコンが応答しなくなった

A アプリケーションを終了できない場合や、アプリケーションを終了してもトラブルが解消しない場合は、パソコンを再起動してください。

参照 再起動『準備しよう 1章 4-1-再起動』

A **Windows起動時に問題が起きた場合や、パソコンを再起動できない場合は、電源スイッチを5秒以上押してWindowsを強制終了してください。**

システムが操作できなくなったとき以外は行わないでください。強制終了を行うと、スリープ／休止状態は無効になります。また、保存されていないデータは消失します。強制終了したあと、電源を入れ直してください。

A **以上の手順でも解決できない場合は、「本項 - Q 再起動や電源を入れ直しても、トラブルが解消しない」を確認してください。**

Q Windowsがセーフモードで起動した

A パソコンを再起動してください。

参照 再起動『準備しよう 1章 4-1-再起動』

A **以上の手順でも解決できない場合は、「本項 - Q 再起動や電源を入れ直しても、トラブルが解消しない」を確認してください。**

Q 再起動や電源を入れ直しても、トラブルが解消しない

A **ドライバーやシステムのアップデート中（更新中）にトラブルが発生した場合は、直前の正常に起動したときの構成で起動してください。**

参照 前回正常に起動したときの構成で起動する
「本節 1-Q 電源を入れたが、システムが起動しない」

A **アプリケーションをインストールしてから、この問題が発生するようになった場合は、インストールしたアプリケーションがWindowsの動作に影響している可能性があります。**

アプリケーションをアンインストールしてください。

参照 アンインストール《パソコンで見るマニュアル（検索）：アプリケーションの削除》
『アプリケーションに付属の説明書』

A 周辺機器を接続してから、この問題が発生するようになった場合は、接続した周辺機器がWindowsの動作に影響している可能性があります。

周辺機器を取りはずしてください。周辺機器によっては、周辺機器に付属のドライバーやアプリケーションをパソコンにインストールしている場合があります。これらのドライバーやアプリケーションもアンインストールしてください。

参照 周辺機器の取り扱いについて『周辺機器に付属の説明書』

4 キーボード

Q ポインターが輪の形をしている間にキーを押しても反応がない

A システムが処理中の可能性があります。

ポインターが輪の形（◎）をしている間は、システムが処理をしている状態のため、キーボードやタッチパッドなどの操作を受け付けないときがあります。システムの処理が終わるまで待ってから操作してください。

Q キーボードから文字を入力しているときにカーソルがとんでしまう

A 文字を入力しているときに誤ってタッチパッドに触れると、カーソルがとんだり、アクティブウィンドウが切り替わってしまうことがあります。

タッチパッド オン/オフボタンを押すか、または次の手順でタッチパッドを無効に切り替えてください。

① FN＋F9キーを押す

［タッチパッド］のカードが表示されます。

② FNキーを押したままF9キーを押し直し、［無効］アイコンが大きい状態で指をはなす

Q キーボードに飲み物をこぼしてしまった

A 飲み物など液体がこぼれて内部に入ると、感電、本体の故障、作成データの消失などのおそれがあります。

もし、液体がパソコン内部に入ったときは、ただちに電源を切り、ACアダプターとバッテリーパックを取りはずして、東芝PCあんしんサポートにご相談ください。

5 タッチパッド／マウス

＊マウスは、モデルによって別売りです。

Q クリックしても反応がない

A システムが処理中の可能性があります。

ポインターが輪の形（◎）をしている間は、システムが処理をしている状態のため、タッチパッド、マウス、キーボードなどの操作を受け付けないときがあります。システムの処理が終わるまで待ってから操作してください。

A マウスが正しく接続されていない可能性があります。

マウスとパソコン本体が正しく接続されていないと、マウスの操作はできません。マウスのプラグを正しく接続してください。

A タッチパッドのみ操作を受け付けない場合、タッチパッドが無効に設定されている可能性があります。

タッチパッド オン/オフボタンを押すか、または次の手順でタッチパッドを有効に切り替えてください。

① FN＋F9キーを押す
[タッチパッド］のカードが表示されます。
② FNキーを押したままF9キーを押し直し、[有効］アイコンが大きい状態で指をはなす

Q ダブルクリックがうまくいかないので、速度を変更したい

A 次の手順で、ダブルクリックの速度を調節してください。

① [スタート］ボタン（ ）→［コントロールパネル］をクリックする
② [ハードウェアとサウンド］→［マウス］をクリックする
[マウスのプロパティ］画面が表示されます。
③ [ボタン］タブで［ダブルクリックの速さ］のスライダーバーを左右にドラッグする
④ [OK］ボタンをクリックする

Q ポインターの速度を調節したい

A 次の手順でポインターの速度を変更してください。

① [スタート］ボタン（ ）→［コントロールパネル］をクリックする
② [ハードウェアとサウンド］→［マウス］をクリックする
[マウスのプロパティ］画面が表示されます。
③ [ポインター オプション］タブで［速度］のスライダーバーを左右にドラッグする
④ [OK］ボタンをクリックする

Q　レーザーマウスの反応がおかしい

A 光の反射が正しく認識されていない可能性があります。

反射しにくい素材の上で使うと正しくセンサーが働かず、ポインターがうまく動きません。次のような場所では動作が不安定になる場合があります。

- 光沢のある表面（ガラス、鏡など）

A 平らな場所でマウスを操作しているか確認してください。

マウスは、平らな場所で操作してください。マウスの下にゴミなどがある場合は取り除いてください。

Q　光学式マウスの反応がおかしい

A 光の反射が正しく認識されていない可能性があります。

反射しにくい素材の上で使うと正しくセンサーが働かず、ポインターがうまく動きません。次のような場所では動作が不安定になる場合があります。

- 光沢のある表面（ガラス、研磨した金属、ラミネート、光沢紙、プラスチックなど）
- 画像パターンの変化が非常に少ない表面（人工大理石、新品のオフィスデスクなど）
- 画像パターンの方向性が強い表面（正目の木材、立体映像の入ったマウスパッドなど）

明るめの色のマウスパッドや紙など、光の反射を認識しやすい素材を使ったものの上で使用してください。
光学式マウスに対応したマウスパッドの使用を推奨します。
光学式マウスに対応していないものやマウスパッドの模様によっては、正常に動作しない場合があります。

A 平らな場所でマウスを操作しているか確認してください。

マウスは、平らな場所で操作してください。マウスの下にゴミなどがある場合は取り除いてください。

6 指紋認証

Q 指紋の読み取りがうまくいかない

A もう1度正しい姿勢で操作してください。

詳しい操作方法は、「5章 4 指紋認証を使う」または「指紋認証ユーティリティ」のヘルプを参照してください。

A 登録してあるもう1本の指で読み取りを行ってください。

A どうしてもうまくいかない場合は、一時的にキーボードからパスワードを入力してください。

詳しい操作方法は、「5章 4 指紋認証を使う」または「指紋認証ユーティリティ」のヘルプを参照してください。

Q 指にけがをしたため指紋の読み取りができなくなった

A 登録してあるもう1本の指で読み取りを行ってください。

A 登録したすべての指の指紋が読み取れない場合は、一時的にキーボードからパスワードを入力してください。

詳しい操作方法は、「5章 4 指紋認証を使う」または「指紋認証ユーティリティ」のヘルプを参照してください。

Q 認識率が下がったら

A 指紋センサーの表面がよごれていないか確認してください。

よごれている場合には、眼鏡ふき（クリーナークロス）などの柔らかい布で軽くふき取ってからもう1度指紋認証を行ってください。

参照 詳細について「5章 4 指紋認証を使う」

A 指の状態を確認してください。

指に傷があったり、手荒れ、極端に乾燥した状態、ふやけた状態など、指紋登録時と状態が異なると認識できない場合があります。認識率が改善されない場合は、ほかの指で登録してください。

参照 詳細について「5章 4 指紋認証を使う」

A 指の置きかたを確認してください。
指を指紋センサーと平行になるように置き、指紋センサーに指の中央を合わせてください。指紋センサーの上に第1関節がくるように置き、すべらせるときはゆっくりと一定の速さですべらせてください。それでも認証できない場合は、指をすべらせる速さを調整してください。

参照 詳細について「5章 4 指紋認証を使う」

7 メッセージ

Q 「パスワードを入力して下さい。」と表示された

A 「東芝HWセットアップ」またはBIOSセットアップで設定したパスワードを入力し、ENTERキーを押してください。
パスワードを忘れた場合は、使用している機種（型番）を確認後、保守サービスに連絡してください。有料にてパスワードを解除します。その際、身分証明書（お客様自身を確認できる物）の提示が必要となります。

Q 「Enter HDD1 Password」と表示された

A BIOSセットアップで設定したHDDパスワードを使って認証を行ってください。
次の操作を行ってください。

①HDDパスワードを入力し、ENTERキーを押す

HDDパスワードを忘れてしまった場合は、ハードディスクドライブは永久に使用できなくなり、交換対応となります。この場合は有料です。その際、身分証明書（お客様自身を確認できる物）の提示が必要となります。

Q 電源を入れたとき、「認証のため、指でセンサをなぞってください。BIOSパスワードを入力するには、BACKSPACE を押してください。」と表示された

A 指紋認証が必要です。
「指紋認証ユーティリティ」で起動認証機能を有効に設定していると、パスワードを設定している場合に表示されるメッセージの代わりに、指紋認証を行う画面が表示されます。指紋認証を行うと、起動認証機能によってパスワードの認証が行われます。
認証を5回失敗する、またはBACKSPACEキーを押すと、ユーザーパスワードの入力をうながすメッセージが表示されます。指紋認証について詳しくは、「5章 4 指紋認証を使う」または「指紋認証ユーティリティ」のヘルプを参照してください。

Q 起動時に「Windows再開ローダ」が表示され、Windowsが起動しない

A ハードウェアの接続に不具合が起きた、または何らかの原因で電源を切る前の状態を再現できなくなったというメッセージです。

休止状態のままメモリの取り付け／取りはずしをしたときなどに表示されます。電源を切る前の状態は再現できません。
次の操作を行ってください。

①「Windows再開ローダ」で「復元データを削除してシステムブートメニューに進む」が反転表示していることを確認し、ENTERキーを押す
②「Windowsエラー回復処理」で「Windowsを通常起動する」が反転表示していることを確認し、ENTERキーを押す
Windowsが起動します。

Q 「システムの日付または時刻が無効です」と表示された

A 日付と時刻を設定してください。

Windows Update やアプリケーションのセットアップを行う場合は、正しい日付と時刻を設定してから行ってください。

参照 日付と時刻の設定について『Windowsヘルプとサポート』

Q 次のようなメッセージが表示された

- 「Insert system disk in drive.Press any key when ready」
- 「Non-System disk or disk error Replace and press any key when ready」
- 「Invalid system disk Replace the disk,and then press any key」
- 「Boot:Couldn't Find NTLDR Please Insert another disk」
- 「Disk I/O error Replace the disk,and then press any key」
- 「Cannot load DOS press key to retry」
- 「Remove disks or other media.Press any key to restart」
- 「NTLDR is missing Press any key to restart」

A フロッピーディスクや、USBフラッシュメモリなどの起動ディスクを取り出し、何かキーを押してください。

上記の操作を行っても解決しない場合は、『東芝PCサポートのご案内』で必要事項を確認のうえ、東芝PCあんしんサポートに連絡してください。

Q その他のメッセージが表示された

A 使用しているシステムやアプリケーションの説明書を確認してください。

8 その他

Q しばらくパソコンを使用しないでいたら、時計と日付が変更されてしまった

A 時計用バッテリーが不足しています。

時計用バッテリーは、ACアダプターを接続し電源を入れているときに充電されます。

参照 時計用バッテリーについて「4章 1-1-3-時計用バッテリー」

ACアダプターを接続後、次の手順で日付と時刻を設定してください。

① [コントロールパネル] を開き、[時計、言語、および地域] をクリックする
② [日付と時刻] をクリックする
[日付と時刻] 画面が表示されます。
③ [日付と時刻] タブで [日付と時刻の変更] ボタンをクリックする
④ [日付] で日付の修正を行う
⑤ [時刻] に表示されている、デジタル時計の数字の部分をクリックする
「時：分：秒」で項目が分かれているので、変更したい部分をクリックしてください。
⑥ デジタル時計の右端にある上下のボタン（ ）で、時刻の修正を行う
⑦ [OK] ボタンをクリックする
⑧ [日付と時刻] 画面で [OK] ボタンをクリックする

Q イルミネーションLEDを消灯したい

A イルミネーション オン／オフボタンを押してください。

イルミネーションLEDが消灯します。
点灯させるときは、もう1度イルミネーション オン／オフボタンを押してください。
また、「東芝HWセットアップ」で、イルミネーションLED（ロゴLED、タッチパッドイルミネーションLED、ボタンバックライトLED）の点灯と消灯を設定することもできます。

① [スタート] ボタン（ ）→ [すべてのプログラム] → [TOSHIBA] → [ユーティリティ] → [HWセットアップ] をクリックする
「東芝HWセットアップ」が起動します。
② [イルミネーション] タブをクリックし、[イルミネーションLED] の [オフ] をチェックする
点灯させるときは [オン] をチェックしてください。
③ [OK] ボタンをクリックする
イルミネーションLEDが消灯します。

Q ハードディスクからリカバリーできなくなったときは

A ハードディスクドライブに搭載されているリカバリー（再セットアップ）ツール（システムを復元するためのもの）のデータが破損、もしくは誤って消去されている可能性があります。
また、市販のソフトウェアを使用してパーティションの構成を変更すると、リカバリーができなくなることがあります。
「TOSHIBA Recovery Media Creator」で作成したリカバリーメディアを使って、リカバリーしてください。

参照 リカバリーの操作方法
『準備しよう 5章 2-3 リカバリーメディアからリカバリーをする』

リカバリーメディアがない場合は、修理が必要になる可能性があります。東芝PCあんしんサポートに相談してください。

参照 修理のお問い合わせについて『東芝PCサポートのご案内』

Q 異常な臭いや過熱に気づいた！

A パソコン本体、周辺機器の電源を切り、電源コードのプラグをコンセントから抜いてください。安全を確認してバッテリーパックをパソコン本体から取りはずしてから東芝PCあんしんサポートに相談してください。
なお、連絡の際には次のことを伝えてください。

- 使用している機器の名称
- 購入年月日
- 現在の状態（できるだけ詳しく連絡してください）

参照 修理のお問い合わせについて『東芝PCサポートのご案内』

Q このQ&A集を読んでも解決できない

A このほかにもいろいろな解決方法があります。

1「パソコンで見るマニュアル」の「Q&A集」を見る
本書のQ&A集は、パソコンの電源が入らないなど、「パソコンで見るマニュアル」を見られない状況でのQ&Aのみ記載しています。「パソコンで見るマニュアル」の「Q&A集」には、このほかにも困ったことが起きた場合の対処方法を記載しています。「パソコンで見るマニュアル」が見られる場合は、確認してみてください。
「パソコンで見るマニュアル」を起動し、［Q&A集］をクリックすると、Q&Aの一覧が表示されます。

2「パソコンで見るマニュアル」や「おたすけナビ」で調べる
「パソコンで見るマニュアル」や「おたすけナビ」には、パソコン内の電子マニュアルで、検索する機能があります。知りたい内容がこのQ&A集に載っていない場合は、「パソコンで見るマニュアル」や「おたすけナビ」で検索してみてください。詳しくは、「パソコンで見るマニュアル」または「おたすけナビ」のヘルプを参照してください。

- 「パソコンで見るマニュアル」のヘルプの起動方法
  ①デスクトップ上の［おたすけナビ］（おたすけナビ）をダブルクリック→［パソコンで見るマニュアル］タブの［パソコンで見るマニュアルTOP］ボタンをクリックする
  ②［このマニュアルの使いかた］をクリックする
- 「おたすけナビ」のヘルプの起動方法
  ①デスクトップ上の［おたすけナビ］（おたすけナビ）をダブルクリックする
  ②［ヘルプ］をクリックする

3 「あなたのdynabook.com」や「dynabook.com」の「よくあるご質問 FAQ」を調べる

インターネットに接続できるときは、東芝PC総合情報サイト「dynabook.com」でサポート情報を見てください。お問い合わせの多い質問やホットなQ&Aが掲載されています。

参照 dynabook.com『東芝PCサポートのご案内』

「A．回答・対処方法」の説明を読んでも問題が解決しない場合は、説明のあとのアンケートに引き続き、質問メールを出すこともできます。

＊メールでの質問には「お客様登録」が必要です。

4 東芝PCあんしんサポートに電話する

パソコン本体のトラブルは、東芝PCあんしんサポートでお答えします。『東芝PCサポートのご案内』で必要事項を確認のうえ、東芝PCあんしんサポートに連絡してください。

参照 『東芝PCサポートのご案内』

Q 操作できない原因がどうしてもわからない

A パソコン本体のトラブルの場合は、『東芝PCサポートのご案内』で必要事項を確認のうえ、東芝PCあんしんサポートに連絡してください。

A アプリケーションのトラブルの場合は、各アプリケーションのサポート窓口にお問い合わせください。

参照 アプリケーションのお問い合わせ先「7章 お問い合わせされるときは」

A 周辺機器のトラブルの場合は、各周辺機器のサポート窓口にお問い合わせください。

参照 周辺機器のお問い合わせ先『周辺機器に付属の説明書』

7章

お問い合わせされるときは

本製品に用意されているOS、アプリケーションのお問い合わせ先を紹介しています。
各アプリケーションを使っていて困ったときは、こちらに連絡してください。

1 お問い合わせ先 ―OS／アプリケーション―

＊2010年4月現在の内容です。
　各社の事情で、受付時間などが変更になる場合があります。

1 OSのお問い合わせ先

Windows 7についてのサポート情報は、下記のホームページをご覧ください。

http://www.microsoft.com/japan/windows/default.mspx

Windows 7に関する一般的なお問い合わせは、東芝PCあんしんサポートになります。

2 アプリケーションのお問い合わせ先

各アプリケーションのユーザー登録については、それぞれのお問い合わせ先までお問い合わせください。
インストールされているアプリケーションはご購入のモデルにより異なります。

Microsoft Office Excel／Microsoft Office OneNote／Microsoft Office Outlook／Microsoft Office PowerPoint／Microsoft Office Word／Microsoft Office ナビ

サポート受付窓口

●基本操作に関するお問い合わせ

＜メールサポート＞

以下のWeb サイトにアクセスし、ご質問または問題に関連する製品を選択してください。

URL　：http://support.microsoft.com/oas/

受付時間　：24時間いつでも受け付けています。

＜電話サポート＞

電話番号　：0120-54-2244
※ご利用の際は、電話番号をお間違えないようご注意ください。
※音声ガイダンスが流れますので、ガイダンスに従って番号のご選択をお願いいたします。

受付時間　：月曜日～金曜日：9:30～12:00、13:00～19:00
土曜日：10:00～17:00
（祝日、マイクロソフト株式会社指定休業日を除きます。マイクロソフト株式会社指定休業日以外で日曜日が祝日である場合には、日曜日は上記どおり受付を行い、翌日の振替休日が休業となります。）

● **サポート有効期間**　：お客様が初めてお問い合わせいただいた日から起算して90日間（※）
※サポートライフサイクル期間内

お問い合わせに関する詳細は、本体に同梱されている冊子『Office 2010 お使いになる前に』をご覧ください。

ウイルスバスター2010 90日無料版

ウイルスバスターサービスセンター

受付時間　：9:30～17:30

TEL　：0570-008326
03-5334-1035（IP電話・光電話からのお問い合わせ）

E-mail　：http://tmqa.jp/r924/

ホームページ　：http://tmqa.jp/toshiba/

マカフィー・サイトアドバイザプラス
マカフィー・テクニカルサポートセンター （サイトアドバイザプラスに関する技術的な問い合わせ） 受付時間　：9:00～21:00（年中無休） TEL　：0570-060-033（ナビダイヤル） 03-5428-2279（ナビダイヤルがご利用いただけないお客様用） E-mail　：以下のWebフォームをご利用ください。 http://www.mcafee.com/japan/mcafee/support/supportcenter_inquiry_ts.asp ホームページ：http://www.mcafee.com/japan/mcafee/support/SA/
マカフィー・カスタマーオペレーションセンター （サイトアドバイザプラスに関するユーザー登録や登録情報変更などの製品以外に関する問い合わせ） 受付時間　：月曜～金曜：9:00～17:00（年末年始、祝日を除く） TEL　：0570-030-088（ナビダイヤル） 03-5428-1792（ナビダイヤルがご利用いただけないお客様用） E-mail　：以下のWebフォームをご利用ください。 http://www.mcafee.com/japan/mcafee/support/supportcenter_inquiry_coc.asp ホームページ：http://www.mcafee.com/japan/mcafee/support/SA/
マカフィー・インフォメーションセンター （製品購入前の製品に関する問い合わせ、サイトアドバイザプラスでのサイト評価に関する問い合わせ） 受付時間　：月曜～金曜：9:00～17:00（年末年始、祝日を除く） TEL　：0570-010-220（ナビダイヤル） 03-5428-1899（ナビダイヤルがご利用いただけないお客様用） E-mail　：以下のWebフォームをご利用ください。 http://www.mcafee.com/japan/mcafee/home/msup/information_center.asp ホームページ：http://www.mcafee.com/japan/mcafee/support/SA/
マカフィー・テクニカルサポートセンターではチャットによるサポートもご提供しています。 チャット　：http://www.mcafee.com/japan/mcafee/support/chat.asp

ATOK 2010 for Windows（60日間無償試用版） for TOSHIBA
●無償試用版の使い方に関するお問い合わせ **ジャストシステム 期間限定版専用サポート** 受付時間　：平日10:00～17:00（土日祝、特別休業日を除く） TEL　：088-666-1523 ホームページ：http://support.justsystems.com/

BroadNewsStreet

ニューズウォッチ

受付時間　：平日 10:00～17:00
（土、日、祝日、およびニューズウォッチが別途定める日はサポートの対象外となります。）
E-mail　：toshibapc@newswatch.co.jp
ホームページ：http://www.newswatch.co.jp/bns/toshibapc/

Corel Digital Studio

コーレル株式会社　インタービデオ　テクニカルサポート

お問い合わせの前にホームページ（http://www.corel.jp/support/）をご確認ください。
当製品の無償サポート期間は、ご購入後１年間となります。

受付時間　：月～金 10:00～12:00、13:30～17:30
（12:00～13:30、土日祝祭日、ならびに指定休業日を除く）
TEL　：045-226-3899
E-mail　：メールでのお問い合わせは、以下のURLに掲載されている専用のメールフォームをご利用ください。
http://www.corel.jp/support/
ホームページ：http://www.corel.jp/

CyberLink SoftDMA for TOSHIBA／MediaShow for TOSHIBA

サイバーリンク　カスタマーサポート

受付時間　：10:00～13:00／14:00～17:00
（土・日・祝日・休業日を除く）
TEL　：0570-080-110
03-5977-7530（PHS、IP電話をご使用の場合）
ホームページ：http://jp.cyberlink.com/support/

Webからのお問い合わせは365日24時間受け付けておりますが、回答を差し上げるのは、サイバーリンク株式会社営業時間内になります。そのため土日祝日や深夜に頂いたご質問は回答を差し上げるのが翌営業日以降になります。

ebi.BookReader3J

株式会社 イーブック イニシアティブ ジャパン eBookJapanサポートセンター

http://www.ebookjapan.jp/ebj/support/index.asp?dealerid=107

受付時間　：10:00～18:00 (土日祝日除く）
E-mail　：support@ebookjapan.co.jp
ホームページ：http://www.ebookjapan.jp/ebj/?dealerid=107

EdyViewer	
ビットワレット株式会社 Edy救急ダイヤル	
受付時間	：平日　9:30～19:00　土・日・祝祭日　10:00～18:00 （休業日：年末年始および毎年10月第3土曜日）
TEL	：0570-081-999（044-520-1761） ※音声ガイダンスによる案内
E-mail	：info@bitwallet.co.jp
ホームページ	：http://www.edy.jp/

FeliCa Secure Client／FeliCaブラウザエクステンション／FeliCaポート自己診断／FeliCaランチャー／NFRM PC Viewer／SFCard Viewer／かざして転送 [画像]／かざして転送 [テキスト]／かんたん登録2／シンプルログオン／スクリーンセーバーロック2／パーソナルシェルター

●ユーザー登録に関するお問い合わせ

ユーザー登録ご相談窓口

受付時間	：平日 10:00～19:00、土・日・祝日 10:00～17:00（特別休業日を除く）
TEL	：東京 03-5412-2624　大阪 06-6886-2624
ホームページ	：http://www.justsystems.com/jp/service/

●製品の使い方に関するお問い合わせ

ジャストシステムサポートセンター

※サポートセンターへお問い合わせの際には、お客様のUser IDおよび製品のシリアルナンバーが必要です。

受付時間	：平日 10:00～19:00、土・日・祝日 10:00～17:00（特別休業日を除く）
TEL	：東京 03-5412-3980　大阪 06-6886-7160
ホームページ	：http://support.justsystems.com/

FlipViewer／FlipBook	
イーブック・システムズ株式会社　FlipViewerサポート	
受付時間	：月～金（祝日除く）10:00～17:00
E-mail	：fv-support@ebooksystems.co.jp ※メールのみの対応となります。
ホームページ	：https://secure.ebooksystems.co.jp/support/FV-contact.php

Google ツールバー	
ホームページ	：http://www.google.co.jp/support/toolbar/

i-フィルター5.0

デジタルアーツ株式会社　サポートセンター

受付時間　：平日10:00～18:00　土・日・祝日 10:00～20:00
（デジタルアーツ指定休業日を除く）
TEL　：平日03-3580-5678　土・日・祝日 0570-00-1334
よくある質問：http://www.daj.jp/faq/
ユーザーサポートお問い合わせフォーム
：http://www.daj.jp/ask/

Super LoiLoScope

株式会社LoiLo

●Super LoiLoScope に関するお問い合わせ

お問い合わせの前にFAQ（http://loilo.tv/product/1/faq）をご確認ください。

受付時間　：平日9:00～18:00（土日祝、特別休業日を除く）
E-mai　：loilo@loilo.tv
Webからのお問い合わせ
：http://loilo.tv/product/1/support

内容により回答に日数を要する場合もありますので、あらかじめご了承ください。

テレビNavi ガジェット

株式会社プレゼントキャスト　テレビNavi ガジェットお問い合わせ窓口

E-mail　：gadget@presentcast.co.jp

駅探エクスプレス

駅探エクスプレスサポート

受付時間　：メールのため受付時間の制限はありません。
※webmasterからの返信は、基本的に平日（10:00～18:00）の対応とさせていただいております。
また、内容により返信できない場合、回答に日数を要する場合もありますので、あらかじめご了承ください。
E-mail　：express-support@ekitan.com
ホームページ：http://express.ekitan.com/

デジタル全国地図 いつも NAVI

ゼンリンデータコム　お客様相談室

受付時間　：10:00～17:00　月～金（祝日・指定休日は除く）
E-mail　：itsmo_navi@zenrin-datacom.net
ホームページ：http://www.zmap.net/contactus/index.html

乗換案内 VER.5
ジョルダン株式会社 乗換案内ユーザーサポート 受付時間　：平日 10:00〜12:00、13:00〜17:00　＊平日のみ TEL　：03-5369-4055 FAX　：03-5369-4064 E-mail　：norikae@jorudan.co.jp ホームページ：http://norikae.jorudan.co.jp 2010年10月31日までの間、乗換案内のユーザー登録をしたお客様に限り1回のみインターネット経由で最新の時刻表を含むプログラムにアップデートしていただくことが可能です。インターネット環境がないお客様は、最新の時刻表を含むプログラムCD-ROMを1,260円（消費税および送料込）にて1回のみご購入いただけます。

筆ぐるめ
富士ソフト株式会社　インフォメーションセンター 受付時間　：9:30〜12:00、13:00〜17:00（土・日・祝祭日・休業日を除く） 11月1日から12月30日までは無休 TEL　：03-5600-2551 FAX　：03-3634-1322 E-mail　：users@fsi.co.jp ホームページ：http://info.fsi.co.jp/fgw/

Adobe Flash Player／Adobe Reader／BD DVD PLAYER／ConfigFree／dynabookポータルガジェット／dynabookランチャー／Internet Explorer／Java™ 2 Runtime Environment／LaLaVoice／PCあんしん点検ユーティリティ／PC引越ナビ／Qosmio AV Center／TOSHIBA Bulletin Board／TOSHIBA Disc Creator／TOSHIBA DVD PLAYER／TOSHIBA Face Recognition／TOSHIBA Flash Cards／TOSHIBA Media Controller／TOSHIBA Media Controller Plug-in／TOSHIBA Net Movie Player／TOSHIBA Recovery Media Creator／TOSHIBA ReelTime／TOSHIBA Remote Control Manager／TOSHIBA Smooth View／TOSHIBA UpconvertPlug-in／Windows Live Messenger／Windows Live Writer／Windows Live フォトギャラリー／Windows Live ムービーメーカー／Windows Live メール／Windows Media Center／Windows Media Player／WinDVD BD for TOSHIBA／おたすけナビ／動画で解決！操作ガイド／動画で学ぶシリーズ／東芝DVD-RAMユーティリティ／東芝ecoユーティリティ／東芝HDDプロテクション／東芝HDコンソール／東芝HWセットアップ／東芝PC診断ツール／東芝PCヘルスモニタ／東芝USBスリープ アンド チャージ ユーティリティ／東芝ウェブカメラアプリケーション／東芝グラフィカルビデオライブラリ／東芝サービスステーション／東芝ジェスチャコントローラ／東芝省電力／東芝ファイルレスキュー／東芝フィンガープリントセキュリティ／東芝ボタンサポート／パソコンで見るマニュアル／ぱらちゃん／無線LANらくらく設定
東芝（東芝PCあんしんサポート） 全国共通電話番号 ： 0120-97-1048（通話料・電話サポート料無料） おかけいただくと、ガイダンスが流れます。ガイダンスに従って操作してください。 技術的な質問、お問い合わせは、ガイダンスの後で 1 をプッシュしてください。 技術相談窓口　受付時間：9:00～19:00（年中無休） [電話番号はおまちがえないよう、ご確認の上おかけください] 海外からの電話、携帯電話、PHS、または直収回線など回線契約によってはつながらない場合がございます。その場合はTEL 043-298-8780（通話料お客様負担）にお問い合わせください。 システムメンテナンスのため、サポートを休止させていただく場合がございます。日程は、dynabook.com「サポート情報」（http://dynabook.com/assistpc/index_j.htm）にてお知らせいたします。

付録

本製品の機能を使用するにあたってのお願いや技術基準適合などについて記しています。

1 ご使用にあたってのお願い

本書で説明している機能をご使用にあたって、知っておいていただきたいことや守っていただきたいことがあります。次のお願い事項を、本書の各機能の説明とあわせて必ずお読みください。

1 パソコン本体について

スイッチ／ボタンの操作にあたって

- スイッチ／ボタンを強く押さえたり、ボールペンなどの先の鋭いものを使わないでください。スイッチ／ボタンが故障するおそれがあります。

機器への強い衝撃や外圧について

- 機器に強い衝撃や外圧を与えないように注意してください。製品には精密部品を使用しておりますので、強い衝撃や外圧を加えると部品が故障するおそれがあります。
- パソコンの表面を硬いものでこすると傷がつくことがあります。
取り扱いにはご注意ください。

タッチパッドの操作にあたって

- タッチパッドを強く押さえたり、ボールペンなどの先の鋭いものを使わないでください。
タッチパッドが故障するおそれがあります。

付録

2 ハードディスクドライブについて

操作にあたって

- Disk ⊖ LEDが点灯中は、パソコン本体を動かしたりしないでください。ハードディスクドライブが故障したり、データが消失するおそれがあります。
- ハードディスクに保存しているデータや重要な文書などは、万が一故障が起こったり、変化／消失した場合に備えて、定期的にCD／DVD／ブルーレイディスクなどに保存しておいてください。記憶内容の変化／消失など、ハードディスク、CD／DVD／ブルーレイディスクなどに保存した内容の損害については、当社はいっさいその責任を負いませんので、あらかじめご了承ください。
- 磁石、スピーカー、テレビ、磁気ブレスレットなど磁気を発するものの近くに置かないでください。記憶内容が変化／消失するおそれがあります。
- パソコン本体を落とす、ぶつけるなど強い衝撃を与えないでください。ハードディスクの磁性面に傷が付いて、使えなくなることがあります。磁性面に付いた傷の修理はできません。

東芝HDDプロテクションの使用にあたって

- 東芝HDDプロテクションは、振動・衝撃およびその前兆を検出するとHDDのヘッドを退避させ、ヘッドとメディアの接触によってHDDが損傷する危険性を軽減するものです。ただしその効果を保証するものではありません。故障などの際は当社保証規定に従って修理いたします。また、故障などによりHDDの記憶内容が変化・消失する場合がありますが、これによる損害、および本製品の使用不能から生じた損害については当社はその責任をいっさい負いません。大切なデータは必ずお客様の責任のもと普段からこまめにバックアップされるようお願いします。

3 CD／DVD／ブルーレイディスクについて

操作にあたって

- ディスクトレイLEDが点灯しているときは、イジェクトボタンを押したり、CD／DVD／ブルーレイディスクを取り出す操作をしないでください。CD／DVD／ブルーレイディスクが傷ついたり、ドライブが壊れるおそれがあります。
- パソコン本体を持ち運ぶときは、ドライブにCD／DVD／ブルーレイディスクが入っていないことを確認してください。入っている場合は取り出してください。
- ディスクトレイ内のレンズおよびその周辺に触れないでください。ドライブの故障の原因になります。
- 電源が入っているときには、イジェクトホールを押さないでください。回転中のCD／DVD／ブルーレイディスクのデータやドライブが壊れるおそれがあります。

参照 イジェクトホールについて
「1章 4-3-CD／DVD／ブルーレイディスクが出てこない場合」

- ディスクトレイを開けたときに、CD／DVD／ブルーレイディスクが回転している場合には、停止するまでCD／DVD／ブルーレイディスクに手を触れないでください。けがのおそれがあります。
- CD／DVD／ブルーレイディスクをディスクトレイにセットするときは、無理な力をかけないでください。
- CD／DVD／ブルーレイディスクを正しくディスクトレイにセットしないとCD／DVD／ブルーレイディスクを傷つけることがあります。
- 本製品では、8cm、12cmのCD／DVD／ブルーレイディスクのみ使用できます。これら以外のCD／DVD／ブルーレイディスクは使用できません。

4 無線LANについて

無線LANを使用するにあたって

- 無線LANの無線アンテナは、できるかぎり障害物が少なく見通しのきく場所で最も良好に動作します。無線通信の範囲を最大限有効にするには、ディスプレイを開き、本や分厚い紙の束などの障害物でディスプレイを覆わないようにしてください。
また、パソコンとの間を金属板で遮へいしたり、無線アンテナの周囲を金属性のケースなどで覆わないようにしてください。

- 無線LANは無線製品です。各国／地域で適用される無線規制については、「付録 4 無線LANについて」を確認してください。
- 本製品の無線LANを使用できる地域については、「付録 4 - 7 使用できる国／地域について」を確認してください。

無線LANの操作にあたって

- Bluetoothと無線LANは同じ無線周波数帯を使用するため、同時に使用すると電波が干渉し合い、通信速度の低下やネットワークが切断される場合があります。接続に支障がある場合は、今お使いのBluetooth、無線LANのいずれかの使用を中止してください。
- アドホックネットワーク機能で、設定されているネットワーク名へのネットワーク接続が不可能になる場合があります。
  この場合、再度ネットワーク接続を可能にするには、同じネットワーク名で接続されていたコンピューターすべてに対して、新たに別のネットワーク名で設定を行う必要があります。

5 周辺機器について

周辺機器の取り付け／取りはずしについて

- 取り付け／取りはずしの方法は周辺機器によって違います。3章および《パソコンで見るマニュアル》の「パソコンの設定」にある「周辺機器を使う」を読んでから作業をしてください。またその際には、次のことを守ってください。守らなかった場合、故障するおそれがあります。
  - ・ホットインサーションに対応していない周辺機器を接続する場合は、必ずパソコン本体の電源を切ってから作業を行ってください。ホットインサーションとは、電源を入れた状態で機器の取り付け／取りはずしを行うことです。
  - ・適切な温度範囲内、湿度範囲内であっても、結露しないように急激な温度変化を与えないでください。冬場は特に注意してください。
  - ・ホコリが少なく、直射日光のあたらない場所で作業をしてください。
  - ・極端に温度や湿度の高い／低い場所では作業しないでください。
  - ・静電気が発生しやすい環境（乾燥した場所やカーペット敷きの場所など）では作業をしないでください。
  - ・本書で説明している場所のネジ以外は、取りはずさないでください。
  - ・作業時に使用するドライバーは、ネジの形、大きさに合ったものを使用してください。
  - ・本製品を分解、改造すると、保証やその他のサポートは受けられません。
  - ・パソコン本体のコネクタにケーブルを接続するときは、コネクタの上下や方向を合わせてください。
  - ・パソコン本体のコネクタにケーブルを接続した状態で、接続部分に無理な力を加えないでください。

メモリの増設の操作にあたって

- 必ずパソコン本体の電源を切り、電源プラグをコンセントからはずし、電源コネクタからACアダプターのプラグを抜き、バッテリーパックを取りはずしてから作業を行ってください。
- パソコン本体やメモリのコネクタに触らないでください。コネクタにゴミや油が付着すると、メモリが正常に使用できなくなります。

- メモリは、コネクタに差し込む部分ではなく両端（丸く欠けている部分）を持つようにしてください。
- メモリを強く押したり、曲げたり、落としたりしないでください。
- スリープ／休止状態中にメモリの取り付け／取りはずしを行わないでください。スリープ／休止状態が無効になります。また、保存されていないデータは消失します。
- ネジをゆるめる際は、ネジの種類に合ったドライバーを使用してください。
- キズや破損を防ぐため、布などを敷いた安定した台の上にパソコン本体を置いて作業を行ってください。

❏ 静電気について

- メモリは、精密な電子部品のため静電気によって回復不能な損傷を受けることがあります。人間の体はわずかながら静電気を帯びていますので、メモリを取り付ける前に静電気を逃がしてから作業を行ってください。手近にある金属製のものに軽く指を触れるだけで、静電気を防ぐことができます。

USB対応機器の操作にあたって

- 電源供給を必要とするUSB対応機器を接続する場合は、USB対応機器の電源を入れてからパソコン本体に接続してください。
- USB対応機器を使用するには、システム（OS）が対応しており、機器用ドライバーがインストールされている必要があります。
- すべてのUSB対応機器の動作確認は行っていません。したがってすべてのUSB対応機器の動作は保証できません。
- USB対応機器を接続したままスリープまたは休止状態にすると、復帰後USB対応機器が使用できない場合があります。その場合は、USB対応機器を接続し直すか、パソコンを再起動してください。

付録

❏ 取りはずす前に確認しよう

- 取りはずすときは、USB対応機器をアプリケーションやシステムで使用していないことを確認してください。
- USBフラッシュメモリやUSB接続のハードディスクドライブなど、記憶装置のUSB対応機器を取りはずす場合は、データを消失するおそれがあるため、必ずシステム上で使用停止の手順を行ってください。

❏ USBの常時給電について

- 本機能は初期設定では無効になっておりますので、使用するには「東芝USBスリープ アンド チャージ ユーティリティ」で本機能を有効にする必要があります。
- 本機能を「東芝USBスリープ アンド チャージ ユーティリティ」で有効にした際、⚡ アイコンが付いているUSBコネクタに接続しているUSB周辺機器が正しく動作しない場合があります。この場合、本機能を「東芝USBスリープ アンド チャージ ユーティリティ」で無効に設定してください。
- 本機能を利用しての充電は、専用充電器で充電する場合と比較して、より多くの充電時間が必要になることがあります。
- 常時給電を有効にしている場合は、電源OFFの状態でもバッテリーが消費されます。バッテリー駆動時間や休止状態の保持時間が短くなるので、ACアダプターを接続して使用することをおすすめします。

- USB対応機器の給電中にパソコン本体の電源を入れるとUSB対応機器が正常に認識されない場合があります。この場合は、1度USB対応機器を取りはずしてから再接続してください。
- USB対応機器の給電中にパソコン本体の電源を切ると正常に充電できない場合があります。この場合は、1度USB対応機器を取りはずしてから再接続を試みてください。
- パソコン本体の電源ON/OFFと連動するUSBバスパワー（DC5V）連動機能を持つ外部機器は、常に動作状態になることがあります。
- 常時給電に対応したUSBコネクタに接続された外部機器の使用電流が過大の場合、安全性確保のためUSBバスパワー（DC5V）の供給を停止させることがあります。
- 「東芝USBスリープ アンド チャージ ユーティリティ」の設定で、本機能の設定が「有効にする」になっていると、常時給電に対応したUSBコネクタでは「USB WakeUp 機能」*1が機能しません。
  常時給電に対応したUSBコネクタで「USB WakeUp 機能」を使用する場合は、本機能の設定を「無効にする」に設定してください。
  ＊1 USB WakeUp機能とは、USBコネクタに接続した外部機器によってパソコン本体をスリープ状態から復帰させる機能です。本機能は、すべてのUSBコネクタで有効です。

❏ 東芝USBスリープ アンド チャージ ユーティリティについて

「東芝USBスリープ アンド チャージ ユーティリティ」は、USBの常時給電に対応しているUSBコネクタの設定を行うことができます。常時給電の機能を有効／無効に設定できます。

- 起動方法
  ① [スタート］ボタン（ ）→［すべてのプログラム］→［TOSHIBA］→［ユーティリティ］→［USB スリープ アンド チャージ］をクリックする
  ［東芝スリープアンドチャージインフォメーション］画面が表示されます。
  ② [OK］ボタンをクリックする

付録

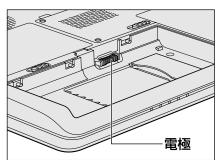
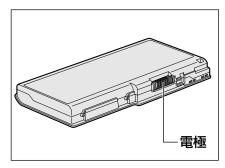
テレビ／外部ディスプレイ接続の操作にあたって

- すべてのテレビまたは外部ディスプレイと接続動作確認は行っていません。したがって、すべてのテレビまたは外部ディスプレイへの表示は保証できません。
  テレビまたは外部ディスプレイによっては正しく表示されない場合があります。
- 必ず、DVDなどを再生する前に、表示装置の切替えを行ってください。再生中は表示装置を切り替えないでください。
- 次のようなときには、表示装置を切り替えないでください。
  ・データの読み出しや書き込みをしている間
  ・通信を行っている間
- 拡張表示でテレビまたは外部ディスプレイをプライマリデバイスに設定した場合、スリープまたは休止状態のときにテレビまたは外部ディスプレイをはずさないでください。スリープまたは休止状態から復帰したときにログオン画面が表示されずに、操作ができなくなることがあります。
- HDMI出力端子にテレビまたは外部ディスプレイを接続しているときに、ほかのコネクタにテレビまたは外部ディスプレイや外部サウンド機器が接続されている場合、画面表示を切り替えたりHDMIケーブルを抜き差ししたりすると、システムによって自動的に画面表示または音声の出力が切り替わることがあります。

- 外部ディスプレイに表示したときに、デスクトップ画面の周りに黒い帯が表示され、デスクトップ画面が外部ディスプレイの中央に小さく表示されることがあります。
  その場合は『外部ディスプレイに付属の取扱説明書』を参照して、外部ディスプレイがサポートしている画面モードに設定してください。適切なサイズと適切なアスペクト比で表示されます。

6 バッテリーについて

バッテリーを使用するにあたって

- バッテリーパックの取り付け／取りはずしをする場合は、必ず電源を切り、電源プラグをコンセントからはずし、電源コネクタからACアダプタープラグを抜いてから作業を行ってください。スリープを実行している場合は、バッテリーパックの取りはずしをしないでください。データが消失します。
- 電極に手を触れないでください。故障の原因になります。

- バッテリーパックをパソコンに取り付けるときは、バッテリー安全ロックがロック側になっていることを必ず確認してください。
  安全ロックがロック側になっていないと、持ち運びのときにバッテリーパックがはずれて落ちるおそれがあります。

参照 詳細について「4章 1-3 バッテリーパックを交換する」

- バッテリー駆動で使用しているときは、バッテリーの残量に十分注意してください。
  バッテリーを使いきってしまうと、スリープが効かなくなり、電源が切れて、メモリに記憶されていた内容はすべて消えます。また、時計用バッテリーを使いきってしまうと、時刻や日付に誤差が生じます。このような場合は、ACアダプターを接続してバッテリーと時計用バッテリーを充電してください。

バッテリーを充電するにあたって

- バッテリーパックの温度が極端に高いまたは低いと、正常に充電されないことがあります。
  バッテリーは5～35℃の室温で充電してください。

社団法人　電子情報技術産業協会の「バッテリ関連Q&A集」について
http://it.jeita.or.jp/perinfo/committee/pc/battery/menu1.htm

7 FeliCaポートについて

FeliCaポートの操作にあたって

- FeliCaポートの位置を示すマークは、FeliCa対応製品をかざす際の指示となるものです。誤ってはがさないようご注意ください。
- すべてのFeliCa対応製品について、本製品のFeliCaポート上での動作確認を行っていません。したがって、すべてのFeliCa対応製品をFeliCaポートにかざしたときの動作は保証できません。
- 本製品のFeliCaポートは、電波法に基づく型式指定を受けた誘導式読み書き通信設備です。
- FeliCaポートにFeliCa対応製品を強くたたきつけたり、落としたりすると故障の原因になります。
- FeliCaポートが正常に動作しない場合は、以下の手順に従って不具合があるか確認してください。

  ①ワイヤレスコミュニケーションスイッチをオンにする

  参照 「1章 7-1 FeliCa対応製品をかざす」

  ②「FeliCaランチャー」のポーリングをオフにする

  参照 「本節 - 7 - ポーリングについて」

  ③［スタート］ボタン（ ）→［すべてのプログラム］→［FeliCaポート］→［FeliCaポート自己診断］をクリックする
  表示される画面に従って、確認してください。

ポーリングについて

FeliCaポート上にFeliCa対応製品がかざされているかどうか、FeliCaポートがチェックする動作をポーリングといいます。

通知領域の［FeliCaランチャー］アイコン（ ）の上にポインターを置くと、ポーリングが行われているときは「ポーリングオン」、行われていないときは「ポーリングオフ」と表示されます。
「FeliCaランチャー」のポーリングの状態は、次の手順で変更できます。
①通知領域の［FeliCaランチャー］アイコンをクリックする
　＊通知領域にアイコンが表示されていない場合は、 をクリックしてください。
　ポーリングが行われていないと、FeliCa対応製品をかざしても、「FeliCaランチャー」は起動しません。

ワイヤレスコミュニケーションスイッチをオフにすると、ポーリングはいっさい行われなくなります。
FeliCaポートを使用するときは、スイッチをオンにしてください。

暗証番号・パスワードについて

FeliCa対応製品で提供されている電子マネーなどのサービスは、現金やクレジットカードなどと同等の価値があります。カードの暗証番号や各サービスを受ける際のパスワードについては、他人に知られないように取り扱いに注意してください。
暗証番号やパスワードの漏えいによってサービスの不正利用が行われた場合の損害について、当社はいっさいの責任を負いません。

8 Webカメラについて

Webカメラを使用するにあたって

- Webカメラを太陽に直接向けないでください。
- Webカメラのレンズ部分に触れたり、強く押したりしないでください。画質が低下する原因となります。
  レンズ部分が汚れた場合は、眼鏡ふき（クリーナークロス）などの柔らかい布でふいてください。

9 顔照合機能について

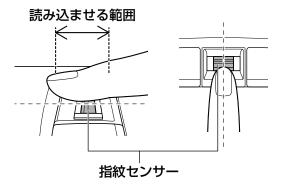
- 「TOSHIBA Face Recognition」は本人の認証・照合を保証するものではありません。
  登録者の髪型・帽子の有無・眼鏡の有無など登録時と顔に変化があると認識率が低下する可能性があります。
- 登録者に似ている顔を誤照合する場合があります。
- セキュリティを目的としたWindowsパスワードの置き換えには適しません。
  セキュリティが重要な場合には、適切なWindowsパスワードをログインにお使いください。
- 周囲の明るさや光の方向の違いがあると、登録者であっても正しく照合できない場合があります。その場合はWindowsパスワードを使ってログインしてください。
  登録者本人の照合に連続して失敗する場合には、追加学習を行うと照合しやすくなります。
- 顔照合に失敗した顔データをログ情報として記録していますので、パソコンを廃棄するときにはアプリケーションをアンインストールするか、「TOSHIBA Face Recognition」を起動しログを全件削除してください。
- 「TOSHIBA Face Recognition」の使用または使用不能から生じる付随的な損害（記憶内容の変化・消失、事業利益の損失、事業の中断など）に関して当社はいっさいの責任を負いかねますので、ご了承ください。
- 当社は、以下に関していっさいの責任を負いかねますので、ご了承ください。
  - ・取扱説明書の記載内容を守らないことにより生じた不便または損害
  - ・当社が関与しない接続機器、ソフトウェアとの組み合わせによる不具合、またはその結果生じた不便または損害
  - ・顔情報や照合履歴など記憶内容の消失、あるいは漏えいなどにより生じるいかなる損害、クレームなど（「TOSHIBA Face Recognition」に登録された顔情報など記憶内容は、お客様の責任において管理願います。）
  - ・何らかの原因による登録・照合に関する不動作。
    および、不動作に起因する損害。

10 指紋認証について

指紋認証の操作にあたって

指紋センサーは非常に高度な技術で作られておりますので、次の取扱注意事項を守ってご使用ください。特に指紋センサー表面の取り扱いには十分ご注意ください。

- 次のような取り扱いをすると故障したり、指紋が認証されない原因になります。
  - ・指紋センサー表面を爪などの硬いものでこすったりひっかいたりする
  - ・指紋センサー表面を強く押す
  - ・濡れた手で指紋センサー表面を触る
    指紋センサーの表面に水蒸気などをあてず、乾燥した状態に保ってください。
  - ・化粧品や薬品、砂や泥などの付いた手で指紋センサー表面を触る
    砂などの小さい物でも、指紋センサーを傷つける場合があります。
  - ・指紋センサー表面にシールなどをはる
  - ・指紋センサー表面に鉛筆やボールペンなどで書く
  - ・指紋センサー表面を静電気を帯びた手や布などで触る
- 指紋センサーをご使用になるときには、次の点にご注意ください。
  - ・手が汚れている場合には手を洗い、完全に水分をふき取る
  - ・金属に手を触れるなどして、静電気を取り除く
    特に空気が乾燥する冬場には注意してください。静電気は指紋センサーの故障原因になります。
  - ・眼鏡ふき（クリーナークロス）などの柔らかい布でセンサーの汚れをふき取る
    このとき、洗剤は使用しないでください。
  - ・指と指紋センサーが横から見て平行になるように指を置く
  - ・指紋センサーと指の中央を合わせる
  - ・指紋センサーの上に第1関節がくるように置く
  - ・すべらせるときにはゆっくりと一定のはやさで手前にすべらせる
    それでも認識されない場合は、はやさを調整してください。
  - ・右の図のように、指を上下や左右にぶれさせず、指紋センサーが完全に見える状態になるまで手前にすべらせてください。

付録

- 指紋を登録する場合には、認識率向上のために次のような状態の指は避けてください。
  - ・濡れている
  - ・けがをしている
  - ・ふやけている
  - ・荒れている
  - ・汚れている
    指紋の間の汚れや異物を取り除いた状態で登録してください。
  - ・乾燥性の皮膚炎などにかかっている
- 認識率が下がったな、と思ったら次の点を確認してください。
  - ・指紋センサーの表面が汚れていないか確認する
    汚れている場合は、眼鏡ふき（クリーナークロス）などの柔らかい布で軽くふき取ってから使ってください。指紋センサー表面は強くこすらないでください。故障するおそれがあります。
  - ・指の状態を確認する
    傷や手荒れ、極端に乾燥した状態、ふやけた状態、指紋が磨耗した状態、極端に太った場合など、指紋の登録時と状態が異なると認識できない可能性があります。認識率が改善されない場合には、ほかの指での再登録をおすすめします。
  - ・指の置きかたに注意する
- その他
  - ・2本以上の指を登録することをおすすめします。うまく認識しにくい場合などは、登録しなおすか、ほかの指を登録してください。
  - ・指紋認証機能は、正しくお使いいただいた場合でも、個人差により指紋情報が少ないなどの理由で、登録・使用ができない場合があります。
  - ・指紋認証機能は、データやハードウェアの完璧な保護を保証してはおりません。本機能を利用したことによる、いかなる障害、損害に関して、いっさいの責任は負いかねますので、ご了承ください。

Windowsログオンパスワードの設定について

● パスワードがわからなくなった場合、パソコンの管理者アカウントで設定したユーザーアカウントがほかにあれば、そのアカウントでログオンしてパスワードの再登録ができます。管理者アカウントで設定したほかのユーザーアカウントがない場合は、リカバリーをしてください。リカバリーをすると、購入したあとに作成したデータなどは、すべて消失します。

参照 Windowsログオンパスワードについて『Windowsヘルプとサポート』

指紋認証のパスワード入力について

● 指紋認証に関連するシステム環境や設定が変更された場合、起動時にユーザーパスワードやHDDパスワードの入力を求められることがあります。その場合は、キーボードから各パスワードを入力してください。

2 記録メディアについて

記録メディアを使う前に、次の内容をよく読んでください。

1 使えるCDを確認しよう

CD-RW、CD-Rについて／CD-RW、CD-Rの使用推奨メーカー

- CD-RW、CD-Rに書き込む際には、《パソコンで見るマニュアル》の「パソコンの設定」にある「付録 CD／DVD／BDについて」で記録メディアの使用推奨メーカーを確認してください。
- CD-Rに書き込んだデータの消去はできません。
- CD-RWメディアは書き換え可能な記録メディアですが、「TOSHIBA Disc Creator」で書き込んだファイルを変更したり、削除したりすることはできません。
  ファイルの変更・削除が必要な場合は、まずCD-RWメディアの消去を行い、改めて必要なファイルだけを書き込んでください。
- CD-RWの消去されたデータを復元することはできません。消去の際は、記録メディアの内容を十分に確認してから行ってください。
- 書き込み可能なドライブが複数台接続されている際には、書き込み・消去する記録メディアをセットしたドライブを間違えないよう十分に注意してください。
- ハードディスクに不良セクターがあると書き込みに失敗するおそれがあります。定期的に「エラーチェック」でクラスターのチェックを行うことをおすすめします。

参照 エラーチェックの方法『Windowsヘルプとサポート』

- ドライブの構造上、記録メディアの傷、汚れ、ホコリ、チリなどにより読み出し／書き込みができなくなる場合があります。データなどを書き込む際は、記録メディアの状態をよくご確認ください。

2 使えるDVDを確認しよう

■DVD-RAMの種類

DVD-RAMにはいくつかの種類があります。本製品のドライブで使用できるDVD-RAMは次のとおりです。
カートリッジタイプの記録メディアは、カートリッジから取り出してドライブにセットしてください。両面ディスクで、読み出し／書き込みする面を変更するときは、一度ドライブから記録メディアを取り出し、裏返してセットし直してください。

○：使用できる　×：使用できない

DVD-RAMの種類	本製品の対応
カートリッジなし＊1	○
カートリッジタイプ（取り出し不可）	×
カートリッジタイプ（取り出し可能）＊2	○

＊1 一部の家庭用DVDビデオレコーダーでは再生できない場合があります。
＊2 2.6GB、5.2GBのディスクは使用できません。

DVDについて／DVDの使用推奨メーカー

- DVD-RAM、DVD-RW、DVD-R、DVD+RW、DVD+Rに書き込む際には、《パソコンで見るマニュアル》の「パソコンの設定」にある「付録 CD／DVD／BDについて」で記録メディアの使用推奨メーカーを確認してください。
- DVD-R、DVD+Rに書き込んだデータの消去はできません。
- DVD-RW、DVD+RW メディアは書き換え可能な記録メディアですが、「TOSHIBA Disc Creator」で書き込んだファイルを変更したり、削除したりすることはできません。
  ファイルの変更・削除が必要な場合は、まずDVD-RW、DVD+RWメディアの消去を行い、改めて必要なファイルだけを書き込んでください。
- DVD-RAM、DVD-RW、DVD+RWの消去されたデータを復元することはできません。消去の際は、記録メディアの内容を十分に確認してから行ってください。
- 書き込み可能なドライブが複数台接続されているときには、書き込み・消去する記録メディアをセットしたドライブを間違えないよう十分に注意してください。
- DVD-RAM、DVD-RW、DVD-R、DVD+RW、DVD+Rへの書き込みでは、ファイルの管理領域なども必要になるため、記録メディアに記載された容量分のデータを書き込めない場合があります。
- DVD-RW、DVD-Rへの書き込みでは、DVDの規格に準拠するため、書き込むデータのサイズが約1GBに満たない場合にはダミーのデータを加えて、最小1GBのデータに編集して書き込みます。
  このため、実際に書き込もうとしたデータが少ないにもかかわらず、書き込み完了までに時間がかかることがあります。
- ハードディスクに不良セクターがあると書き込みに失敗するおそれがあります。定期的に「エラーチェック」でクラスターのチェックを行うことをおすすめします。

  参照 エラーチェックの方法『Windowsヘルプとサポート』
- ドライブの構造上、記録メディアの傷、汚れ、ホコリ、チリなどにより読み出し／書き込みができなくなる場合があります。データなどを書き込むときは、記録メディアの状態をよくご確認ください。
- DVD-RAMをドライブにセットしたとき、システムがDVD-RAMを認識するまでに多少時間がかかります。

メモ

- 作成したDVDは、一部の家庭用DVDビデオレコーダーやパソコンでは再生できないこともあります。また、作成したDVD+R DLメディア、DVD-R DLメディアを再生するときは、それぞれの記録メディアの読み取りに対応している機器を使用してください。

3 使えるブルーレイディスクを確認しよう

■BD-REの種類

BD-REにはいくつかの種類があります。本製品のドライブで使用できるBD-REは次のとおりです。
カートリッジタイプの記録メディアは、使用できません。

○：使用できる　×：使用できない

BD-REの種類	本製品の対応
カートリッジなし	○
カートリッジタイプ（取り出し不可）	×

ブルーレイディスクについて／ブルーレイディスクの使用推奨メーカー

- BD-RE、BD-Rに書き込む際には、《パソコンで見るマニュアル》の「パソコンの設定」にある「付録 CD／DVD／BDについて」でメディアの使用推奨メーカーを確認してください。
- BD-Rに書き込んだデータの消去はできません。
- BD-REの消去されたデータを復元することはできません。消去の際は、メディアの内容を十分に確認してから行ってください。
- 書き込み可能なドライブが複数台接続されているときには、書き込み・消去するメディアをセットしたドライブを間違えないよう十分に注意してください。
- BD-RE、BD-Rへの書き込みでは、ファイルの管理領域なども必要になるため、記録メディアに記載された容量分のデータを書き込めない場合があります。
- ハードディスクに不良セクターがあると書き込みに失敗するおそれがあります。定期的に「エラーチェック」でクラスターのチェックを行うことをおすすめします。

  参照 エラーチェックの方法『Windowsヘルプとサポート』

- ドライブの構造上、メディアの傷、汚れ、ホコリ、チリなどにより読み出し／書き込みができなくなる場合があります。データなどを書き込むときは、メディアの状態をよくご確認ください。

メモ

- 作成したブルーレイディスクは、一部の家庭用ブルーレイディスクプレーヤー、ブルーレイディスクレコーダーやパソコンでは再生できないこともあります。

付録

4 メディアカードを使う前に

1 メディアカードの操作にあたって

- ブリッジメディア LEDが点灯中は、電源を切ったり、記録メディアを取り出したり、パソコン本体を動かしたりしないでください。データや記録メディアが壊れるおそれがあります。
- 記録メディアは無理な力を加えず、静かに挿入してください。正しくセットされていない場合、パソコンの動作が不安定になったり、記録メディアが壊れるおそれがあります。
- スリープ中は、記録メディアを取り出さないでください。データが消失するおそれがあります。
- 記録メディアのコネクタ部分（金色の部分）には触れないでください。静電気で壊れるおそれがあります。
- 記録メディアを取り出す場合は、必ずシステム上で使用停止の手順を行ってください。データが消失したり、記録メディアが壊れるおそれがあります。
- パソコン本体を持ち運ぶときは、必ずブリッジメディアスロットから記録メディアを取り出してください。ブリッジメディアスロットや記録メディアが破損するおそれがあります。

2 SDメモリカードを使う前に

- ブリッジメディアスロットにminiSDメモリカードをセットするときは、必ずSDメモリカードサイズのminiSDメモリカード用のアダプターを装着した状態で行ってください。
  microSDメモリカードをセットするときは、必ずSDメモリカードサイズのmicroSDメモリカード用のアダプターを装着した状態で行ってください。miniSDメモリカードサイズのmicroSDメモリカード用のアダプターは使用できません。
- ブリッジメディアスロットからminiSDメモリカード／microSDメモリカードを取りはずすときは、必ずminiSDメモリカードまたはmicroSDメモリカード用のアダプターに装着したままの状態で行ってください。
- すべてのSDメモリカードの動作確認は行っていません。したがって、すべてのSDメモリカードの動作保証はできません。
- SDメモリカードは、SDMIの取り決めに従って、デジタル音楽データの不正なコピーや再生を防ぐための著作権保護技術を搭載しています。
  そのため、ほかのパソコンなどで取り込んだデータが著作権保護されている場合は、本製品でコピー、再生することはできません。SDMIとはSecure Digital Music Initiativeの略で、デジタル音楽データの著作権を守るための技術仕様を決めるための団体のことです。
- 著作権保護技術CPRMを使用するには、著作権保護技術CPRMに対応しているアプリケーションが必要です。
- あなたが記録したものは、個人として楽しむなどのほかは、著作権法上、権利者に無断で使用できません。
- SDメモリカードは、デジタル音楽データの不正なコピーや再生を防ぐSDMIに準拠したデータを取り扱うことができます。メモリの一部を管理データ領域として使用するため、使用できるメモリ容量は表示の容量より少なくなっています。

3 メモリースティックを使う前に

- ブリッジメディアスロットにメモリースティック デュオ／メモリースティックPRO デュオをセットするときは、必ずメモリースティック デュオ アダプターを装着した状態で行ってください。
- ブリッジメディアスロットからメモリースティック デュオ／メモリースティックPRO デュオを取りはずすときは、必ずメモリースティック デュオ アダプターに装着したままの状態で行ってください。
- 本製品は、著作権保護技術MagicGateには対応していません。本製品では、著作権保護を必要としないデータの読み出し／書き込みのみできます。
- すべてのメモリースティックの動作確認は行っていません。したがって、すべてのメモリースティックの動作は保証できません。
- メモリースティックの詳しい使いかたなどについては『メモリースティックに付属の説明書』を確認してください。

4 xD-ピクチャーカードを使う前に

- すべてのxD-ピクチャーカードの動作確認は行っていません。したがって、すべてのxD-ピクチャーカードの動作は保証できません。
- xD-ピクチャーカードの詳しい使いかたなどについては『xD-ピクチャーカードに付属の説明書』を確認してください。

5 マルチメディアカードを使う前に

- すべてのマルチメディアカードの動作確認は行っていません。したがって、すべてのマルチメディアカードの動作は保証できません。
- マルチメディアカードの詳しい使いかたなどについては『マルチメディアカードに付属の説明書』を確認してください。

5 記録メディアの廃棄・譲渡について

記録メディア（CD、DVD、USBフラッシュメモリ、メディアカードなど）を廃棄・譲渡する際には、書き込まれたデータが流出しないよう、適切な方法で消去することをおすすめします。初期化、削除、消去などの操作などを行っても、データの復元ツールで再生できる場合もありますので、十分ご確認ください。
データ消去のための専用ソフトや、記録メディア専用のシュレッダーも販売されています。

3 技術基準適合について

「パソコンで見るマニュアル」にも技術基準適合に関する説明が記載されています。本書だけでなく、「パソコンで見るマニュアル」の記載もあわせてご確認ください。

■瞬時電圧低下について

この装置は、社団法人　電子情報技術産業協会の定めたパーソナルコンピューターの瞬時電圧低下対策のガイドラインを満足しております。しかし、ガイドラインの基準を上回る瞬時電圧低下に対しては、不都合を生じることがあります。

■高調波対策について

参照 《パソコンで見るマニュアル（検索）：技術基準適合について》

■電波障害自主規制について

参照 《パソコンで見るマニュアル（検索）：技術基準適合について》

■「FCC information」について

参照 《パソコンで見るマニュアル（検索）：技術基準適合について》

■EU Declaration of Conformityについて

CE

This product is carrying the CE-Mark in accordance with the related European Directives. Responsible for CE-Marking is TOSHIBA Europe GmbH, Hammfelddamm 8, 41460 Neuss, Germany. The complete and official EU Declaration of Conformity can be found on TOSHIBA’s web site
http://epps.toshiba-teg.com on the Internet.
http://epps.toshiba-teg.com/

CE compliance

This product is labelled with the CE Mark in accordance with the related European Directives, notably Electromagnetic Compatibility Directive 2004/108/EC for the notebook and the electronic accessories including the supplied power adapter, the Radio Equipment and Telecommunications Terminal Equipment Directive 1999/5/EC in case of implemented telecommunication accessories and the Low Voltage Directive 2006/95/EC for the supplied power adapter. Furthermore the product complies with the Ecodesign Directive 2009/125/EC (ErP) and its related implementing measures.

This product and the original options are designed to observe the related EMC (Electromagnetic Compatibility) and safety standards. However, TOSHIBA cannot guarantee that this product still observes these EMC standards if options or cables not produced by TOSHIBA are connected or implemented. In this case the persons who have connected/implemented those options/cables have to provide assurance that the system (PC plus options/cables) still fulfils the required standards.
To avoid general EMC problems, the following guidance should be noted:

- Only CE marked options should be connected/implemented
- Only best shielded cables should be connected

Working environment

This product was designed to fulfil the EMC (Electromagnetic Compatibility) requirements to be observed for so-called “Residential, commercial and light industry environments”. TOSHIBA do not approve the use of this product in working environments other than the above mentioned “Residential, commercial and light industry environments”.
For example, the following environments are not approved:

- Industrial Environments (e.g. environments where a mains voltage of 380 V three-phase is used)
- Medical Environments
- Automotive Environments
- Aircraft Environments

Any consequences resulting from the use of this product in working environments that are not approved are not the responsibility of TOSHIBA.
The consequences of the use of this product in non-approved working environments may be:

- Interference with other devices or machines in the near surrounding area.
- Malfunction of, or data loss from, this product caused by disturbances generated by other devices or machines in the near surrounding area.

Therefore TOSHIBA strongly recommend that the electromagnetic compatibility of this product should be suitably tested in all non-approved working environments before use. In the case of automobiles or aircraft, the manufacturer or airline respectively should be asked for permission before use of this product.

Furthermore, for general safety reasons, the use of this product in environments with explosive atmospheres is not permitted.

Panasonic ブルーレイディスクドライブUJ240
（ブルーレイディスクドライブ（DVDスーパーマルチ機能搭載））
安全にお使いいただくために

本装置を正しくご使用いただくために、この説明書をよくお読みください。
また、お読みになったあとは、必ず保管してください。

⚠注 意

1. 本装置はレーザーシステムを使用しています。
   本装置の定格銘板には、右記の表示がされています。
   本装置はヨーロッパ共通のレーザー規格EN60825-1で“クラス１レーザー機器”に分類されています。
   レーザー光を直接被爆することを防ぐために、この装置の筐体を開けないでください。
2. 分解および改造をしないでください。感電の原因になります。信頼性、安全性、性能の保証をすることができなくなります。
3. 本装置はある確率で読み取り誤りをおこすことがあります。従って、本装置を使用するシステムには、これらの誤りや故障に起因する二次的な損失、障害および事故を防止するために、安全性や保全性に関する十分な配慮が必要です。
   本装置の故障、取り出されたデータの誤りによって、人体への危害や物質的損害を誘発する可能性があるシステムには、本装置を使用しないでください。
4. ご使用のディスクが損傷を受けても保証はいたしません。
5. ご使用中に異常が生じた場合は、電源を切って、東芝PCあんしんサポートにご相談ください。

CLASS 1 LASER PRODUCT
LASER KLASSE 1

CAUTION	CLASS 3B VISIBLE AND INVISIBLE LASER RADIATION WHEN OPEN. AVOID EXPOSURE TO BEAM.
ATTENTION	CLASSE 3B RAYONNEMENT LASER VISIBLE ET INVISIBLE EN CAS D'OUVERTURE. EXPOSITION DANGEREUSE AU FAISCEAU.
VORSICHT	KLASSE 3B SICHTBARE UND UNSICHTBARE LASERSTRAHLUNG, WENN ABDECKUNG GEÖFFNET. NICHT DEM STRAHL AUSSETZEN.
ADVARSEL	KLASSE 3B SYNLIG OG USYNLIG LASERSTRÅLING VED ÅBNING. UNDGÅ UDS/ETTELSE FOR STRÅLING.
ADVARSEL	KLASSE 3B SYNLIG OG USYNLIG LASERSTRÅLING NÅR DEKSEL ÅPNES. UNNGÅ EKSPONERING FOR STRÅLEN.
VARNING	KLASS 3B SYNLIG OCH OSYNLIG LASERSTRÅLNING NÄR DENNA DEL ÄR ÖPPNAD. STRÅLE ÄR FARLIG.
VARO !	KURSSI 3B NÄKYVÄ JA NÄKYMÄTÖN AVATTAESSA OLET ALTTIINA LASERSÄTEILYLLE. ÄLÄ KATSO SÄTEESEN.

4 無線LANについて

1 無線LANの概要

本製品には、IEEE802.11b、IEEE802.11g、IEEE802.11nのすべて、もしくはその一部に準拠した無線LANモジュールが内蔵されています。

- 周波数チャネル選択
- マルチチャネル間のローミング
- パワーマネージメント

本書では、内蔵された無線LANモジュールの種類によって説明が異なる項目があります。使用しているパソコンに内蔵された無線LANモジュールの種類については、「2章 1-2-1 無線LANモジュールの確認」をご覧ください。

2 無線特性

無線LANの無線特性は、製品を購入した国／地域、購入した製品の種類により異なる場合があります。

多くの場合、無線通信は使用する国／地域の無線規制の対象になります。無線ネットワーク機器は、無線免許の必要ない2.4GHz帯で動作するように設計されていますが、国／地域の無線規制により無線ネットワーク機器の使用に多くの制限が課される場合があります。

<table>
<tr><th>無線周波数帯</th><td>IEEE802.11b,
IEEE802.11g,
IEEE802.11n</td><td>2.4GHz（2400-2483MHz）</td></tr>
<tr><th rowspan="3">変調方式</th><td>IEEE802.11g</td><td>直交周波数分割多重方式
OFDM-BPSK, OFDM-QPSK,
OFDM-16QAM, OFDM-64QAM</td></tr>
<tr><td>IEEE802.11b</td><td>直接拡散方式
DSSS-CCK, DSSS-DQPSK,
DSSS-DBPSK</td></tr>
<tr><td>IEEE802.11n</td><td>直交周波数分割多重方式（OFDM方式），
空間多重方式（MIMO方式）</td></tr>
</table>

無線機器の通信範囲と転送レートには相関関係があります。無線通信の転送レートが低いほど、通信範囲は広くなります。

メモ

- アンテナの近くに金属面や高密度の固体があると、無線デバイスの通信範囲に影響を及ぼすことがあります。
- 無線信号の伝送路上に無線信号を吸収または反射し得る"障害物"がある場合も、通信範囲に影響を与えます。

付録

3 サポートする周波数帯域

無線LANがサポートする2.4GHz帯のチャネルは、国／地域で適用される無線規制によって異なる場合があります（表「無線IEEE802.11 チャネルセット」参照）。

■無線IEEE802.11 チャネルセット

● 2.4GHz帯：2400～2483MHz（IEEE802.11b/g、IEEE802.11nの場合）

チャネルID	周波数
1	2412
2	2417
3	2422
4	2427
5	2432
6	2437
7	2442
8	2447
9	2452
10	2457＊1
11	2462
12	2467
13	2472

＊1 購入時に、アドホックモード接続時に使用するチャネルとして設定されているチャネルです。

4 本製品を日本でお使いの場合のご注意

日本では、本製品を第二世代小電力データ通信システムに位置付けており、その使用周波数帯は2,400MHz～2,483.5MHzです。この周波数帯は、移動体識別装置（移動体識別用構内無線局及び移動体識別用特定小電力無線局）の使用周波数帯2,427MHz～2,470.75MHzと重複しています。

■ステッカー

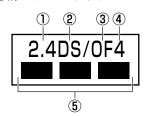
本製品を日本国内にてご使用の際には、本製品に付属されている次のステッカーをパソコン本体に貼り付けてください。

この機器の使用周波数帯は　2.4GHz帯です。この周波数では電子レンジ等の産業・科学・医療機器のほか、他の同種無線局、工場の製造ライン等で使用されている免許を要する移動体識別用 の構内無線局、免許を要しない特定小電力無線局、アマチュア 無線局等（以下「他の無線局」と略す）が運用されています。

1. この機器を使用する前に、近くで「他の無線局」が運用されていないことを確認してください。
2. 万一、この機器と「他の無線局」との間に電波干渉が発生した場合には、速やかにこの機器の使用チャンネルを変更するか、使用場所を変えるか、又は機器の運用を停止（電波の発射を停止）してください。
3. その他、電波干渉の事例が発生した場合など何かお困りのことが起きたときは、東芝PCあんしんサポートへお問い合わせください。

付録

■現品表示

本製品には、次に示す現品表示が記載されています。

① 2.4　：2,400MHz帯を使用する無線設備を表す。
② DS　：変調方式がDS-SS方式であることを示す。
③ OF　：変調方式がOFDM方式であることを示す。
④ 4　：想定される与干渉距離が40m以下であることを示す。
⑤ ■ ■ ■：2,400MHz～2,483.5MHzの全帯域を使用し、かつ移動体識別装置の帯域を回避可能であることを意味する。

■東芝PCあんしんサポート

東芝PCあんしんサポートの連絡先は、裏表紙を参照してください。

5 機器認証表示について

本製品には、電気通信事業法に基づく小電力データ通信システムの無線局として、認証を受けた無線設備を内蔵しています。したがって、本製品を使用するときに無線局の免許は必要ありません。

■Realtek b/g/nモジュールの場合

無線設備名 ：RTL8191SE
TELEFICATION B.V.
認証番号 ：D095001201

本製品に組み込まれた無線設備は、本製品（ノートブックコンピューター）に実装して使用することを前提に、小電力データ通信システムの無線局として工事設計の認証を取得しています。したがって、組み込まれた無線設備をほかの機器へ流用した場合、電波法の規定に抵触する恐れがありますので、十分にご注意ください。

6 お知らせ

無線製品の相互運用性

本製品に内蔵されている無線LANモジュールは、Direct Sequence Spread Spectrum（DSSS）／Orthogonal Frequency Division Multiplexing（OFDM）無線技術を使用するあらゆる無線LAN製品と相互運用できるように設計されており、次の規格に準拠しています。

- Institute of Electrical and Electronics Engineers（米国電気電子技術者協会）策定のIEEE802.11 Standard on Wireless LANs（Revision b/g/n）（無線LAN標準規格（版数 b/g/n））
- Wi-Fi Allianceの定義するWireless Fidelity（Wi-Fi）認証
  Wi-Fi CERTIFIEDロゴはWi-Fi Allianceの認定マークです。

健康への影響

本製品に内蔵されている無線LANモジュールは、ほかの無線製品と同様、無線周波の電磁エネルギーを放出します。しかしその放出エネルギーは、携帯電話などの無線機器と比べるとはるかに低いレベルに抑えられています。
本製品に内蔵されている無線LANモジュールの動作は無線周波に関する安全基準と勧告に記載のガイドラインにそっており、安全にお使いいただけるものと東芝では確信しております。この安全基準および勧告には、学会の共通見解と、多岐にわたる研究報告書を継続的に審査、検討している専門家の委員会による審議結果がまとめられています。
ただし周囲の状況や環境によっては、建物の所有者または組織の責任者がWireless LANの使用を制限する場合があります。次にその例を示します。

- 飛行機の中でWireless LAN装置を使用する場合
- ほかの装置類またはサービスへの電波干渉が認められるか、有害であると判断される場合

個々の組織または環境（空港など）において無線機器の使用に関する方針がよくわからない場合は、Wireless LAN装置の電源を入れる前に、個々の組織または施設環境の管理者に対して、本製品の使用可否について確認してください。

規制に関する情報

本製品に内蔵されている無線LANモジュールのインストールと使用に際しては、必ず製品付属の取扱説明書に記載されている製造元の指示に従ってください。本製品は、無線周波基準と安全基準に準拠しています。

● Canada - Industry Canada (IC)

This device complies with RSS 210 of Industry Canada.
Operation is subject to the following two conditions: (1) this device may not cause interference , and (2) this device must accept any interference, including interference that may cause undesired operation of this device.
The term "IC" before the equipment certification number only signifies that the Industry Canada technical specifications were met.

●USA - Federal Communications Commission (FCC)

This equipment has been tested and found to comply with the limits for a Class B digital device, pursuant to Part 15 of FCC Rules. These limits are designed to provide reasonable protection against harmful interference in a residential installation. This equipment generates, uses, and can radiate radio frequency energy. If not installed and used in accordance with the instructions, it may cause harmful interference to radio communications. However, there is no guarantee that interference will not occur in a particular installation.
If this equipment does cause harmful interference to radio or television reception, which can be determined by tuning the equipment off and on, the user is encouraged to try and correct the interference by one or more of the following measures:

- Reorient or relocate the receiving antenna.
- Increase the separation between the equipment and the receiver.
- Connect the equipment to outlet on a circuit different from that to which the receiver is connected.
- Consult the dealer or an experienced radio/TV technician for help.

TOSHIBA is not responsible for any radio or television interference caused by unauthorized modification of the devices included with this the Wireless LAN, or the substitution or attachment of connecting cables and equipment other than specified by TOSHIBA.
The correction of interference caused by such unauthorized modification, substitution or attachment will be the responsibility of the user.

Caution: Exposure to Radio Frequency Radiation.

The radiated output power of the Wireless LAN is far below the FCC radio frequency exposure limits. Nevertheless, the Wireless LAN shall be used in such a manner that the potential for human contact during normal operation is minimized.
In the usual operating configuration, the distance between the antenna and the user should not be less than 20cm. Please refer to the PC user’s manual for the details regarding antenna location.
The installer of this radio equipment must ensure that the antenna is located or pointed such that it does not emit RF field in excess of Health Canada limits for the general population; consult Safety Code 6, obtainable from Health Canada’s website
www.hc-sc.gc.ca/

●Europe

Restrictions for Use of 2.4GHz Frequencies in European Community Countries

België/ Belgique:	For private usage outside buildings across public grounds over less than 300m no special registration with IBPT/BIPT is required. Registration to IBPT/BIPT is required for private usage outside buildings across public grounds over more than 300m. For registration and license please contact IBPT/BIPT.
	Voor privé-gebruik buiten gebouw over publieke groud over afstand kleiner dan 300m geen registratie bij BIPT/IBPT nodig; voor gebruik over afstand groter dan 300m is wel registratie bij BIPT/IBPT nodig. Voor registratie of licentie kunt u contact opnemen met BIPT.
	Dans le cas d'une utilisation privée, à l'extérieur d'un bâtiment, au-dessus d'un espace public, aucun enregistrement n'est nécessaire pour une distance de moins de 300m. Pour une distance supérieure à 300m un enregistrement auprès de I'IBPT est requise. Pour les enregistrements et licences, veuillez contacter I'IBPT.
Deutschland:	License required for outdoor installations. Check with reseller for procedure to follow.
	Anmeldung im Outdoor-Bereich notwendig, aber nicht genehmigungspflichtig. Bitte mit Händler die Vorgehensweise abstimmen.
France:	Restricted frequency band: only channels 1 to 7 (2400 MHz and 2454 MHz respectively) may be used outdoors in France.
	Bande de fréquence restreinte : seuls les canaux 1-7 (2400 et 2454 MHz respectivement) doivent être utilisés endroits extérieur en France. Vous pouvez contacter I'Autorité de Régulation des Télécommuniations (http://www.art-telecom.fr) pour la procédure à suivre.
Italia:	License required for indoor use. Use with outdoor installations not allowed.
	E'necessaria la concessione ministeriale anche per l'uso interno. Verificare con i rivenditori la procedura da seguire.
Nederland	License required for outdoor installations. Check with reseller for procedure to follow.
	Licentie verplicht voor gebruik met buitenantennes. Neem contact op met verkoper voor juiste procedure.

To remain in conformance with European spectrum usage laws for Wireless LAN operation, the above 2.4GHz channel limitations apply for outdoor usage. The user should use the Wireless LAN utility to check the current channel of operation. If operation is occurring outside of the allowable frequencies for outdoor use, as listed above, the user must contact the applicable national spectrum regulator to request a license for outdoor operation.

●Taiwan

Article 12

Without permission granted by the DGT or NCC, any company, enterprise, or user is not allowed to change frequency, enhance transmitting power or alter original characteristic as well as performance to an approved low power radio-frequency devices.

Article 14

The low power radio-frequency devices shall not influence aircraft security and interfere legal communications;

If found, the user shall cease operating immediately until no interference is achieved.

The said legal communications means radio communications is operated in compliance with the Telecommunications Act.

The low power radio-frequency devices must be susceptible with the interference from legal communications or ISM radio wave radiated devices.

7 使用できる国／地域について

お願い

- 本製品は、次にあげる国／地域の無線規格を取得しております。これらの国／地域以外では使用できません。

アイスランド	オマーン	スイス	バーレーン	香港
アイルランド	オランダ	スウェーデン	パキスタン	マケドニア
アゼルバイジャン	ガーナ	スペイン	パナマ	マルタ
アメリカ合衆国	カザフスタン	スリランカ	パプアニューギニア	マレーシア
アラブ首長国連邦	カタール	スロバキア	パラグアイ	南アフリカ
アルゼンチン	カナダ	スロベニア	ハンガリー	メキシコ
アルバニア	韓国	セルビア	フィリピン	モザンビーク
イギリス	カンボジア	タイ	フィンランド	モナコ
イタリア	キプロス	台湾	プエルトリコ	ヨルダン
インド	ギリシャ	チェコ	フランス	ラトビア
インドネシア	キルギスタン	中国	ブルガリア	リトアニア
ウクライナ	クウェート	チリ	ベトナム	リヒテンシュタイン
ウルグアイ	クロアチア	デンマーク	ベネズエラ	ルーマニア
エクアドル	ケニア	ドイツ	ペルー	ルクセンブルク
エジプト	コスタリカ	ドミニカ	ベルギー	レバノン
エストニア	コロンビア	トルコ	ポーランド	
エルサルバドル	サウジアラビア	日本	ボスニア･ヘルツェゴビナ	
オーストラリア	シンガポール	ニュージーランド	ボリビア	
オーストリア	ジンバブエ	ノルウェー	ポルトガル	

（2010年4月現在）

- 802.11n モードではアドホック通信は使用できません。
- アドホック通信でのピアツーピア接続は、Ch1～Ch11で使用できます。
- インフラストラクチャ通信は、Ch1～Ch13で使用できます。

付録

5 TVチューナーの仕様について

＊TVチューナー内蔵モデルのみ

TVチューナーの仕様は、次のとおりです。

■地上デジタルTVチューナー

映像	TVチューナー	地上デジタルハイビジョンチューナー
	データ放送受信	地上デジタル放送
	CATV対応	全帯域（VHF/MID/SHB/UHF）
	双方向サービス	対応（LAN経由）
	字幕放送	対応
	EPG（電子番組表）	対応
アンテナ部		同軸　75ΩF型（UHF／VHF兼用）

付録

さくいん

B

C

D

E

F

H

I

L

P

R

S

T

U

W

X

ア

イ

オ

カ

キ

コ

シ

ス

セ

タ

ツ

テ

ト

ナ

ハ

ヒ

フ

ヘ

ホ

マ

ミ

ム

メ

モ

ユ

リ

ワ

T780シリーズ

平成22年8月30日　第1版発行　GX1C000TX210

発行　株式会社東芝　デジタルプロダクツ&ネットワーク社

〒105-8001 東京都港区芝浦1-1-1

この取扱説明書は植物性大豆油インキを使用しております。
この取扱説明書は再生紙を使用しております。

東芝PC総合情報サイト

http://dynabook.com/

東芝PCあんしんサポート

技術的なご質問、お問い合わせ、修理のご依頼をお受けいたします。

全国共通電話番号 **0120-97-1048** (通話料・電話サポート料無料)

おかけいただくと、ガイダンスが流れます。
ガイダンスに従ってご希望の窓口に該当する番号をプッシュしてください。

電話番号は、お間違えのないよう、ご確認の上おかけください。
海外からの電話、携帯電話、PHSまたは直収回線など回線契約によってはつながらない場合がございます。その場合はTEL 043-298-8780(通話料お客様負担)にお問い合わせください。
ご相談の内容により、別のサポート窓口をご案内する場合がございます。

技術相談窓口受付時間:9:00～19:00(年中無休)
修理相談窓口受付時間:9:00～22:00(年末年始12/31～1/3を除く)

▼インターネットで修理のお申し込み
http://dynabook.com/assistpc/repaircenter/i_repair.htm

お問い合わせの詳細につきましては、『東芝PCサポートのご案内』をご参照ください。

株式会社 東芝 デジタルプロダクツ&ネットワーク社

〒105-8001 東京都港区芝浦1-1-1

GX1C000TX210
Printed in China